

KYOTO UNIVERSITY 2009

知と自由への誘い

京都大学 大学案内 2009



知と自由への誘い

京都大学 大学案内 2009

—INDEX—

001 総長メッセージ

京都大学の教育

- 002 京都大学の教育システム
- 004 京都大学で学ぶということ
- 005 京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」
- 007 活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して
- 008 ポケット・ゼミ

京都大学の教育を支える施設

- 014 学術情報メディアセンター
- 016 図書館

さらなる飛躍を支援

- 018 国際交流
- 020 大学院進学
- 023 就職支援
- 026 ベンチャー起業

学生生活サポート

- 028 学生生活を支援する制度や施設
- 032 京都大学生生活協同組合
- 034 クラブ・サークル

学部紹介

- 038 総合人間学部
- 042 文学部
- 046 教育学部
- 050 法学部
- 054 経済学部
- 058 理学部
- 062 医学部
- 068 薬学部
- 072 工学部
- 076 農学部
- 080 教員の研究テーマ紹介

資料請求・お問い合わせ

- 096 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法
- 098 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学について

- 103 京都大学のすがた
- 104 キャンパスマップ・交通案内

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。

京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。

京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。

京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)

の誘い

総長メッセージ

京都大学を目指すみなさんへ—

京都大学総長 尾池 和夫



京都大学は、学問をおさめて21世紀の世界で活躍することをこころざす、あらゆる人びとを受け入れ、そのこころざしの実現の場を提供します。そのために、学習に安心して励むことのできる快適なキャンパスを実現するよう努力を続けています。

大学では、蓄えられた知識と知恵を受けつぐために学習を深めます。その上に大学ではさらに新しい知識をくわえていくための研究が、文字通り昼夜をわかつぐ進められています。京都大学に入学した学生のみなさんには、このような大学での活動に参加していただくことになります。そのため、学生としての生活の基盤をしっかりとため、心身を鍛え、バランスのよい感覚を身につけ、立派な社会人として通用する人になって巣立って行くまで、京都大学が学生のみなさんの活動の場となるよう、支援しながらみなさんの成長を見守っていきます。

吉田キャンパスの北と東西に高さのそろった山地があって、3方を山に囲まれた盆地にこのキャンパスがあります。豊富な地下水をたくわえ、それによって世界の人びとの集まってくる古都の文化をはぐくんできた京都盆地で、京都大学は地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。22,400人の学生たちの一員となり、入学式を迎える4月には、哲学の道のある琵琶湖疏水に沿って桜が満開になり、入学式の前後には、多くの課外活動の先輩たちがみなさんに入部を勧めることでしょう。秋には最高に美しい紅葉が、世界遺産の京都盆地をつつみます。京都大学にきた1,300名の留学生もそれを楽しみにしています。

国立大学法人京都大学が京都大学を設置し、国からの運営費交付金で教育と研究が行われています。豊かな教養と人間性、さらには強固な責任感と高い倫理性を涵養し、国際的視野とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する、という目標に向かって、多くの整備が着々と行われています。基礎研究をはじめとするさまざまな学術研究を推進するとともに、社会や経済の変化に対応することのできる幅の広い視野と総合的な判断力をそなえた人材を育てることが京都大学の目指す目標です。

京都大学の基本理念には、「京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。」また、「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」とあります。この京都大学への入学を目指して、大いに学習を深めてほしいと願っています。



京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自立性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。



京都大学の 教育システム

柔軟な教育システム

京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な形をとっています。入学者は、10の学部のうちいずれかの学部（学科）に属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。あるいは同じ学部に属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいますが、これはもともと個人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自分で自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できるような柔軟な教育システムを備えています。ここでは、学部教育から大学院教育までを辿りながら、みなさんに京都大学が提供する教育の特徴を概観しておきましょう。

全学共通教育

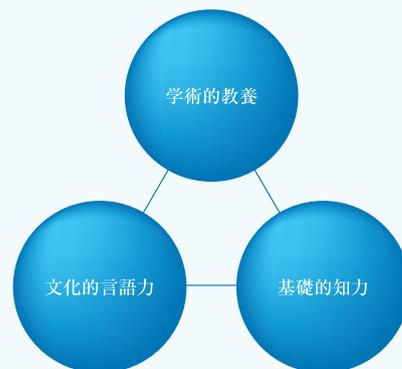
どの学部に入学者の場合も、まずは全学共通科目を受講しなくてはなりません。全学共通科目とはその名前のとおり、京都大学の全学部の学生が共通して受講する科目群をさします。この科目群は、一言でいえば教養教育をおこなうためのものです。教養教育は、専門の勉強を始め

る前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く学ぶという形をとりますが、それは単に該博な知識を得るためではありません。京都大学で考える教養教育の目的は、大きく三つに分けられます。

第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢といったものを学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問に対峙することを通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉（言語）で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを他者へ伝え表現していくことを学ぶことです。この場合の言語とは、高度な日本語運用能力はもちろんのこと、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解しようと努め、また協調的な関係を築きあげようとするのが重要です。教養教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、みなさんが社会や学術研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけでなく、見通しのつかない新たな複雑な状況において、適切に課題を分析し解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養教育の3つの目的、

すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養を、京都大学では順に、学術的教養、文化的言語力、基礎的知力と名付けています。京都大学の全学共通科目はいずれも、この3つの知を実現するために提供されているものです。



しかし、全学共通教育を履修すればこれら3つが自動的に獲得できるというものではありません。京都大学の提供する全学共通科目は、大変多様な構成となっています。専門教育といってもよいほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や他分野との関連に重きをおいた基礎論もあります。大学によっては、教養教育に期待される能力の習得をプログラム化して、入学者に一律に履修を課しているところもあります。しかし、京都大学はそのような立場をとりません。京都大学の学生は、入学当初からさきわめて専門志向の強いことが、これまでの調査から分かっています。すなわち、自分はどのような専門領域に進みたいか、明確なビジョンを持つ学生が多いのです。したがって京都大学では、

教えるべき専門的な内容を薄め技法の習得にのみ特化したような科目を提供するのではなく、最先端の知の生まれてくる現場に触れてもらい、研究者の背中を見て学んでいくことを学生に期待しています。このような教育構成の場合、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求め学問の現場に参加していく態度を身につけることが要求されます。すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。

学部での専門教育

全学共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める履修を完了した後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けるところもあります。学部の教育課程を修めたと思なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づいて決定されています。

専門教育の課程に入ったからといって、教養教育と無縁になるわけではありません。京都大学の全学共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できる構成になっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いています。この意味で京都大学の教養教育は「高度一般教育」とも呼ばれています。また、一定の条件において、専門教育に入ってからでも、他学部の専門科目も履修できる場合が多いことも、

京都大学の恵まれた条件としてここに付記しておきます。

学部によって異なりますが、専門教育では、研究室やゼミに属したり、学科や系と呼ばれる学部よりさらに専門分化した集団に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部であれ、卒業前には、各学部での学びの総決算とでもいうべきハードルがあります。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本誌の各学部のページを参照してください。

大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位（修士号、博士号）の取得をめざして大学院に進学する場合もあります。京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。いずれにしても、学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

ここでは、大学院の課程に関して紹介しましょう。まず修士課程では、学部の専門課程よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的スキルを

もつ実務家養成のための専門職大学院の課程があります。修士課程では、専門家としての第一歩を踏み出すこととなります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業者、勤務経験のある社会人も入学してくるので、学部時代よりも学生の年齢層やキャリアが多様となるでしょう。また、分野によっては留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。また、大学院では、自分でテーマを発見し学んでいくことが重要となります。すなわち、良い答えを見つけることばかりでなく、良い問いを発することも重要となるときです。修士課程修了時にも、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験という、ハードルがあります。

修士課程を修了した後、研究型大学である京都大学では博士課程にまで進学する学生が多いのが特徴です。そこでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程に在籍する間には、学会での発表や学術雑誌への論文の投稿などを行うことになり、研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に募集しそれが受給されることもあるかもしれません。このような研究の成果として、博士論文を執筆し審査に合格することで、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。





京都大学で学ぶということ

東山 紘久（教育・学生担当 副学長）

京都大学は1897年に、東京大学に続き日本で2番目に設立された大学です。首都機能のある東京ではなく、近畿という歴史文化が深く中央政府から距離を置いた土地に設けられたこともあって、自由闊達な教育と研究の学風が築かれてきました。京都大学は帝国大学としての創立当時より「自重自敬」の精神のもと、学生と教員の自主性と自律性を重んじていました。また、現在の吉田南構内にあった旧制第三高等学校も自由の気風に溢れていました。第二次世界大戦後、これら二つを母体に発足した新制の京都大学においても、それらの伝統は「自由の学風」として現在まで脈々と引き継がれています。

京都大学は総合大学すなわち university です。この言葉が示すとおり、多様性 (diversity) が統合 (unify) されている場です。それは、ひとつの小宇宙であると言ってもよいでしょう。10学部と17研究科、13の研究所と28の教育研究施設において、2万2,400人の学生と2,800人以上の教員、2,500人以上の事務・技術職員が、人類知のあらゆる分野にわたり、研究と教育に関わる活動をおこなっています。

京都大学は大学の類型からいえば「研究型大学」に分類されます。10の学部はいずれもその上位学位課程、すなわち修士号や博士号取得のための大学院教育課程を備えています。(注1) また、独立研究科と呼ばれる大学院のみの課程はもちろんのこと、研究所やセンターが提供する大学院協力講座もあり、各分野の最先端の研究と深く関連した教育が行われることが、京都大学の特徴です。さらには、研究者養成のためのだけでなく、現代社会で要求される高度な専門的職業に関する能力と知識をもった高度専門職業人を育てるための専門職大学院も設置され、総合大学ならではの多様性を持っています。こうした活動を、創立以来蓄積されてきた図書館の蔵書、博物館の収蔵品、さらには電子メディアネットワーク

などの情報基盤が背後から支えています。

このような恵まれた環境から生み出される研究は、世界的にもトップレベルを誇っています。物理学、化学、医学生理学の分野で5人のノーベル賞受賞者を輩出したことは言うに及ばず、数学のフィールズ賞をはじめ、多くの研究者が学術上の顕彰を受けてきました。数多く発表されている世界大学ランキングにおいても、京都大学は数千におよぶ世界の大学の中でも20位~30位(上位1%内)に安定して位置し続けています。また、哲学や文学、教育学などの人文科学諸分野での京都学派の伝統、人類学や生態学、地域研究分野でのフィールドワークの伝統など、日本や世界の学問に与えた影響は実に大きなものがあります。さらに、第二次世界大戦前に思想や言論統制の厳しさが増す中、法学部の教員と学生が中心となって学問の自由を死守しようとした、「瀧川事件(京大事件)」に象徴されるように、常に研究・教育の自主性と自律性を重んじてきました。

京都大学が、京都という恵まれた土地にあることも大きな財産です。新入生に京都大学を選んだ理由を尋ねると、「自由の学風」と「研究教育の卓越性」のほかに、京都という土地への憧れも上位に上がってきます。京都には1,200年以上にわたって先人たちが築き上げてきた、有形無形の文化があるばかりでなく、先人たちが守ってきた山紫水明の自然環境もあります。かつて哲学者の西田幾多郎博士が散策し思索したこと、鹿ヶ谷の疎水辺りの小径が「哲学の道」と名付けられたように、京都に残る自然や数多くの文化財は、私たちの内的な対話と探求を支えてくれるものとなるでしょう。キャンパス内でも11の施設が登録有形文化財となっています。

京都大学の主なキャンパスは、吉田、桂、宇治の3つに大きく分かれています。が、学士教育課程(学部)の段階では、教養教育(全学共通教育)も学部専門教育も吉田キャンパスを中心に行われ、ひ

とつのキャンパスで連続して学べることも大きな魅力です。下宿する学生のほとんどは自転車で通学できる範囲内に居住することになりますが、このことは授業時間以外でも学生間の親密な交流を可能にしています。また京都には多くの大学が存在するので、他大学の学生との交流も期待できます。

大学での学びの場は、授業ばかりではありません。クラブ・サークル活動といった課外活動にも、あるいは教職員や先輩同輩との交流にも、人格や人間性を陶冶していく大変重要な役割があります。京都大学には現在150を超えるスポーツ、文化に関する全学公認団体があり、大学はその活動と運営を施設や資金面で支援しています。また学生の主体的な学びと探求をサポートする施設も充実しています。学生が自己を探索し作り上げていくことを個別に親身になって支援するカウンセリングセンターは、国内の大学随一の充実度を誇っています。就職を支援するキャリアサポートも充実しています。また、大学の成員が不当に不利益を被ることなく、真に自由で人間的な関係を築き保てるために、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントの防止と対策にも力を入れています。

創立以来受け継がれてきた「自由の学風」を堅持していくことは、実はたやすいことではありません。自由を守り通していくためには、自律と責任、自発性と自己管理が必要だからです。京都大学で学び研究するということは、そうした自分への厳しさを引き受けることでもあります。みなさんもこれからぜひ、類まれなる教育・研究の環境をもつ京都大学で学び研究し、この大学の伝統をともに創り上げていくプロセスに参加されることを期待します。

(注1) 現在は大学院重点化により、大学院のほうが京都大学の主体となり、そこが学部教育も提供するという形になっています。

京都大学の 教養教育を担う 「全学共通科目」

「自由の学風」を尊重しつつ、
真に学生の力を発揮できる教養教育を提供するために

全学共通教育の実施体制と 全学共通科目の特徴

京都大学の全学共通教育（教養教育）は、主として「全学共通科目」によって具現化されています。

全学共通教育は大学院人間・環境学研究科及び大学院理学研究科を実施責任部局、その他の研究科・研究所・センター等を実施協力部局と位置づけ、全学あげて取り組むという、他大学には例のない特徴的な体制で実施しています。全学共通教育の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では各部局から提供される科目について、実施責任部局及び各研究科等の教員が参画する全学共通教育システム委員会のもとに設置された4つの専門委員会と11の科目部会

において、カリキュラムの設計や科目審査を行い、基礎から応用、高度な内容まで多様で特色ある科目を提供しています。

A 群科目（人文・社会科学系科目）

A 群科目は、哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学、複合の各系列に区分されています。その授業形態は講義とそれに関する少人数の授業である基礎ゼミナール（講読・実習などを含む）に大別され、科目数も300を超えるヴァリエーションに富んだ内容となっています。これらの科目は、人間の興味・関心は多様であるという前提に基づいて保持されており、京都大学のA 群科目の大きな特徴にもなっています。

B 群科目（自然科学系科目）

B 群科目には、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学及び複数領域にわたる応用的な講義・実験・実習科目が提供されています。

これらの科目には、理系の基礎科目やより高度な内容の科目のほか、文系学生を対象とする教養科目等があります。

C 群科目（外国語科目）

C 群科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語（留学生用）の10ヶ国語があります。

外国語教育においては、学術的教養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の養成にも努めています。また、英語では「自律学習型CALL」を活用した授業を大規模に導入しており、今後、他の外国語を含めCALLを活用した授業がさらに充実するよう取り組んでいます。

D 群科目（保健体育科目）

D 群科目は、スポーツ実習と運動や健康に関する講義で構成されています。社会的交流

全学共通科目（教養科目）

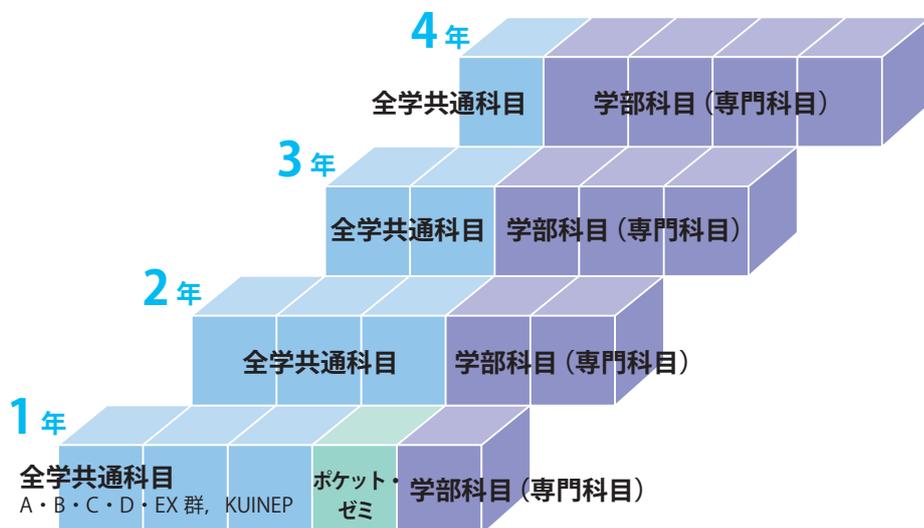
平成20年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から963科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

- A 群（哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学等の系列科目）：365 科目
- B 群（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目）：386 科目
- C 群（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語〔留学生対象〕）：89 科目
- D 群（スポーツ実習等）：8 科目
- 複数群：115 科目
- EX 群（大学コンソーシアム京都単位互換科目）：24 科目

[全学共通科目について詳しく知るには]
高等教育研究開発推進機構
教育推進部共通教育推進課
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

学部科目（専門科目）

学部科目（専門科目）は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。
* 学部の専門科目については、学部紹介のページをご覧ください。





技能の養成，スポーツ動作の技能向上，体力・健康作りを目的とするスポーツ実習では，ソフトボール・サッカー・テニス・バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・フィットネス・二軸動作等を開講しています。講義では，身体や神経科学に関する学術的知識を学び，心身ともに健康で豊かな生涯を送る知恵や教養を身につける内容となっています。

EX 群科目（大学コンソーシアム京都 単位互換科目）

EX 群科目は，大学コンソーシアム京都に加盟する大学が単位互換科目として提供する科目のうち，「美術」，「芸術」，「芸能」の各分野の中から本学が指定する科目のことをいいます。

※特色ある全学共通科目として，次の3種類の科目が開講されています。これらも授業内容によりA～Dの各群に分類されます。

新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）

新入生向け少人数セミナーは，新入生に学問へのモチベーションを与えることを目的として，1回生の前期のみ本学専任教員が様々な形態で行う授業です。10名程度の少人数という親密な人間関係の中で教員との対話を重視する授業は，学生と教員の双方から高い評価を得ています。（平成20年度は，144科目を開講）

各学部の特徴あるポケット・ゼミの内容を，8ページから13ページに紹介しています。

全学共通科目の科目選択から単位認定まで（平成20年度前期の例）

原則として，前期・後期ごとに授業を完結するセメスター制を実施しています。



国際教育プログラム（KUINEP）

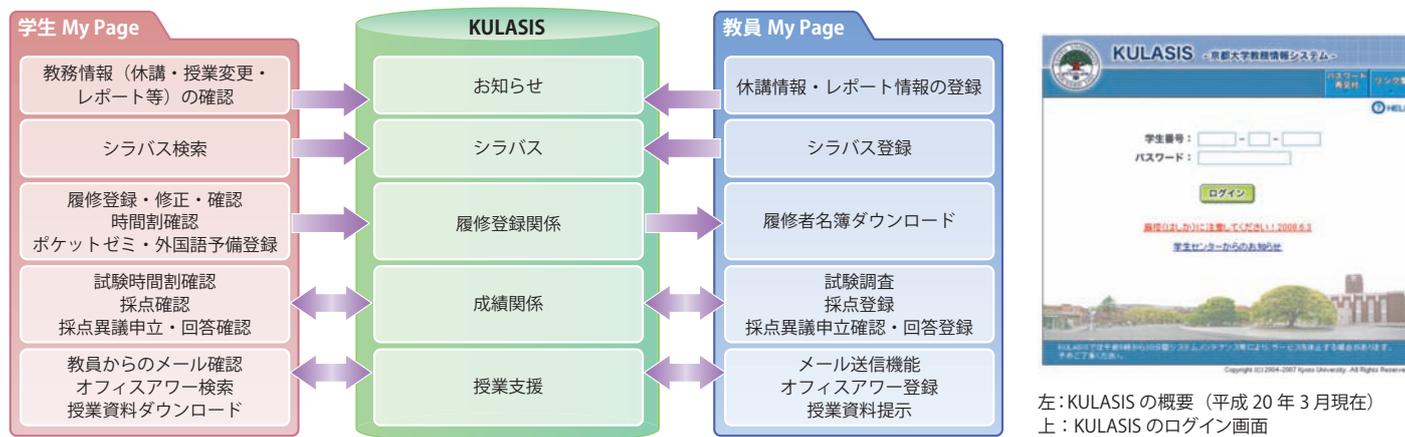
国際教育プログラムは，京都大学と海外の大学との学生交流協定の一環として，海外の協定校から迎えた留学生と本学の学生を対象に学際的・先端的なテーマを英語で行う授業です。（平成20年度は，24科目を開講）

国際交流科目

国際交流科目は，海外でのフィールド研修や外国の大学での授業を通じて現地の自然，政治，経済，文化，歴史などを学ぶことを目的としている授業です。これまでにタイ・中国（上海）・韓国・ベトナムで実施されています。（平成20年度は，4科目を開講）

活力ある教育の場の形成と、 環境の充実を目指して

学生と教職員が一緒になって学び嬉々として熱中する場（Field）を提供



左: KULASIS の概要（平成 20 年 3 月現在）
上: KULASIS のログイン画面

新入生向けガイダンスの実施

高等教育研究開発推進機構では、全学部の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個人々の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介します。さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される多様な全学共通（教養）科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行い、学生の自律的な学習を促しています。



KULASIS

KULASIS（クラスリス）とは、全学共通科目のあらゆる情報を Web 化することにより、より早く正確な情報伝達及び学生・教員への支援やサービスの充実を目指し、高等教育研究開発推進機構で開発しているシステム

の名称です。

学生はパソコン・携帯電話から学内外を問わず、教務情報（休講・授業変更・レポート等）の確認・履修登録・採点確認等の機能を利用することができます。ログイン件数は多い日には 10,000 件を越え、全学共通科目を履修するためには必要不可欠なものとなっています。

また、学部専門課程や大学院でも利用できるよう KULASIS の機能拡充を進めています。

Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に設置しています。10 時から 19 時までの開室時間に多くの学生が来室しています。



[写真] Student Research Room の様子

吉田南構内の学習・教育環境の整備

全学共通教育が主に行われている吉田南構内では、年間約 9,000 人の学生が授業を受け、1,000 人以上の教員が授業を担当しています。高等教育研究開発推進機構では、甲子園の約 5.7 倍の広さを持つ構内の教育環境整備や安全に配慮した歩行者と車のゾーニングを図るとともに、自習室やリフレッシュコーナーの設置等、学生が自主的に学習でき快適に過ごせる空間を提供しています。また、学生の課外活動へも積極的に支援しています。



[写真] 吉田南総合館 館内

ポケット・ゼミ

ポケット・ゼミ。 それは京大ならではの「少人数教育」 教育の原点である人間と人間の触れ合いの機会

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）という授業科目を開設しています。ポケット・ゼミは、入学直後の新入生の希望者を対象に、全学の教員がボランティアとして実施する授業で、原則として10人程度の少人数単位で前期に実施され、大学とはどういうところか、学問をするとはどういうことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接に学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都大学そのものへの入門」の授業として機能しています。最近では140余りの科目が提供され、1,200人近くの学生（全新生の40%以上）が受講しています。

ポケット・ゼミは本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少人数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。

右のページでポケット・ゼミの内容の一部を紹介しています。



受講学生アンケート調査の結果

〔「新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）の現状と課題 — 平成15年度アンケート調査報告 —」、京都大学高等教育研究開発推進機構、平成16年3月発行より抜粋〕

Q.全体として、少人数セミナーの授業に満足していますか？



Q.少人数形式の授業のよかった点



Q.自由記述の意見

最先端の研究内容に触れることができ、大学生活のSTARTによい刺激となった。

新鮮な気持ちで授業を受けることが出来ました。

ゼミを通じて、学部の枠を超えて友人を作ることができました。

教員と直接話が出来たり、その場で質問できたり、とても意義のある面白い取組でした。

とにかくおもしろくて楽しかったです。ぜひ今後も続けてください。

自分の専門以外の全く違う分野の理解を深めることができました。

入学して直ぐに、ゼミに参加できるのはとても有意義なことだと思う。

受け身ではなく、自分で能動的に学習する方法を身に付けることができました。

フィールドワークという貴重な体験ができ勉強になりました。



フィールドワークにふれる

京都大学は探検大学の異名をもつ。昔からさまざまな研究領域でフィールドワークを活発に進め、数々の国内・海外学術踏査を行ってきたからだ。その中には学生みずからの企画によるものもある。私の専門は水圏の化学研究であり、野外調査によく出かける。たとえ同じ場所であっても、訪れるそのときによって湖や河川はさまざまに異なる姿を見せてくれる。その変化に驚かされることも多い。水や大地に触れながら調査をしていると、まさに自然を科学しているのだと感じさせられる。このポケットゼミでは、そうしたフィールドワークの一端に触れ、野外で

う研究の楽しさと面白さ、そして難しさを実感してもらいたいと思っている。

ゼミで何をやるか。最終的な目標は、大学の近くを流れる鴨川で24時間の水質連続観測を行って、水質は時間とともにどのように変化するのか、それはなぜか、を明らかにすることだ。人間や動植物の生活リズムに対応し、24時間のうちで水質は大きく変化するのかもしれない。あるいは、一日中全く同じかもしれない。貴船や大原の野や里、比叡や大文字の山々からの水を集め、京都市街を南北に流れる都市型河川の鴨川が、どのような水質の姿をもつのか、いかなる変容を見せるのか。実際に自分たちの手で測定し解析して、それをもとに考えたい。

みずから学び、計画し、実行する

どのような水質項目をはかるべきか、それはどのようにしてはかることができるのか、その水質の変化は何を意味するのか。まずはそれを考え学ばなくてはならない。

鴨川のどこで、いつ調査するのか、どのような分担と体制で24時間観測を行い水質分析を進めるのか。次にはこのことについて考え、相談する。

得られた結果をどのように纏め、どう解

釈するのか。最後にはこれについて知恵を絞り、議論を重ね、結論を導き出す。

学生みずからが考え、学び、計画を練り、実行し、結果を解析する。ゼミではそうすることに努めたい。私はただ助言し支援する。そんな存在に徹したい。そうしてこそ、「自重自敬」、「自学自習」を重んじる京都大学の扉を開いた新進の徒の「学び」にふさわしい。



地球環境学堂

(人間・環境学研究所, 総合人間学部)

杉山雅人 教授

専門分野:水圏化学, 河川や湖における物質循環過程の研究

ポケット・ゼミ

文学部

「失われた言葉の復元」

テーマと目的

言語の起源は人類の誕生とともにあったと考えられるが、文字の歴史は言語の歴史に比べると、はるかに短い。人類の祖先であるホモ・サピエンスがこの地球上に現れたのは、今から30万~20万年前のものと推定されている。これに対して、最初の文字の発祥の地であるメソポタミアにおいてシュメール楔形文字が粘土板に刻まれたのは紀元前4千年紀のことにすぎない。この授業では、古代文字とその背後にある言語の組織がどのようにして解読されたのか、および文字がつくられる以前の言語の先史がどのような方法で復元されるのかについて、具体的な事例をあげながら考える。



解読への挑戦

未知の文字あるいは失われた言語を解き明かしたいという欲求は、多くの人々の心をとらえ、解読への挑戦はいまなお世界中で続けられている。シャンポリオンがエジプト象形文字を解

読した経緯、ローリンソンが岩壁に刻まれた楔形文字を書き写したときのエピソードなどの劇的な話のなかでは、ややもすれば解読者の鋭い直感やむしろ偶然に見つかった鍵ばかりが強調されがちである。しかしながら、未解読文字の研究は体系的に、そして根気強く続けていかねばならない。なぜなら確実に明らかにされた部分を積み重ねていくことによって、はじめて全体像の解明に到達することができるからである。それでは、解読者が用いる科学的な方法とはどのようなものであろうか。

記録以前の言語の復元

地球上には多くのさまざまな言語が使われている。言語間の系統関係を決定するためには文献記録が重要な役割を果たすが、文字が発明されるはるか以前に、すでに世界のさまざまな地域に多種多様な民族が拡散していったために、彼らの言語は互いに伝達不可能になった。その結果、それぞれの言語の先史や言語相互の歴史的関係は不明瞭になってしまった。したがって、どれほど古い時代の文献記録であっても、そこに書き残されている言語は変化の結果にすぎず、その文献記録からだけではその言語の先史を復元する

ことは困難である。

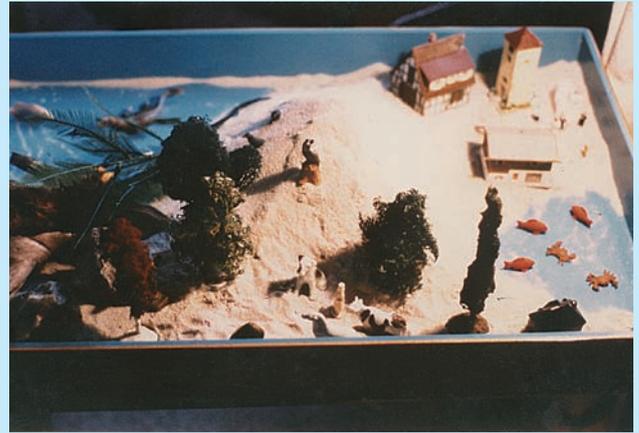
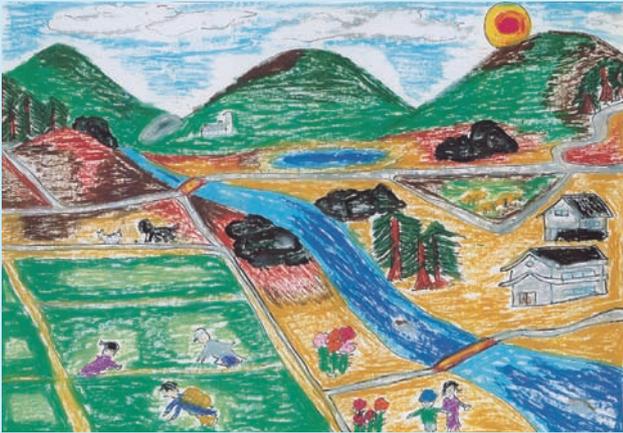
しかしながら、個々の言語が記録される以前の姿や言語間の系統関係を明らかにすることを可能にする科学的な方法がある。ひとつは比較法とよばれるもので、もし比較方法が確立されていなかったなら、記録以前の言語の先史の復元はほとんど不可能といえるであろう。また比較法とは別に、先史を部分的に復元するもうひとつの方法として内的再建法がある。これらの2つの言語学的方法がどのようなものか、具体的なデータを分析しながら、考えてみたい。



文学研究科

吉田和彦 教授

専門分野:歴史比較言語学



無意識と言っても、一般の人には何のことはほとんど理解できないことでしょう。人間の心には、意識と無意識が存在するとある心理学の教科書には書かれていますが、そのことを読むと、いっそう何のことも分からなくなるでしょう。このポケットゼミでは、言葉の意味での無意識を考えるのではなく、心理療法という実践を通じて人間の心の動きを感じてもらおう機会を与えることを目標としています。日々の生活で悩み、苦しんでいる人たちが何らかの症状に襲われている人たちの回復の過程を知ることで、人間の心にある無意識

と意識の関係の不思議に気づかされます。

また、自分の心を顧みること、今まで自分が気づけなかった心理に気づかされることもあるでしょう。そんな簡単には自分の心理や、まして他者の心理を知ることはできませんが、このゼミで、臨床心理学での心理療法とはどのようなものなのかの知り手がかりになることを期待します。また、心理療法で用いる技法である描画や箱庭を実際に体験することにより、自分の心の動きを静かに見つめてみることも意味があると思われま

講義を通して、受講者たちがじっくりと学び考えることを望みます。また3日間とはいえ、私はこのポケットゼミが持つ守りと集中力で通常の授業では得ることができない講義を目指します。

(掲載の絵と箱庭は、筆者作成)

教育学研究科

角野善宏 准教授

専門分野：心理療法・精神医学

ポケット・ゼミ

「ロマン主義と現代」

法学部

ポケットゼミは、入学したばかりの1回生に大学で学ぶ学問の面白さを伝えることが任務です。また、受講生もあらゆる学部の学生を対象にしています。大学で学ぶ学問の目的は、分野毎に必要なとされる多くの知識を獲得することではなく、自分で考える能力を身につけることにあります。この能力は、分野を越えて大学生に最終的に求められているものです。私は法学部で政治思想史の授業を担当しています。専門科目としての政治思想史は、政治学関係の様々な授業の基礎となる原理的な知識を歴史的に考察する分野ですが、私はポケットゼミでは政治学の基礎分野というよりは、歴史学の一分野でもある政治思想史の面白さを知ってもらおうと考えました。歴史学の面白さとは、時代によって人間の感じ方、考え方がいかに異なっているかに驚き、そして現代もまた変遷を経てきた歴史のひとこまでしかなくないことに思いを致すことです。このような感受性を自分のなかに育むことは、過去を理解することのみならず、同時代にあっても異文化はもとより、およそ他者を理解する上で不可欠です。この課題に応えるために、私は「ロマン主義と現代」というテーマを選びました。

19世紀前半のヨーロッパを風靡したロマ

ン主義は、メルヘンチックな世界に遊ぶことを夢見る子供じみた思想ではありません。それは、自己と自己を取り巻く世界や他者との関係に障害が生じたときに歴史上しばしば現れる精神状態の反映であり、19世紀ロマン主義もそのひとつの現れにすぎません。したがって、ロマン主義は、豊かな物質文明を享受しているにもかかわらず、どこか精神的に満たされないものを感じている私たち現代人にとっても無縁ではないはずです。このポケットゼミでは、芸術、哲学、政治思想を横断しつつ、ロマン主義が現代にもっている意味を各自に考えてもらうことが目的です。授業では、美術作品を見て、音楽作品を聞き、また短い小説を読むなかで、まずなによりも時代の変化を受講生に感じ取ってもらいながら、その上で自由に議論をしてもらう作業を通じて、自分を振り返るとともに他者を理解するための豊かな感受性を養ってもらいたいと考えています。

具体的には、以下の順番で、ロマン主義が現代にまでどのように受け継がれてきたかを見ていきます。1. マニエリスムvs. 古典主義、2. バロック様式からロココ様式へー感情の覚醒、3. 前ロマン主義ー「疾風怒濤」から古典主義へ、4. ロマン主義(1)ー内面の探求、

5. ロマン主義(2)ー民族精神の発見、6. ロマン主義(3)ーブルジョア的様式としてのピーターマイヤー、7. 後期ロマン主義ー内面性から匿名性へ、8. 「世紀末」の苦悩ー言語の解体、9. 遅れて来たロマン主義者ー「市民」vs. 「芸術家」、10. 表現主義ー混沌から新たな秩序へ、11. 実存主義ー自我の相克、12. オタクの時代ー現代のロマン主義者？



公共政策大学院

小野紀明 教授

専門分野：西洋政治思想史

現在、経営者は「株主重視」という立場から経営を行っています。つまりその企業に投資している株主達の利益が最大になるように行動しなければなりません。株主はその企業の株式を購入する(=投資する)際に、期待しているリターンを持っています。経営者はこの株主の期待に応えねばならないのです。経営者から見れば、その株主の期待リターンが株式発行して得た資金の「資本コスト」となるわけです。

この考えを基本にして、経営者は資金を効率的に配分して利益を得ることを考えなければなりません。複数のプロジェクトの候補の中からどのプロジェクトを選択すべきかと言い換えてもよいでしょう。「資本コスト」を頭に置いて、そのプロジェクトを評価する必要があります。さらに利益が得られた場合に、どのようにその利益を株主に分配すべきかを考えなければなりません。

このようにコーポレートファイナンスは、「資金の流れ」を通じて、株主の立場から企業活動について考えます。テクニカルな用語を使えば、現在価値(Present Value)、割引キャッシュフロー法(Discounted Cash Flow Method)、リスクプレミアム、CAPM(Capital Asset Pricing Model)、MM理



論、最適資本構成などをマスターする必要があります。

こう書くとなしそうですが、もっと素朴に「どのように企業社会が動いているか?」「どのような仕組みに基づいて企業活動が行われているか?」あるいは「企業の目的は何か?」と問われるかもしれません。そのよう

な問いに体系的に理論的に答えるのが、この「コーポレートファイナンス」です。

経済学研究科

江上雅彦 准教授

専門分野:ファイナンス工学

ポケット・ゼミ

「海と気候の科学」

理学部



「知識の習得」が教育上極めて重要であることは論を待たない。そのため、段階的かつ合理的に知識を学べるよう専門に応じてカリキュラムが生まれ、近年では従前と比較にならないほど、そのお膳立てともいべき詳しいシラバスが配布されるなど改善された。注意すべきは、「知識を得る(極論すれば暗記する)」ことに慣れすぎると、「知」そのものを探求するのではなく、試験にパスするためのだけの知識の獲得(例えば、ネット等の便利な手段を駆使した「知のありか」の安直な探索だけ)に終始し、結果的に本学の建学の精神である「知の創造」の軽視につながりかねない。

このような思いから、入学後の早い段階より教員の研究現場に接し、知識の獲得よりも「知の産出の場面や経緯を科学する」ことに重点をおいた自学自習重視型のポケット・ゼミを引き受けるようになった。専門は海洋物理学で、残念ながら、海を実見したことはあっても、海洋物理とはどんな学問かを知る人は極めて少ない。そもそもマイナーな受験科目である地学(地球科学)を学んだ人すら数少ない。加えて、地学のメジャーな分野である気象学や地震学に比べ、海洋はマイナーな分野である。それなら、逆手にとって、マイナーな海(?)が気候にどれだけ大きな影響を与えているのか、先達が発見した科学を資料等で追体験的にフォローアップし、「ええ?」→「なるほど」という流れで、「科学する」過程を学ぶには好都合ではなからうかと考えた。意外性があれば授業は印象的になる。

海洋分野にこの種の題材は結構多い。一例をあげると、モンスーンのような季節変動、それより時間スケールの長いエルニー

ニョ現象、はては千年万年スケールの長期気候変化に、海洋はとてつもなく大きな影響を与えている。その中から、初心者には意外と思えるテーマを取り上げ、いくつかの事実や法則から一緒に解読作業を行うようにしている。例えば、真水が凍る場合と海水が凍る場合の違いを考えつつ、海水が2000m以深の深層に沈みこむのには、絶対に沈まない海水の手助けが必要であること、そのような沈み込みによって生じる深層循環が数千年をかけて世界海洋をめぐり、長期の気候の変化や好漁場等を定める一大要因であるという事実を連環的に討論しつつ、海と気候システムの過去の研究を再訪し、先達は何を考え、何に着目したのかという、知の発見の経緯を学び、少しでも探求する技法が身に付くよう志している。なお、外国人研究者の訪問があれば、ポケゼミ現場に同席していただき、経験談や他国の教育事情も話していただくなど、できるだけ通常の授業とは一味異なるようにしている。

理学研究科地球惑星科学専攻

淡路敏之 教授

専門分野:海洋物理学

授業のテーマと目的

次世代へ伝達する遺伝情報の総体である「ゲノム」の全配列が、ヒトを含めさまざまな生き物で明らかになってきています。そして、このゲノム解読は医学・医療に大きな変革をもたらしつつあります。

ゲノム医学は、遺伝学・人類遺伝学から基礎医学、臨床医学、疫学調査、統計学さらには生命倫理までのさまざまな分野が融合された研究領域です。領域の境界をまたがる研究について学ぶことで、多角的な視野を学ぶことを目的としています。

授業計画と内容

最初の数回はゲノム医学を学ぶ上で必要な知識についての講義を中心としますが、それ以降は議論の比重を高くしていきます。文系理系を問わず、さまざまな学部からの参加者がいることが本ゼミの特徴ですので、それぞれの学生の興味のあるトピックや内容について、資料を提供しながら議論していきます。さらに、希望者には分子生物学の実験や疫学調査の実際にも触れる機会を設けます。



医学研究科ゲノム医学センター
松田文彦 教授
専門分野:疾患ゲノム疫学解析

医学研究科ゲノム医学センター
角谷 寛 准教授
専門分野:疾患ゲノム疫学解析

ポケット・ゼミ

「薬づくりにおける生命科学の役割 The Role of Life Science in Drug Discovery」

授業のテーマと目的

薬づくり(医薬品開発)における生命科学の役割について考える。



授業計画と内容

分子生理学, 生化学・免疫学, ウイルス学, 分子生物学, 分子薬理学等を専門とする薬学系教員が、それぞれの専門分野の立場から、薬づくり(医薬品開発)における生命科学の役割について解説する。

担当教員

所属部局	職名	氏名	分野名
薬学研究科	教授	中山和久	生体情報制御学
薬学研究科	教授	竹島 浩	生体分子認識学
薬学研究科	准教授	渡部好彦	分子微生物学
薬学研究科	講師	三宅 歩	遺伝子薬学
薬学研究科	准教授	中川貴之	生体機能解析学

日本はものづくり立国である、日本のものづくり技術のレベルの高さは世界に誇るものであり、日本の産業の国際的競争力を支える基礎である——という話はテレビや新聞などでもよく耳にすることと思います。多くの場合そのような話のあとに、現在日本のものづくり産業は、アジア諸国をはじめとする安価な労働力を持つ国々との熾烈な競争のもとにある、今こそ日本人はものづくりの重要性を再認識すべきである——という類の話が続きます。このような話自体は、分野によって多少の違いはあるでしょうが、大筋でその通りと言ってよいと思います。でも、ちょっと改めて考えてみると、ものづくり技術というのは「具体的には」どのような技術なのでしょう？ 日本のものづくり技術のレベルが高い、というのは日本のメーカの例えばどういうところが優れているの？と訊ねられたら、あなたはきちんと答えることができますか？

例えば芸術家がノミや彫刻刀で彫像をつくる——こういう技術の高さは我々にも容易に理解することができます。でも、我々の日常にあふれる大量生産品のものづくりの大部分は、機械によって行われます。機械を動かすのは、多くの場合コンピュータです。

機械とコンピュータによって行われるものづくりのなかで、その技術の高さというのは一体どういうものなのでしょう？ コンピュータというのは、同じプログラムを使えば誰でも同じことができるのではないですか？

本ゼミでは、身の回りにあふれる工業製品の機械要素のひとつを題材に取り、コンピュータを前提とした設計、生産という一連のものづくりの流れを体験してもらうことを目的としています。2008年度は、小型のファン(風車)を題材とし、風力発電に適したファンを製作するという課題に取り組みました。ファンは何故回るのか？というところからスタートし、よく回るファンを設計するというのはいかようにするのか？を簡単な実験も交えながら考えていきます。さらに、最近数年で急速に日本のものづくり産業への普及が進んだ3次元CAD、3次元CAMと呼ばれるソフトウェアを使って、ファンの作図、加工のためのプログラム作りをします。最後に、コンピュータ制御の小型の工作機械を用いて、実際に加工し、狙い通りによく回るファンができたかどうか、評価を行います。

コンピュータ技術を前提とした現代のもの

のづくりというものがどういうものなのか、ゼミで行うことはそのとても簡単な一例ではありますが、一連の流れを実際に体験して考えてもらう、というのがこのゼミの目的です。優れたものづくりのためには、様々な工学的分野に関する知識と共に、知識を基本とした発想が大事です。エンジニアリングとは、そういう意味でもとてもクリエイティブな仕事だと思っています。そういう面白さみたいなものも感じてもらえるといいなと思います。



工学研究科マイクロエンジニアリング専攻
松原 厚 教授
茨木創一 准教授
専門分野:機械加工, 工作機械, 制御・計測

ポケット・ゼミ

「食料・エネルギー・環境問題に挑戦する工学」

農学部



現在まで農業はその時代の最先端技術を使って行われてきました。人類が生存してゆくためには、環境に配慮した食料とエネルギーの確保が最重要課題です。この難しい問題に最先端の技術を使って取り組んでいる研究を紹介すると共に、解決方法を討議することによって、食料、エネルギー、環境に関わる幅広い知識を育成することを目的とします。

本課題は非常に重要であるがために、多くの研究分野の研究者、技術者と多面的に取り組む必要があります。本ゼミでは、農学研究科地域環境科学専攻の食料・エネルギー系の研究分野の教員が色々な角度から取り組んで

いる実例を紹介します。まず、農業システム工学分野(中嶋准教授他)からは、「農業システム工学によるアプローチ」のテーマで、マイクロ波送電による農業機械の電気駆動、農作業の最適化のためのモデル手法、企業経営評価、テラメカニクスと食料問題などが議論され、システム工学の農業への応用の現状が紹介されます。続いて、フィールドロボティクス分野(梅田教授他)からは、「精密農業とは何か?——環境保全と食料生産の両立——」のテーマで、人工衛星、農業ロボット等最新技術を使った環境に配慮した農業生産の研究の現状ならびに、細胞力学、肥料や種子の可変量制御技術などを紹介し、履修学生と共に今後の農業について討議を行います。さらに、農産加工学分野(近藤教授他)からは、「農産物の非破壊計測と施設内生物生産」のテーマで、果実や茎葉の光学的性質、色のしくみ、電磁波による応答等、植物の基礎的な物理的特性ならびに非破壊計測技術等を学びます。また、閉空間内生物生産制御、被子植物と昆虫との共進化等、食料生産や環境に関わる幅広い知識も身につけます。

履修学生による調査とその発表

農学および工学に関わる色々な基礎的

知識を学ぶと同時に、2~3週間の間、農業、食料、食品などに関することを自分たちの力で調査し、それを発表することを試みます。

平成20年度は、現在大きな社会問題になっている「食と農の安心・安全に関わる調査」を生産、流通、消費の各ステージ(JA、競り、小売店等)で行います。さらに、各自が調査した結果、考察に関して、パワーポイントを用いて発表し、議論します。これにより、履修学生のプレゼン能力、コミュニケーション能力、および問題解決能力を養うこともなっています。



トレーサビリティに貢献する選果ロボット

農学研究科地域環境科学専攻
近藤 直 教授
専門分野:農産加工学

学術情報メディアセンター

ダイナミックに変化する情報環境において、実社会で即戦力となる人材の育成と、情報関係の基礎技術の教育に取り組んでいます。

【教育における学術情報メディアセンターの役割】

全学共通科目の語学教育と情報教育をセンターの計算機環境を利用して行っています。



全学共通教育における役割

学術情報メディアセンターでは、京都大学におけるさまざまな教育研究活動を支えるために、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営しています。センターでは、学術情報ネットワーク (KUINS)、スーパーコンピューティングサービス、および学生の皆様に関係の深い語学学習システム (CALL)、教育用コンピュータシステム、そして、遠隔講義支援サービスを情報基盤機構と共に提供しています。

CALL

CALL (コール) とは、Computer-Assisted Language Learning の略で、コンピュータを

使用した外国語学習を指しています。CALL 授業には、「教室学習型 CALL」と「自律学習型 CALL」があります。「自律学習型 CALL」クラスは、学生が大学の自習室や自宅などコンピュータの使用できる環境で、CALL用に開発された CD-ROM 教材を使用し、時間や場所に拘束されることなく学習することができます。

現在、自律学習型 CALL を大規模に導入している英語授業では、成績は3回の試験の得点とFDに記録された学習時間に基づいて判定されます

英語における自律学習型 CALL の導入は、再履修者が非常に多くなり、大人数クラスでの授業を余儀なくされたため、高度な英語教

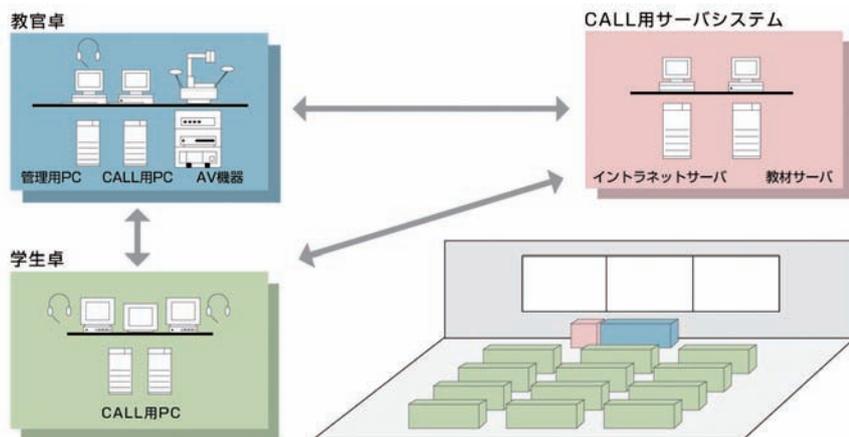
育の実施に支障を来すようになったことが契機ですが、「発音、文法、基礎会話」等の外国語基礎運用能力向上のための新しい教育方法として、他大学から高い評価と関心を獲得しているだけでなく、学生の満足度も高いという結果が出ています。

また、ドイツ語、フランス語等においても CALL 用の教材を独自で開発し、教室学習型 CALL 授業に導入するとともに、CALL 用自習室における学生の自律学習にも活用されています。



[写真：上] CALL 自律学習用端末の利用風景

[写真：下] CD-ROM 版 CALL 教材



CALL教室システム概念図

情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行われています。

学術情報メディアセンターでは、全学共通科目だけでなく、各学部でのメディアを利用した教育も支援しています。

[センターの提供するシステムおよびサービス]

CALL 自律学習コーナー／ CALL Leaning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された Introduction to the Beauties of Kyoto を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては、必須の環境となっています。

また、同じく語学の自習室として、吉田南総合館北東2階に設けられた「CALL Leaning Space」には、ヘッドセットとCALL 授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を20台設置し、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。

教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムはネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,300台を学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や

CALL 教室、サテライト端末室など30カ所に展開しています。その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター南館、附属図書館、人間・環境学研究科・総合人間学部図書館内にオープンスペースラボラトリー (OSL) として設置し、運用しています。

これらの端末では、Windows と Linux の2系統のオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWWブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。

学術情報メディアセンター南館 OSL の
サービス時間

月～金曜日：10:00～20:00

土曜日：10:00～18:00（試行中）

（祝・祭日を除く）

担当：情報環境部 情報基盤課
教育システム支援グループ

遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、さまざまな遠隔講義の支援を行っています。

国際遠隔講義としては、時差の少ないアジア圏との遠隔講義が定常的に行われています。台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

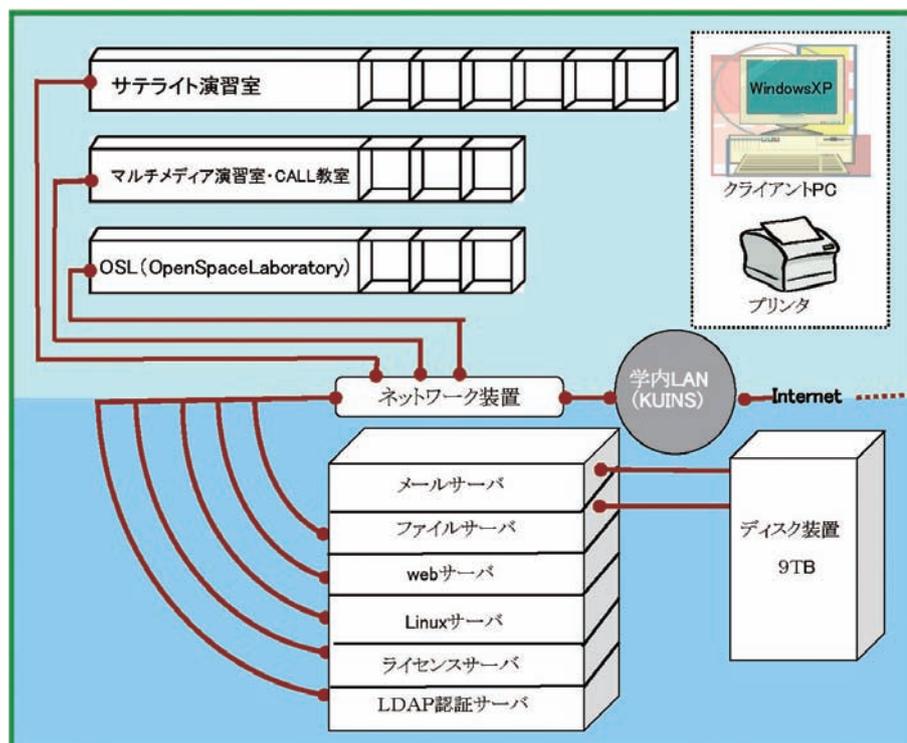
これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治それぞれのキャンパスを結ぶ高精細遠隔講義システムも運用されています。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。

このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システム SCS の運用を行っており、国内の多数の大学・研究期間を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。さらに、このような遠隔講義の設備や技術を用いて、京都市や京都府をはじめとする学外組織の文化・学術活動を支援しています。



[写真] 国際遠隔講義風景

担当：情報環境部 情報基盤課
ネットワーク・遠隔講義支援グループ



[図] 教育用コンピュータシステム システム構成図

図書館

充実した資料の蓄積と、情報技術による学術情報サービスにより、学習支援・研究支援を行っています。

[教育・研究における図書館の役割]



[写真] 附属図書館閲覧室

附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能を持ち、学生、教職員をはじめ、学術情報が必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約82万冊、全学で約626万冊所蔵しており、創立より109年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文獻資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携

して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、次のページにあるようなデジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

館内の施設・設備等

3階の情報端末室には学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリーとして80台のパソコンおよび情報コンセント64口があります。このパソコンの利用にあたっては学術情報メディアセンターへの登録が必要です。

館内の施設・設備等

閲覧室	1,100席
1階	端末コーナー 参考図書、雑誌、新聞、常設展示、ラウンジの各コーナー
2階	開架図書と閲覧室
3階	情報端末室、メディア・コモン、AVホール
地階	書庫

蔵書検索システム (KULINE)

京都大学の蔵書は、蔵書検索システム KULINE (Kyoto University Libraries Information Network system) で検索できます。KULINE はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。

URL <https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac>

KULINE は京都大学の蔵書約626万冊のうち約310万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館・図書室で所蔵されているかを知ることができます。中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできます。

メディア・コモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」があります。CD、DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉学や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や

蔵書数 (平成20年4月1日現在)

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	577,668	246,205	823,873	13,240	11,203	24,443
全学	3,218,668	3,037,001	6,255,669	42,308	46,704	89,012

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む

勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ240m²のスペースに、DVDやビデオ・カセットが見られる1人用個人ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCD、カセットを聴くことができる1人用ソファが8席、50インチの大型プラズマ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる4人用AVコーナーが2カ所等合計32席があり、さらに5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音設備付／10席）などがゆったりとした空間に配置されています。

京都大学文学部卒業生である故片田清氏

寄贈のCDコレクション、4,875枚のほか、DVD約717点（映画、ドキュメンタリー、音楽）、ビデオ約465点（ドキュメンタリー、言語）などを置いています。



【写真】メディア・コモン (Media Commons)

京都大学の学習・研究活動を支える 図書館・図書室群

附属図書館

附属図書館宇治分館

人間・環境学研究科・総合人間学部

図書館

文学研究科図書館

教育学研究科・教育学部図書室

法学研究科・法学部図書室

経済学部・経済学研究科図書室

[理学研究科・理学部]

理学部中央図書室

数学教室図書室

物理学教室図書室

宇宙物理学図書室

地球物理学図書室

化学教室図書室

生物科学図書室

地質学鉱物学教室図書室

[医学図書館]

医学部保健学科図書室

薬学研究科・薬学部図書室

[工学研究科・工学部]

地球系図書室

建築系図書室（吉田・桂）

物理系図書室

航空宇宙工学図書室

電気系図書室（吉田・桂）

化学系図書室

工業化学科図書室

地球工学図書室

[農学研究科・農学部図書室]

生物資源経済学専攻司書室

エネルギー科学研究科図書室

[アジア・アフリカ地域研究研究科]

アジア地域研究専攻図書室

アフリカ地域研究専攻図書室

情報学研究科図書室

地球環境学堂図書室

京都大学電子図書館

>> <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

貴重資料画像

国宝『今昔物語集（鈴鹿本）』

京都大学所蔵資料でたどる年表

このように京都大学は、国語の教科書に載っている古典作品や、歴史上の重大な出来事に関する資料を多数所蔵しています。

BC500

・

・

500

『論語』

『伊勢物語』

『源氏物語』

『平家物語』

『付喪神』（御伽草子）

『天正遣欧使節肖像画』

『日本植物誌』
-シーボルト来日

『國女歌舞伎絵詞』
-阿国歌舞伎

17

国際交流

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。



【写真】吉田キャンパス内の留学生との交流施設「KI・ZU・NA（きずな）」

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在 89 カ国から約 1,300 名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら 1 年以内の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を半年もしくは 1 年間受け入れて本学の学生とともに英語

で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は 26 科目で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。

授業料等を不徴収とする大学間学生 交流協定校への派遣留学(交換留学) について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、1 年以内の 1 学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。学内で年 2 回募集を行い、書類選考及び必要に応じ面接により候補者を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、19 カ国・地域 41 大学 3 大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

派遣留学(交換留学)に関する Q&A

Q1: 学生交流協定とは何ですか?

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めで、①在籍する大学に授業料を納めることにより留学先大学での授業料等が免除されることや②留学先で修得した単位が在籍する大学で認定される場合があることなどについての取り決めをしています。

Q2: 派遣留学(交換留学)とは何ですか?

国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1 年以内の 1 学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位取得を目的としない留学をし、教育を受けて単位取得し、又は研究指導を受けるものです。

Q3: 語学力・学力はどのくらい必要ですか?

留学生生活を円滑に過ごすための必要最低限の語学力は、渡航前から必要ですし、また留学すれば自然と語学力が高まるというものでは決してありません。日本の学校へ進学する場合と同様、留学にも一定以上の学力が必要です。1 回生の時から十分な準備をし、派遣留学の応募書類提出時には、基準を満たしているようにしてください。

英語圏への留学のための語学力証明には TOEFL が使われることが一般的です。

非英語圏への留学についても、日常生活で読む・聞く・話す・書くことができ、教育のため授業の聴講及び研究指導を受けることのできる程度の力は最低限必要です。

Q4: 派遣留学(交換留学)の準備にはどの くらいの期間がかかりますか?

派遣留学(交換留学)を希望する学生は、おおむね想定する出発の半年から 1 年ほど前に、所属の学部・研究科を通じて学内選考

用の申請書（日本語）を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学（交換留学）は、年度により募集日程及び留学可能な協定校に多少変更がありますが、おおむね春と夏に学内募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留学希望先の定めに従い、願書、推薦状、留学目的、履修希望科目等を記した書類を提出することになります。

Q5：派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか？

留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める単位認定制度があります。

Q6：一募集期に、複数の大学に応募できますか？

第二希望まで選んで学内で応募していただき、実際の出願は全学的調整により、一校にさせていただきます。

Q7：大学の情報・資料はどこで入手できますか？

協定校から送られてくる資料は、留学生ラウンジに保存してありますので、自由に閲覧できます。そこにはないものは、各校のインターネットサイトで見てください。

Q8：派遣留学（交換留学）するための奨学金はありますか？

協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成制度があります。

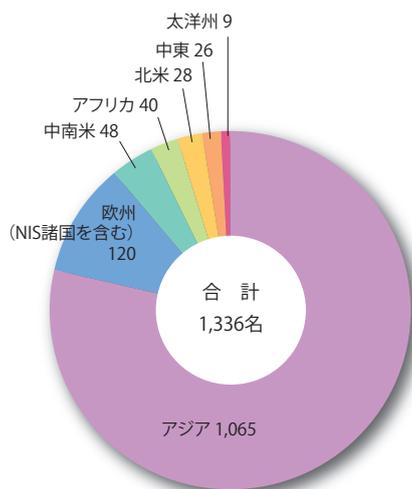
- ①独立行政法人日本学生支援機構の短期留学推進制度（本学の採択枠は若干名）：奨学金 月額 80,000 円
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」：渡航費の一部助成

留学促進のための説明会



学生みなさんに海外への留学を身近に感じてもらうため、年間を通して、各種の説明会を開催しています。主な内容として、交換留学、大学院レベルの留学、夏休み等を利用する語学研修、TOEFL 対策等があり、教職員、生協、関係団体、学生組織、留学体験学生等による詳しい説明・体験談、協定校から来ている留学生とその大学へ留学したことのある京都大学生のペアによる協定校紹介など、有益な情報、助言の得られる機会ですので、ぜひ参加して下さい。

**外国人留学生受け入れ状況
(平成 20 年 5 月 1 日現在)**



**大学間学生交流協定校への派遣実績一覧
(平成 19 年度)**

国名	大学名	人数
中華人民共和国	香港科技大学	1
	カセサート大学	1
タイ王国	チュロンコン大学	1
	国立台湾大学	1
台湾	トロント大学	2
	ケベック州大学学長校長協議会	2
カナダ	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
アメリカ合衆国	ペンシルベニア大学	2
	ウィーン大学	1
オーストリア共和国	ルーバンカトリック大学	2
ベルギー王国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	3
フランス共和国	ベルリン自由大学	1
	ミュンヘン大学	1
	ボン大学	1
ドイツ連邦共和国	フンボルト大学	2
	ライデン大学	1
	ユトレヒト大学	3
オランダ王国	ウブサラ大学	1
	ストックホルム大学	2
スウェーデン王国	ローザンヌ大学	2
	シドニー大学	1
スイス連邦	20 大学 3 大学群	39

その他、学部・研究科独自の学生交流協定に基づく留学、個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした調査等の海外渡航が京都大学生により行われています。

**留学促進のための説明会開催実績
(平成 19 年度)**

月	日	タイトル・内容	
4月	3~6日	国際交流センター 新入生説明会	
	28日	5月以降の説明会の 内容等国際教育関係 事項の包括的紹介	
5月	29日	交換留学	
	30日	語学研修	
	31日	International Week	海外インターンシップ 大学院留学 ~留学生生活編~
		大学院留学 ~留学準備編~	
6月	1日	大学院留学 ~留学準備編~	
	7日	交換留学	
	14日	先輩体験談 (英語による講義が聴 講できる仕組み)	
7月	21日	大学院レベルの長期 留学制度	
	3日	アジア留学説明会	
7月	18日	海外留学安全説明会	
	11月	21日	Part1: ウブサラ大学
4日		Part2: タマサート大学	
7日		Part3: 国立台湾大学	
12月		10日	Part4: ルーバンカトリック大学
		12日	Part5: フンボルト大学
		17日	Part6: シンガポール国立大学
	海外協定校 の紹介		

大学院進学

学部教育で身につけた知識や技術をより深め、
次世代を担う研究者・実務者をめざす。



京都大学の卒業生には、伝統ある「自由の学風」の中で培われた知性・感性・倫理性といった力を、社会における様々な分野の中でさらに磨きつつ、活かして行くことが期待されています。学部卒業後の進路としては就職か大学院進学が考えられますが、いずれの進路を選ぶにせよ、京都大学は、皆さんが誇りある京都大学卒業生として、社会に貢献できるような道を進めるよう、サポートします。

大学院進学者は、全国的に増加傾向にあります。とりわけ京都大学は、大学院を充実させた研究型大学の特徴として、平成20年

(2008)3月に学部を卒業した2,860名のうち、約60%が大学院に進学しました。

各部卒業後に就職の道へ進んだのは、約29%です。その就職先は、後のページに挙げるように、多種多様な職種へと進み、大学で学んできた知識と技能を活かしています。

大学院進学

学部を卒業した後、学部教育で身につけた知識や教養、技術をより深めることを希望するならば、大学院進学を選ぶことになるで

しょう。

大学院とは、次世代を担う研究者あるいは高度な知識と技能を持った実務者を養成する課程です。したがって、学部教育よりもさらに専門的な知識を身につけ、自分自身で研究を行う能力や専門的な実務能力を養うこととなります。標準修業年限は、博士前期課程(修士課程)の2年間とそれに続く博士後期課程(博士課程)の3年間で、定められた単位を修得し、必要な研究指導を受けて研究論文の審査と最終試験に合格すれば、修士もしくは博士の学位が授与されます。またいわゆる飛び級制度を認めている大学院もあります。指定の単位を優れた成績で取得した者で学部在籍が3年間以上の者に入学を認めたり、それぞれの標準修業年数に満たなくても学位を授与したりする場合があります。

進学先については、学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる分野の大学院へ進学することも可能です。一般に大学院には学部よりも多種多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、多様性が増すこととなります。

学部を持つ大学院

京都大学の10の学部は、それぞれが大学院を備えています。正確にいえば、大学院重点化が行われた現在は、大学院が主たる組織であり、そこが学部教育も提供しているという形になります。学部とつながる大学院

平成19年度卒業者の進路状況 (平成20年5月1日現在)

進路 学部名	卒業生数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	89	42	46	14	39	25			4	3
文学部	121	108	41	27	58	71			22	10
教育学部	30	38	8	12	16	22			6	4
法学部	253	102	106	44	87	35			60	23
経済学部	235	40	19	4	203	32			13	4
理学部	260	20	222	17	23	1			15	2
医学部	123	96	19	23	22	50	79	16	3	7
薬学部	59	30	51	27	3				5	3
工学部	847	73	737	60	93	13			17	
農学部	224	70	193	48	20	20			11	2
合計	2,860		1,718		833		95		214	
百分率	100.0%		60.1%		29.1%		3.3%		7.5%	

進学者数には大学学部へ入学した者12名(男10名・女2名)を含む。



【写真】法科大学院における模擬裁判による授業

は、総合人間学部と統合した人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科です。それぞれが、学士課程（学部）の教育と連続した、高度な研究と教育をおこなっています。詳しくは、各学部の紹介のページを参照してください。

独立研究科

京都大学には学部を持たない大学院課程、すなわち独立研究科が5つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究科、情報学研究科、生命科学研究科、地球環境学舎、がそれにあたります。いずれの研究科においても、多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

エネルギー科学研究科では、エネルギー持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ学際領域としてエネルギー科学の学理の確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成することをめざしています。

アジア・アフリカ地域研究科では、これまでの京都大学での地域研究の伝統をもとに、大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域の現場での生活を通して問題を発見し、生態・社会・文化が複合する地域の実態の調査研究を進めていく地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

情報科学研究科では、自然および人工システムにおける情報に関して、その生成や認識、伝達、制御などの幅広い側面について、

人文科学と理工科学との学際的な手法により研究していきます。そこでの成果は、人類知の様々な分野に寄与することが期待されています。

生命科学研究科では、従来の理学、農学、医学、薬学分野の知識と技術を統合し、遺伝子、分子、細胞を探求の単位とする従来の生命科学を超え、より高次元な生命現象解明へ取り組む新しい生命科学の研究を創出し、複雑な生物圏を理解し地球環境保全と人類の福祉と幸福に寄与できる人材の養成をめざしています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適応しうる人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

専門職大学院

研究者養成に主眼をおいていた従来の修士課程とは異なり、高度で専門的な職業能力をもった実務家を養成するための、新しい形の大学院です。現場で活躍する各分野のスペシャリスト等も専任教員として招き、現場の複雑な問題を解決するための知識と技能の獲得をめざした教育をおこなっています。京都大学では、医学研究科で平成12（2000）年に専門大学院として開設された社会健康医学系専攻が、平成15（2003）年専門職大学院となりました。また法学研究科では法曹養成専攻（法科大学院）を平成16（2004）年に開設しました。さらに、平成18（2006）年には公共政策専攻（公共政策大学院）および経営管理専攻（経営管理大学院）の2つの専門職大学院が開設されました。以下に簡単に紹介します。

医学研究科社会健康医学系専攻

この専攻は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な幅広い知識、技術、態度を身に付けることを目的としています。教育の対象となる分野は自然科学から人文社会科学まで多岐にわたります。

わが国は知的創造立国を志向しており、今後は医療分野でも特許を広く認めようとしています。そこで先端医学の研究成果を知的財産として管理・活用する高度専門職を育成するために、平成16年度には知的財産経営学コースが開講されました。

また、ヒトや集団を単位とした臨床研究を推進するため、平成17年度には医師・歯科医師を対象とした1年制のコース臨床研究者養成コースを開設しました。

さらに平成18年度には、先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する遺伝カウンセラー・コーディネータユニット（「遺伝カウンセラーコース」・「臨床研究コーディネータコース」）が開設されました。

法科大学院

法科大学院は、法の精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法律家を養成します。法学部・法学研究科の伝統にならない、自主・独立の精神と批判的討議を重んじ、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的な理解、緻密な論理的思考能力、法律家としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的问题に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎え、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を提供しています。

公共政策大学院

公共的な仕事に携わる高度専門職業人を養成する専門職大学院として、2006年4月に開学したばかりの大学院です。定員40名

で、少人数教育をとります。専任の教員は19名ですが、他にも法学研究科、経済学研究科をはじめとした、他研究科の教員、さらには実務家が授業を担当します。

ここでは、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人を育てることを目的としています。したがって公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識だけでなく、優れた教養と高い倫理的責任感を備えた人材の育成を目指しています。そのため、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目を提供すると同時に、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目も多数用意されています。

経営管理大学院

マネジメントに関する専門的かつ実践的な能力を備えた真のプロフェッショナルを育成するための大学院です。ビジネススクールとして、専門的知見を持つ社会人、多様なバックグラウンドを持つ学生、外国人留学生といった人材を受け入れており、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、現代の複雑なマネジメント諸課題に取り組むことができる実践的知識と論理的思考力の獲得を目指します。

本大学院は、科学的な理論に基づいた専門的な知識と実践的な問題解決能力を修得するために、多様な授業科目を提供します。そして、主に1年生前期に基礎科目、1年生後期から2年生前期に専門科目、そして2年生前期からは実務科目と発展科目という体系的な履修を実現する科目構成をとっています。そして、スーパーバイザーが、それぞれの学生の知識や履修状況、そして将来の希望を踏まえ、履修すべき科目や学修すべき内容についてアドバイスを与え、積極的に学びを支援します。

社会人のための大学院コース

現在、社会状況はますます複雑化し、職業を持つ社会人でも大学で再び学び直すことを希望する人が増えています。あるいは、大学を卒業して就職した後に、現場の具体的な問題に触れてこそ、学習や研究を深めていく必要性を感ずるといった場合もあります。このよ

うな要請に応えるため、京都大学には社会人の大学院進学のための制度が整備されています。この制度には大きく分けて、研究者養成を主眼にした大学院がおこなっている「社会人特別選抜」と、先述した高度専門職業人養成大学院への入学があります。

京都大学でも多くの大学院が社会人特別選抜をおこなっています。いずれも、社会での実務経験のある人材に対して門戸を開き、リフレッシュ教育の機会を提供するとともに、多様な人材を受け入れることで大学院の活性化をねらっています。

また、専門職大学院では、当該専門と直結する分野以外を卒業した者や在職社会人を積極的に入学者として受け入れており、多様なバックボーンをもつ人々がこれまでの自分のキャリアを活かしつつ、専門的な職業能力を身につけるよう工夫されています。

※大学院の詳細な内容や入学選抜方法については、大学院各研究科にお問い合わせ願います。

大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています。）

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻		●	●							
法学研究科 法政理論専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
経済学研究科 経済システム分析専攻 経済動態分析専攻 現代経済・経営分析専攻					●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
医学研究科 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 人間健康科学系専攻							●			●
薬学研究科 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻 医薬創成情報科学								●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●								●	
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻						●				●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●
公共政策教育部 公共政策専攻				●	●					
経営管理教育部 経営管理専攻					●	●			●	

就職支援

企業・組織での実務者として、社会での活躍を目指すために。
豊かな人生をおくるために。

キャリアサポートセンター

我々や企業を取り巻く経済状況が好転するなか、団塊の世代の大量退職もあって求人数を大幅に増やす企業が増加しています。しかし、各企業がより優秀でかつ自社に合う学生を求めるとなると、内々定獲得の二極化が進むなど、全ての学生にとって状況が改善されたというわけではありません。一方、学生側の就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るか、学生がいかに自分の能力や経験を活かせ、かつ適性にあった就職先を見つけることができるかが大きな課題となってきています。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであると考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧並びにメールマガジンの発行、求人票検索システムの運用等を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることか



[写真] キャリアサポートセンター



[写真] 「キャリアデザイン講座」の様子

ら、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

キャリアサポートセンターは、時計台のある吉田キャンパスの他に宇治キャンパスおよび桂キャンパスにもサテライト（分室）を開設しています。

ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併せて業界研究を行うことを目的とした「企業ガイダンス」の実施のほか、少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、個人又は少人数を対象としたエントリーシート添削、模擬面接などを実施しています。「キャリアデザイン講座」として、学部1・2回生を対象とした将来のキャリアを考えるための講座、将来研究者を目指す人たちに向けての講演会、女性のキャリアを考える講演会などを実施しています。また、有料の講座を、外部で受講

平成19年度開催ガイダンス等一覧

行事名	実施回数等	のべ参加者数(人)
就職ガイダンス	6回	2,210
企業ガイダンス	17回	2,881
キャリアデザイン講座	2回	194
インターンシップガイダンス	1回	205
キャリアパス多様化促進計画関係	計10日	260
キャリアパス形成支援関係	1日	21
合同企業説明会	全5回 計9日	3,104
公務員関係ガイダンス等	全17回 計19日	1,195
就職セミナー	59回	2,420
業界研究セミナー	3回	145
内定者による相談会	22回	81
エントリーシート添削	20日	119
模擬面接	27日	205
SPI模擬テスト対策講座、SPI模擬テスト	講座1回 テスト2回	301
国家公務員1種採用試験対策講座 [有料]	3講座 計8日	43
マスコミ就職直前対策セミナー [有料]	2講座 計14日	70
弁理士試験対策講座 [有料] (無料ガイダンス1日含む)	1講座 計32日	101
就職相談室	217日	1,012
計		14,567

するより割安で受けられるシステムを導入し、キャリアアップの機会増大を図っています。

若手研究者キャリアパス多様化計画

大学院へ進学し博士の学位を取得した人材が、大学等の研究機関以外の多様な方面に進み、その高度な専門性と能力を活用することが大いに期待されています。キャリアサポートセンターでは、このような人材が主体的に進路を選択し、社会の多様な場において専門性を生かして活躍できる環境を創出するための様々な支援を行っています。

就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています(予約制)。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。

インターンシップ

— 実社会体験を学びに活かす —

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を、大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生在がインターンシップを体験し、近年は、外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在在学生も増えています。本学では、このような学外でのインターンシップを授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部(学科)や研究科もあります。

インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して、次のような効果が期待できます。

- ・ 責任感や人間関係を学び、人間的に大きく成長することができる。[人間的成長]
- ・ 働くことに対するイメージがより具体的になり、目的意識を持った就職活動を行える。[修業意識の高揚]
- ・ 自らの学生生活を振り返る良い機会となり、

今、自分が何をすべきかが見えてくる。[学習意欲の向上]

インターンシップの種類

- ・ 学外実習等の授業科目とする場合。
→単位として認定します。
- ・ 学校行事等、大学等における活動の一環として位置づける場合。
→単位認定しません。
- ・ 企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合。
→単位認定しません。

海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高まっています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため、京都大学内においては、以下の2つの委員会が活動しています。

「外国での研修に参加しよう!」

— 京都大学アイエステ学内委員会

アイエステ (<http://www.iaeste.or.jp/>) は、理工農薬系学生のための国際インターンシップを仲介している国際非政治団体です。海外に派遣される学生は主に夏休みを利用し2~3ヶ月間、現地の企業や、大学、研究機関で就業体験します。アイエステ日本支部は1964年の設立以来、2,500人以上の国内の学生を海外へ派遣しています。また、理事役員メンバーの指導の下、事務局職員と学生ボランティア(学生運営委員会)によって運営されています。



私達はその京都大学学内委員会のメンバーで、夏休みに来日する海外の研修生のサポートや、学内での派遣生募集の為の認定試験などの広報、派遣予定の日本の学生と帰国してきた派遣生OBとの交流会の開催など、インターンシップに関するあらゆる援助をしています。

認定試験を受けて、海外で自らの力量を

試すのもいいですが、国内での受け入れや派遣の支援という裏方のような活動をする事で見えてくる世界もあります。専門分野を持つ海外の学生と交流できるのも大きな刺激になります。国際的な広い視野を有する研究者を目指す方、理系・文系の垣根無く、英語をツールとして使いたい皆さん、アイエステについてもっと知ってみませんか?

「It's up to you!」

— アイセック京都大学委員会

アイセックは、100を超える国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の国際学生NPOであり、“Peace and Fulfilment of Humankind's Potential”を理念に、海外インターンシップ事業を行っています。アイセック京都大学委員会は、海外インターンシップの運営を行い、学生に対して異文化環境のもとで社会経験を積む機会と学びを得る機会を提供しています。また企画事業として、着物を通じて日本の伝統文化への理解を促す活動も行っています。(<http://www.aiesec.jp/kyoto/>)

国内外に幅広いネットワークを持つアイセックには、多種多様なステージで活動できる機会が存在します。インターンのために来日した各国の優秀な学生や、海外へインターンの場を求める意識の高い日本人学生…彼らのサポートをする中で、アイセックメンバーは日々多くの刺激を受けています。JICAや大学教授・企業など外部パートナーとの協働、他大学・他国のアイセックメンバーとのプロジェクトなどを通して、価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。あとはみなさんのやる気次第!あなたの充実した学生生活をお約束します。

(連絡先:kyoto@aiesec.jp)



[資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 19 年度卒業生の産業別就職状況

産業	学部	総合人間学部		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
農業・林業				1														3			1	4	1	5	
漁業																						0	0	0	
鉱業・採石業・砂利採取業																						0	0	0	
建設業				1	1			2		1	1							9	3			13	5	18	
製造業	食品・飲料・たばこ・飼料			1	2	1	1		2									1	1	2	3	7	7	14	
	繊維工業					1			2									1		1		4	1	5	
	印刷・同関連業		2	6	1			1										3				9	4	13	
	化学工業・石油・石炭製品	2				3	3	1	1	2	1		1	1	1					1		10	7	17	
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	2		3	3			3	1	5									1			14	4	18	
	はん用・生産用・業務用機械器具			1	2			1	1										4		1	1	7	4	11
	電子部品・デバイス・電子回路												3						5		1		9	0	9
	電気・情報通信機械器具		2	1	4	1		3	6	6	2								3	1			14	15	29
	輸送用機械器具			1	1			3		12	2								6	1	1	1	23	5	28
	その他				1	1				3		1							6	2	1		12	3	15
電気・ガス・熱供給・水道業		1	4	1			4	2	11	1								1				20	5	25	
情報通信業		9	2	12	12	1	1	6	3	14	1	5	1		1			9	2	1	2	57	25	82	
運輸業・郵便業		2	1	1	5	1		7		13				1				4		1	1	30	7	37	
卸売業・小売業	卸売業	5	2		4		1	10	1									3		2	1	20	9	29	
	小売業	1	3	1	1					1				1	1							1	4	6	10
金融業・保険業	金融業	6	4	4	5	3	2	19	6	42	12	4		1	1			11	2	1	3	91	35	126	
	保険業	4		2	7		1	7	2	14					1			3			1	30	12	42	
不動産業・物品賃貸業	不動産取引・賃貸・管理業		1					1		3	1	1						2		1	1	8	3	11	
	物品賃貸業																					0	0	0	
学術研究・専門・技術サービス業	学術・開発研究機関																				1	0	1	1	
	法務							2														0	2	2	
	その他の専門・技術サービス業	2	2	4	2		2	3	1			1								2	1	12	8	20	
宿泊業・飲食サービス業				1			1															1	1	2	
生活関連サービス業・娯楽業		1		2	1			2				1										1	6	2	8
教育・学習支援業	学校教育			5	1	2	2					2									2		11	3	14
	その他の教育・学習支援業			2	5	2	3		1			1		1					1				6	10	16
医療・福祉	医療業・保健衛生													17	44	1							18	44	62
	社会保険・社会福祉介護事業		1		1																		0	2	2
複合サービス事業								1	60	8	1							7				68	9	77	
サービス業	宗教																						0	0	0
	その他のサービス業			2	1	1	1	3				1							5		1		13	2	15
公務	国家公務	4	1	3	3	2	3	5	4	4		1			1								19	12	31
	地方公務		1	1	6	2	1	3	2	2	2					1			2			1	11	13	24
上記以外		1	2							7								4		1			13	2	15
総合計		64		129		38		122		235		24		72		3		106		40		564	269	833	
男子計	女子計	39	25	58	71	16	22	87	35	203	32	23	1	22	50	3	0	93	13	20	20				

ベンチャー起業

自らのアイデアを具現化し、
ベンチャー起業を志す人を様々な面からサポートします。

世界から注目されるロボットの開発



ロボ・ガレージ代表
高橋 智隆 さん
(2003年 工学部物理工学科卒)

私は工学部在学中よりロボットに関する研究を基に試作機を製作し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行われている特許相談・起業支援などのプログラムを利用することで、技術やアイデアを企業に売り込む活動をしてきました。結果、模型玩具ロボットが世界中で販売されることとなりました。

そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いてロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。



起業を目指すみなさんへ (教育活動について)

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) 主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権(特許)、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。また、将来の産業・科学技術の発展の担

い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」(後述)を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。

京大ベンチャーズ

大学生、大学院生、教員のベンチャー起業に向けての取り組みをサポートしています。具体的には京都市の「知の創出・活用特区」認定を受けて、VBL施設利用事業「京大ベンチャーズ」を実施しており、数十社のベンチャー企業・組織が入居しています。

また、数多くの京大VBLプロジェクトにおいて、先進的・独創的な研究が続けられており、これら研究成果の具体的な社会還元として、学生および教職員による製品の実用化が図られています。



[写真] THE YANCHERS 制作の白色LEDゴーグルライト

教育学部発ベンチャー 「有限会社関西教育考学」活動紹介

「大学の知を社会に還元」することを目的として、2005年よりベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いて活動しています。

特に、高校生の皆さんに学ぶことの楽しさや奥深さを知ってもらいたいという思いから、高校・大学連携事業に力を入れています。具体的には、京都大学の先生方を講師に迎え、大学での研究内容を分かりやすく紹介する「京大知的好奇心学講座」の提供や京大生がガイドをつとめる京大キャンパスツアーを実施しています。

京大キャンパスツアーは、入試企画課と連携して実施しており、昨年度は22校、約2,500名の高校生がキャンパスツアーに参加しました。京大生が大学生活の紹介から進路選択の悩みや受験勉強の方法など、高校生のさまざまな質問にお答えしています。

私たちの活動が、高校生の皆さんの進路実現に少しでもお役に立てたらと思っています。

京大知的好奇心学講座 一例

- ❖ 人の老化とネズミの老化
- ❖ 現代アート入門
- ❖ 光は曲がる
- ❖ 記憶の認知と心理学
- ❖ ことばを哲学する
- ❖ 「ぼくは13歳 職業、兵士。」



有限会社関西教育考学
代表取締役

田坂 繭子さん

(2005年教育学研究科教育科学専攻修了)



テクノ愛

このコンテストは非営利で運営しており、高校生・大学生の発明、創造活動を啓蒙、応援するコンテストです。

ユニークな発想やベンチャー精神を持つ人材の育成の一環として、身近な生活に役立つ技術から最先端技術までの幅広いアイデア

アを、高校生・大学生などを対象に広く募り、審査により表彰します。優れたアイデアには表彰だけでなく、希望者には起業化へのアドバイス・サポートも行います。



例年、大学の部の入賞アイデアをはじめとし、高校生のアイデアの特許出願もサポートしています。



京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、また本学の様々な組織とも連携して、大学を核としたイノベーション創出活動を展開しています。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。



[写真] 京都大学 VBL 外観

学生生活を支援する制度や施設

学習・研究に安心して取り組んでもらうために。

[学生生活を支援する制度や施設]



身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があつて、受験及び就学上の特別な配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時行っています。受験及び就学上必要な特別措置等について協議いたしますので、ご相談ください。また、進路上の相談にも応じています。

なお、相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、この相談を希望する方は、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。

(照会先については、98 ページを参照してください。)



[写真] 身体障害学生相談室

身体障害学生相談室を開室（2008年4月）

本学では身体に障害を持つ学生の支援強化と支援の拠点となることを目的とした相談室を「身体障害学生相談室」として開室しました。

相談室では、各学部・研究科から選出された教員が、身体に障害があり、修学上様々な悩みや要望、相談ごとをかかえる学生の相談に応じます。また、交流スペースは、開室時間内で学生に開放し、障害学生と支援学生、さらには教職員も含めた交流の場になればと考えています。

支援は、学生本人からの申し出により所属学部・研究科や関係部局の教職員と連携しながら進めていくことになります。支援の内容としては、授業を受ける上で必要となる支援（情報保障）や物品の貸出、設備の整備などです。

開室時間：10:00～17:00

月曜日～金曜日（祝日を除く）

※ただし、事前にご連絡をいただければ
時間外の利用にも対応します。

(問い合わせ先：

身体障害学生相談室 Tel.075-753-2317)

履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。

(全学共通科目については、共通教育推進課教務運営グループ [Tel.075-753-6508～6511] に照会してください。専門科目については、98 ページの各学部教務掛に照会してください。)

経済的に困難な方たちへのサービス

入学科・授業料免除等

(1) 入学科免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学科の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

(2) 入学科徴収猶予

経済的理由により入学科の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学科の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、入学科の徴収を猶予する制度です。

(3) 授業料の免除

本学では「授業料免除」と「授業料免除京都大学特別枠」という二つの免除制度があります。

「授業料免除」は経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。「授業料免除京都大学特別枠」は出願資格として学業優秀を条件としないこと、後期授業料（前期は実施しません。）の全額を免除することが「授業料免除」と異なっています。

(問い合わせ先：学生センター経済担当

Tel.075-753-2536)

入学時に要する納付金（平成20年度）

入学科	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

*入学時に改定されることがあります。
*納付金は、全学部において同額です。

奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であって、経済的な理由により就学が困難である場合に奨学金を申請することができます。

日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けよう并希望する方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、貸与月額の初回振込時(又はその翌月)に定額(300,000円)を増額して貸与する制度があります。

申込のできる方は、一定の収入金額以下の方、又は国の教育貸付け(国民生活金融公庫の教育ローン)を申込んで貸付を受けることができなかつた方が申込みます。

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月～6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学生は、大学院生を含めて約350名います。

毎年約40団体より募集があり、約80名が新規に採用されています。

小口短期貸付金(学生援助会)

学生センターでは、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1～6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

(問い合わせ先：学生センター経済担当

Tel.075-753-2535)

日本学生支援機構奨学金 貸与月額(平成20年度入学者)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金 (無利子貸与)	45,000円	51,000円	301名
第二種奨学金 (有利子貸与)	3・5・8・10・12万円 のうちから選択		265名

(注)平成19年度1年次在学採用数

学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、下の表の3寮です。いずれも大学の近くにあり、便利です。詳しくは、学生センターへお問い合わせください。

(問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2539・2540)

下宿・アパート等の紹介サービス

学生センター生活担当では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生生活協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。
(問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2533, 京都大学生生活協同組合ルネ南側別館 Tel.075-771-0823〈桂, 宇治の物件等の紹介も有〉)

アルバイトの紹介サービス

学生センターでは、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭（葵祭、祇園祭、時代祭）等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生生活協同組合で紹介しています。
(問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2533, 京都大学生生活協同組合コンベンション・サービスセンター
Tel.075-752-0374)

健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごすために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、健康診断や保健指導などの予防医療、応急措置などの初期診療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォアラ隣りの保健診療所で受け付けます。

保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の病気やけがの診療と健康相談・メンタルヘルス相談を行っています。

- (a) 診療科名
内科, 神経科, 皮膚科, 眼科, スポーツ整形外科, 耳鼻咽喉科
- (b) 診療受付時間
10:00～12:30, 14:00～16:30
- (c) 休診日
土曜日, 日曜日, 国民の祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)は全日休診です。
なお、臨時休診日(定期健康診断実施日等)は、その都度受付の掲示板に掲示しています。
- (d) 緊急時対応(事故等)
事故等で緊急に処置を要する傷病が発生した場合は、通常の受診手続きを取らずに、直接医療職が対応いたします。
【緊急時連絡先】
8:30～17:30 内科(内線2405)
- (e) 料金
学生の診療や相談は無料です。ただし検査、投薬、処置、診断書作成は実費となります。正課中の負傷は、初回治療のみ処置や投薬も無料です。
(各科の診療などの問い合わせ先)
Tel 075-753-2404(受付)又は
Tel 075-753-2405(内科)

学生寄宿舍一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造 2階建(3棟)	鉄筋コンクリート 4階建(3棟)	木造モルタル塗 2階建(2棟)
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間

学生教育研究災害傷害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険の加入も勧めています。さらに教育研究活動中の補償を24時間に拡大し、アルバイトや自主参加のインターンシップも含めた学生生活の幅広いリスクに対応した学生生活総合保険もあります。

(問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2533)

京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関等で治療等を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関（京都大学保健診療所及び医学部附属病院）等で受診した1年間に支払った医療費の総額の一部を補助します。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

(問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2534)

カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場所として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のための場ではなく、全人格的な成長・発達のための場であるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話にくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあります。

カウンセリングセンターでは、心理学（臨床心理学・相談心理学・青年心理学など）を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ5,000回に上る相談面接がなされています。

(カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>)



京都大学生生活協同組合

バランスのとれた食生活や、書籍・文具・日用品など、
生協は生活のすべてをサポートします。

[京都大学生生活協同組合]



[写真] 本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォーラ」

学内の各キャンパスには、京都大学生生活協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉学・教育・研究生活を幅広くサポートしています。

朝食から夕食まで、 食生活をサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価表示や、食生活や健康に関する情報の提供、食生活相談

や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

書籍からパソコン、文具など、 勉学・研究生活をサポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉学や研究に必要とされる商品、サービスを提供しています。特に書籍・雑誌は生協組合員の特典として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

安全で安心な大学生生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・院生が加入し、給付金額は1年間（06年10月～07年9月）で713件、約3,795万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

京都大学の内外で大好評、 「京都大学オリジナルグッズ」

最近人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適なクリスタル用品や時計のほか、「食べられるオリジナルグッズ」として好評な八つ橋、かわらせんべい、飴などに加え、新しくチョココレートが仲間入りしました。また京大教員が考案した元素記号の立体周期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評判です。



[写真：左] ショップルネ内の書籍コーナー [写真：右] 時計台生協ショップの文具コーナー

京大大学生生活協同組合各施設の営業時間

キャンパス（学部）	施設の名称		営業時間（平日）	取扱内容等
吉田キャンパス 北部構内 (理・農)	北部生協会館	食堂部	8:20～21:00	1階:カフェテリア食堂, 2階:喫茶(計250席)
		購買部	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂		8:00～21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)
	時計台生協ショップ		10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等 (薬品・クリーニングは10:00～17:00)
	京大ショップ		10:00～17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等
	コンベンション・サービスセンター		10:00～17:30	JRチケット発券, イベントサポート, アルバイト紹介
	生協本部	組合員センター	10:00～17:00	生協加入・脱退, 共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」		9:00～22:00	カフェレストラン(計100席)
吉田キャンパス 吉田南構内 (全学共通・総人)	吉田食堂		10:30～16:30	1階, 2階:カフェテリア食堂(計587席)
	吉田ショップ		8:30～19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等
吉田キャンパス 医学部構内 (医・薬)	南部生協会館	食堂部	11:00～17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)
		ショップ	10:00～18:00	文具・食品・書籍などの販売
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」		11:00～22:00	カフェテリア食堂(計494席)
	ショップルネ	パソコンコーナー	10:00～19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器・ソフトウェア
		書籍コーナー		教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド
		旅行, プレイガイド		海外・国内旅行, プレイガイド等
ルネ南側別館		11:00～17:00	住まいの斡旋, 自転車・バイク, 家具・家電リサイクル用品	
宇治キャンパス (各研究所)	宇治生協会館	食堂部	11:00～20:00	カフェテリア食堂(計168席)
		購買部	10:30～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
桂キャンパス	桂Bクラスター キャンパスショップ		10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
	桂Bクラスター カフェテリア食堂「セレネ」		11:00～21:00	カフェテリア食堂(計126席)
	桂Bクラスター カフェ「アルテ」		11:00～18:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)
	桂Aクラスター ショップ		10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
	桂Aクラスター ペーカーリーショップ「リユーヌ」		8:00～19:00	焼きたてパン, 調理パン等
	桂Aクラスター ハーフムーンガーデン		8:00～14:00 18:00～22:00	テイクアウト弁当・軽食

詳しくは京大大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

京大受験生や、新入生も 応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿泊の手配も行い、安心して受験していただけるようお手伝いをしています。受験の不安を和らげようと、受験生のサポートには在校生があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探しや生活用品の購入ができる「新入生センター」を開設し、京都大学での新生活がスムーズに始まるお手伝いをしています。

ほかにも、京都大学オープンキャンパスでのキャンパスツアー開催や各種相談コーナーの運営などを通して、これから京都大学を目指す人たちへのサポート活動にも力を入れています。



【写真】百周年時計台記念館内にある「京大ショップ」。
京都大学オリジナルグッズや京都大学の教員が執筆した書籍が購入できます。



クラブ・サークル活動

馬術部



アメリカンフットボール部

文科系サークル

(105団体)

音楽・ダンス系

- 音楽部交響楽団
- 軽音楽部
- 音楽研究会
- 合唱団
- グリークラブ
- アカペラサークル・CRAZY CLEF
- ギタークラブ
- マンドリンオーケストラ
- 吹奏楽団
- リコーダー同好会
- E.M.B.G.
- 軽音サークル・こんぺいとう
- 軽音サークル・ZETS
- 吉田音楽製作所
- 民族舞踊研究会
- ALL京大舞踏研究会
- アマチュアダンスクラブ
- 颯風会
- アンブラグド
- Egoistic Dancers
- エレクトーンサークル KUES

芸術・古典系

- 劇団ケツペキ
- 劇団ペーパームーンシアター
- 映画部
- 映画文化研究会
- シネマ研究会
- 雪だるまプロ
- 漫画研究部
- アニメーション同好会
- 創作サークル「名称未定」
- 美術部
- 美術研究会
- 陶芸部
- 写真部
- 書道部
- 能楽部観世会
- 能楽部宝生会
- 能楽部金剛会
- 能楽部狂言会
- 心茶会
- 落語研究会
- 囲碁部
- 奇術研究会
- 将棋部
- 遊劇隊
- 京都大学かるた会
- デジタル写真サークル Dig*Photo
- 京大短歌

宗教系

- キリスト者学生会
- 基督教共助会
- 平和哲学研究会
- 古典に学ぶ会
- 原理研究会

人文・社会・自然系

- クイズ研究会
- RPG研究会
- SF・幻想文学研究会
- 唯物論研究会
- 京大に在籍する在日韓国・朝鮮人学生の集い
- 韓国文化研究会
- 京都大学韓国留学生会
- 京都大学留学生会
- 京都ムスリム協会
- 歴史研究会
- 地理同好会
- 鉄道研究会
- 天文同好会
- 粋な科学の会
- 生物科学の会
- ころぼっくる

野生生物研究会
 都市公害問題研究会
 環境ネットワーク4Rの会
 環境サークルえこみっと
 機械研究会
 E.S.S.
 エスペラント語研究会
 児童文学研究会・紙風船
 点訳サークル
 手話サークル
 グッドサマリタンクラブ
 さいもんめ
 放送局・KUBS
 現代社会研究会
 アジア連帯! 学生キャンペーン
 刑事法研究会
 探検部
 有機農業研究会
 MPI(経営・政策勉強会)
 きのかじき
 京都大学自然農研究会
 ボランティアサークル Aile
 ローバースカウトクラブ

その他

学生平和委員会
 ユネスコ学生クラブ
 ユニセフクラブ
 アイセック
 全学学生自治会同学会
 西部講堂連絡協議会
 文化サークル連合
 応援団
 11月祭全学実行委員会
 京都大学新聞社
 京大学生新聞会
 京大学生協学生委員会
 京都大学院生協議会

体育会所属の運動部

(48団体)
 合気道部
 アーチェリー部
 居合道部
 ウェイトリフティング部
 空手道部
 グライダー部
 硬式庭球部
 ゴルフ部
 サッカー部
 自転車競技部
 柔道部
 少林寺拳法部
 スキー競技部
 相撲部
 ソフトボール部
 卓球部
 バスケットボール部
 バーベル部
 ハンドボール部
 フィギュアスケート部
 ボウリング部
 ボクシング部
 ライフル射撃部
 ラグビー部
 アイスホッケー部
 アメリカンフットボール部
 ウィンドサーフィン部
 カヌー部
 弓道部
 剣道部
 硬式野球部
 サイクリング部
 山岳部
 自動車部
 準硬式野球部
 水泳部
 スピードスケート部
 ソフトテニス部
 体操部
 馬術部

バドミントン部
 バレーボール部
 フィールドホッケー部
 フェンシング部
 ボート部
 ヨット部
 ラクロス部
 陸上競技部

体育会に所属していない 体育系サークル

(40団体)
 京都を歩く会
 散策の会
 オリエンテーリングクラブ
 ワンダーフォーゲル部
 フリークライミングクラブ
 神陵ヨットクラブ
 硬式庭球同好会
 硬式庭球同好会・フリーク
 KIDDY KIDS
 フレームショット
 京大ソフトテニスサークル
 テニスサークル・JUST OUT
 京大T.C.T
 スキー同好会・スノーバンサー
 基礎スキークラブ・ラスカル
 青城サッカークラブ
 飛翔会
 持久走同好会
 メイプル・
 バスケットボール同好会
 バスケットボールサークル・
 フリークラブ
 バスケットボールサークル・L.E.D
 バレーボールサークル・
 JUSTICE
 剣道同好会・指薪会
 天之武産合気会
 空手同好会
 東洋医学拳法京都大学支部
 太極拳同好会
 圓和道部
 ソフトボール同好会・
 プレッシャーズ
 卓球同好会・
 SMASH×SMASH
 バドミントンサークル・
 レモンスカッシュ
 アルバトロスゴルフ同好会
 アウトドアサークル・
 DOWN HILL
 バードマンチーム・
 シューティングスターズ
 BREEZE
 チアリーディングサークル・
 TREVIS
 ブーメランサークル
 ウッドストック(軟式野球)
 Nekthy(フットサルサークル)
 テコンドーサークル

課外活動施設

北部グラウンド
 北白川スポーツ会館
 馬場(厩舎)
 吉田南グラウンド
 テニスコート
 総合体育館
 総合体育館附属プール
 バレーコート
 弓道場
 アーチェリー場
 相撲場 …など
学校外の施設
 白馬山の家
 白浜海の家
 笹ヶ峰ヒュッテ
 志賀高原ヒュッテ …など



能楽部金剛会



硬式野球部



応援団







学部 紹介

京都大学の10の学部についてご紹介します。学部の特長、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目について述べられています。

また、各学部の在学学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。

-
- 038 総合人間学部
 - 042 文学部
 - 046 教育学部
 - 050 法学部
 - 054 経済学部
 - 058 理学部
 - 062 医学部
 - 068 薬学部
 - 072 工学部
 - 076 農学部

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらんとする学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生、学を究めるうえでその先に見えてくる新たな地平に無上の喜びを感じることでできる学生、本学部はそういう学生が門をたくことを望んでいます。

総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎え入れました。京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここで研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総体的に捉える学問の確立が、総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供すること、これをわれわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究所（大学院）に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。時代の要請にもなっています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系の主専攻を選択します。その際、「文系」「理系」のいずれかの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

【写真】「文化人類学調査演習」のゼミ風景



総合人間学部の教育

● 5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総体的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、眉眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観念を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

● 専攻の決定

「文系」「理系」という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されません。

● 4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究所」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

● 副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに對しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

● 大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

● 共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探求し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

● 共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探求し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

● 関連環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行います。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質関連論講座の4講座を設置しています。

■総合人間学部のホームページ：<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

総合人間学部パンフレットもホームページ内でご覧いただけます。
(http://www.h.kyoto-u.ac.jp/publication/soujin_pamphlet.php)

■入学についてのお問い合わせ：総合人間学部教務掛 **tel.075-753-6506**

在学生からのメッセージ



360°の選択肢

2回生 稲角 暢さん

総合人間学部の最大の特徴は、卒業認定に必要な単位の制限が緩い点にあります。語学や指導教員による必修科目を除けば、ほとんど自由に授業を選択できます。

私は人類学を学ぶという目的を持って大学・学部を選びました。しかし、さらに複数の領域に関心を持つ場合、この学部はその欲求に最大限応えられます。私の場合、この一年間で人類学の他に動物（生物）学、文学、歴史学、地理学、社会学、などの研究の一端に触れてきました。

また総合人間学部では、昨年度から始まった「総人ゼミ」をはじめとして、教員・事務の方々からの積極的なアプローチがあります。活用次第では凄まじい量の情報が得られ、充実した学生生活を送ることができるでしょう。

最後に、進路先のことはいくら調べても調べすぎるということはない、ということをお告げしておきます。



「自由」が生かせる場

4回生 鈴木 茉莉緒さん

「自由の学風」の特色がよく現れているのがこの総合人間学部ではないでしょうか。

履修の制限が少なく、勉強、サークル活動、アルバイト、留学など自分のやりたいことに打ち込んだり、両立するには最適な学部です。「自由」が大きい分、迷いが出るのも事実ですが、前に進んでいけば必ず道は開けて来るから不思議です。

私は現在、バイオメカニクスの研究室に所属し、歌っている時の姿勢と声質の関係について研究しています。先例がなく、学際的で学ぶことも多く大変ですが、自分のやりたい研究ができるので大変面白いです。音響解析の研究室との共同研究の目的も立っています。

学際性に富み、各分野のトップレベルの先生が多いのも総合人間学部の強みです。全ては自分の心持ち次第です。是非、この学部で大学生活を謳歌して欲しいと思います。

■ 卒業後の進路



就職先の例

外務省／法務省／厚生労働省／共同通信社
NHK／中日新聞社／NTT データ
三菱東京UFJ銀行／野村證券／三菱商事
東京海上日動火災保険／大阪ガス／京セラ
JFE スチール／住友電気工業／電通

[進学]

約5割が人間・環境学研究科等の大学院等へ進学します。

[就職]

就職先は、官公庁や教育機関、マスコミやIT関連といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活躍しています。

■ 総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。

また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語
高等学校一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語

■ 卒業生からのメッセージ



未来を創る場所

1998年卒業
京都大学大学院 人間・環境学研究科 助教
小原 文明さん

創設されて間もない総合人間学部に入学した際、私を含め同期の者はみな、得体の知らない学部で期待と不安を抱いていたことが懐かしく思い出されます。

しかし、その新しい学部には、それぞれが漠然とはしつつも、何か新たなもの、面白いものを創造していこうとする野心に溢れた雰囲気がありました。それは学生だけでなく、教職員の方々も同様であったと思います。

それから10年余りが経過した今日においても、本学部の人々には自らの力で切り拓いていこうとする気概が感じられます。他の学部よりも、自分で学びたい事柄を探し、選ぶ必要があるからでしょう。そのような過程で自らの未来をデザインし、また社会の未来のために、何か新しいものを創造していきたいという意欲を有する多くの方々が、本学部に入学されるのを楽しみにしております。



夢を探し、夢を追う

2006年卒業
㈱大成閣 勤務 于 敦彦さん

夢とは、何になりたいかというだけじゃなく、漠然とでも良いので、どういふ人になりたいか、どういふ事を成したいかということだと思ふ。

ほくは元々理系だったけれど、大学で文転して好きだった中国史や中国文化などを学び、その後思い立って休学会計士の資格を取り、卒業して監査法人に2年間勤めた後、今は実家の老舗中華料理店の経営を継ぐべく料理やサービスの勉強をしている。回り道に見える?かもしれないけれど、大学生で、そしてその後も自由に学び経験し、夢を広げることができた。将来は事業拡大したり、また暇を見つけて色々勉強したいと考えている。

夢を探し、夢を追う。そのフィールドとして総合人間学部は良いですよ。ただ目標が曖昧だと中途半端になりやすいので、しっかり目標見つけて、自由に学びましょう!

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的な解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合学的構築を目指します。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。

学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。

「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文明構造論、現代社会論、国際社会論、歴史社会論、東アジア文化論、西欧文化論、共生社会環境論

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物学、地球科学で構成されています。

それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。

講義は、大学院人間・環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をととして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。

人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。

本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理科学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

文化環境学系

文化環境学系では、近代文明のグローバル化が進展する現代にあつて、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追求します。また、各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

授業は、大学院・人間環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論



新歓合宿にて

専門科目

主専攻	科目
人間科学系	<p>[入門科目] 人間科学入門</p> <p>[人間形成論関係] 人間形成論、人間形成論演習ⅠA、人間形成論演習ⅠB、人間形成論演習ⅡA、人間形成論演習ⅡB、人間形成論史論、人間形成論史論演習A、人間形成論史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学、精神分析学Ⅰ、精神分析学Ⅱ、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p>[社会行動論関係] グループ・ダイナミクス実習A、グループ・ダイナミクス実習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究法論演習A、宗教学研究法論演習B、社会心理学演習A、社会心理学演習B</p> <p>[文化社会論関係] ヒストリー・オブ・アイディアズⅠA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅠB、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論ⅠA、動態映画文化論ⅠB、動態映画文化論ⅡA、動態映画文化論ⅡB、動態映画文化論演習ⅠA、動態映画文化論演習ⅠB、動態映画文化論演習ⅡA、動態映画文化論演習ⅡB、制度・生活文化史ⅠA、制度・生活文化史ⅠB、制度・生活文化史ⅡA、制度・生活文化史ⅡB、制度・生活文化史演習ⅠA、制度・生活文化史演習ⅠB、制度・生活文化史演習ⅡA、制度・生活文化史演習ⅡB、メディア・スタディーズⅠA、メディア・スタディーズⅠB、メディア・スタディーズⅡA、メディア・スタディーズⅡB、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p> <p>[人間存在論関係] 自己存在論、自己存在論B、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学A、認識人間学B、認識人間学演習ⅠA、認識人間学演習ⅠB、認識人間学演習ⅡA、認識人間学演習ⅡB、人間実践論A、人間実践論B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特論A、人間存在論特論B、人間存在論特別演習</p> <p>[創造行為論関係] 創造行為論演習ⅠA、創造行為論演習ⅠB、創造行為論演習ⅡA、創造行為論演習ⅡB、近代芸術論A、近代芸術論B、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、舞台芸術論A、舞台芸術論B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、創造ルネッサンス論A、創造ルネッサンス論B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B</p> <p>[文芸表象論関係] 英米文芸表象論講義A、英米文芸表象論講義B、英米文芸表象論演習ⅠA、英米文芸表象論演習ⅠB、英米文芸表象論演習ⅡA、英米文芸表象論演習ⅡB、英米文芸表象論講読ⅠA、英米文芸表象論講読ⅠB、英米文芸表象論講読ⅡA、英米文芸表象論講読ⅡB、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、ドイツ文芸表象論講読A、ドイツ文芸表象論講読B</p>

文学部が望む学生像

言うまでもなく、文学部は詩人や小説家を養成する学部ではありません。そもそも、何か特定の職業に就いて生きるための訓練の場所ではないのです。それでは、何をやるのでしょうか。たとえば、人が仕事の手を休め、ふと我に帰って、自分の人生や家族や社会や時代について、ぼんやりと考えを巡らすとき、知らず知らずのうちに文学部の研究領域にそっと触れていると言えます。つまりその人は無意識の内に、人って何だろう、社会とは何かという根源的な問いの前に立っているのです。この種の省察は、生きる上ですぐに役立つものではありません。でも本当は、人が人である限り、大切にしなければならないものでしょう。それを問い、省察し、研究するのが私たちの文学部なのです。こうした立場に共感をおぼえ、狭い実利的な目的や関心とは必ずしも直結しない人文学の諸分野に対する強い学習意欲と研究への高い志をもつ新入生を本学部は歓迎します。

文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在本学部には哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に32(大学院では31)の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問(狭義の人文学のみならず社会科学や自然科学の一部も含まれます)をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2回生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3回生で32の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生(=学部生+大学院生)からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年の歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

【写真】

- 左：慶陵壁画
- 上中：チンギス・カン聖旨牌
- 上右：しづか(奈良絵本)
- 右下：ピエール・ペール『歴史批評辞典』



文学部の教育

● 国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードになかった研究者を育てようとしています。

● 文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2回生になってからです。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にみればプラスになるでしょう。また、この時期は所属の専修が決まっていなはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭においてそれぞれに必要なとされる外国語を勉強しておくことが望まれます。

2回生になるときは、3回生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、32の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のものですから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2回生では、1回生の秋に行った希望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3回生になって専修に分属する際には、他の系の専修に分属することもできます。2回生で履修する文学部英語や各国語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3 年生では本格的な専門教育が始まります。各専修に所属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というものが身近に感じられようになるでしょう。他学部比べて文献講読の形式をとる授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習（フィールドワーク）を課しているところもあります。

4 年生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのもので、ときには苦しいかもしれませんが、一つのを完成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

■文学部のホームページ：<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

■入学についてのお問い合わせ：文学部第一教務掛 tel.075-753-2709

在学生からのメッセージ



未来への切符

アメリカ文学専修 3 年生 渡辺 周平さん

翻訳家を目指す私にとって、京大文学部は理想の学習環境です。

たとえば講読の授業。文献を手がかりにして、離れた時代、異なる文化圏の作家と、さながら対話するように作品を読み解いていく。その過程で学び取るのは、単なる知識ではなく、発見

性を伴った「読むこと」の本質です。

京大では、こういった授業を、現役の翻訳家の方も含む、日本でもトップクラスの教授陣から受けることができるのです。

また、大学とは、志ある友人たちと切磋琢磨しあえる場でもあります。それぞれの夢を実現させるために、哲学・社会学・考古学などなど、一生をかける価値のある学問と、誰もが真摯に向き合っています。

師と友に恵まれて学業に励む中で、自分の夢に一步一步近づいていると感じられる。そんな充実感を、日々、味わっています。



知が織りなすハーモニー

考古学専修 4 年生 新宮領 奏絵さん

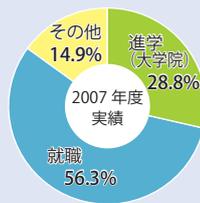
「人間とは何か」—これは文学部全体が目指す、永遠のテーマです。京大文学部には哲学から文学、歴史に至るまで幅広い分野がありますが、これらはそれぞれ独立しているようで、実はお互いに結びついているのです。私は考古学を学んでいますが、他分野の講義から自分の専門に

活かせるヒントを得たこともあり、専門をこえて学べる京大のよさを実感しました。

京大文学部はいわば学問のオーケストラ。オーケストラが弦楽器や木管楽器など個々の楽器から紡ぎ出す音で一つの音楽をつくりあげていくように、多種多様な専門分野が相互につながりあいながら、「人間とは何か」という大きなテーマを奏でている文学部。

あなたも“京大文学部”というオーケストラの一員になってみませんか？

卒業後の進路



就職先の例

アサヒ飲料 / NTT データ / 大阪ガス
 講談社 / 国家公務員 / JR 東海 / 住友生命
 三井住友銀行 / 三菱重工
 三菱東京 UFJ 銀行

ここ数年は、就職者が 55% 前後、大学院進学者が 30% 前後、他大学や各種学校への進学者が 3% 前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。

文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後 1 年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる教職免許：中学校一種（国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教）、高等学校一種（国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教）

卒業生からのメッセージ



かけがえのない自由と〈学びグセ〉

1981 年国語学国文学専攻卒業
 株式会社岩波書店編集部勤務
 堀内 まゆみさん

京大で学んだこと、それは〈学びグセ〉だ。古典文学を古都京都で学びたい、と入学してみると、目の前には

実に多彩で豪華な講義一覧が。「大学生ってなんて贅沢！」とわくわくして、単位も学部も関係なく興味のある教室をのぞいてみた。国語学国文学の渡辺実先生の「できるだけたくさん外国語をかじりなさい」という言葉も忘れられない。京大は、面倒をみてもらえない学校だったが、それは本当の自由を与えられていたということだ。そして自由を楽しむためには、ぶれない自分が必要だということも身にしてみてわかった。人と会うことが好きな私は、いろいろな研究者に会ってみたいと思うようになり、自然に私の将来の仕事の方向も決まった。社会に出てからは〈学びグセ〉のお陰で気の向くままにたくさんのテーマをかじり、これこそ仕事とプライベート充実の要だと実感している。



勉強は好きだけど受験勉強は嫌いなあなたに

2005 年キリスト教学専修卒業
 京都大学大学院文学研究科
 博士後期課程キリスト教学専修 2 年生
 小柳 敦史さん

普段は見ても見ぬふりをしている、勉強して「本当に？」とか「何で？」と感じることはたくさんあると思います。そういう疑問をとことん追究できるのが、文学部です。もちろん大学は全般に（おそらく、本当は高校も）常識や定説を覚えるだけではなく、知ったことを批判的に（非難ではありません）考える場所でしょう。しかし、文学部こそはそういう考え方に特化した学部です。文学部で身につけた批判的な考え方の結果か、出版・報道関係や教育関係の就職が多いですが、どんな職種でも力になるのではないのでしょうか。

私自身は大学院で研究を続けており、この夏からはドイツに留学して新たな視点を身につけてきたいと思っています。最初に「とことん」と書きましたが、はまってしまっただけ抜け出せないという危険性があるということもお忘れなく。

学科紹介

哲学基礎文化学系

ここでは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらしめる人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史(古代・中世・近世)、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史学(美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学)

東洋文化学系

東洋文化学の5つの専修の名前から分かるように、「東洋文化学」の「東洋」は、日本、中国、インドのそれぞれを中心とした三つの文化圏を研究対象としています。それらの地域の文学、思想、語学、文化を歴史的に考察して行くのが、本系の主たる研究分野です。ただ、日本の文化は、中国文化の影響が大きく、中国文化はインド文化の影響を受けているので、隣接する国の文化の研究にも注意を払う必要があります。インド古典学では、紀元前から存在する多くの古典から、現代の口頭伝承までを研究対象としており、仏教学では、インドからチベット、中国周辺の仏教の研究を行います。中国関係では、専門教育の前に、中国語の学習をしていることが望ましく、インド古典、仏教学では、サンスクリットなど関係諸語、また英語、フランス語、ドイツ語の習得を重視しています。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。

文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学の分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査にも力を入れています。

地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域事象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。各専修の研究内容を十分理解することができるように1, 2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

専門科目 (学部共通科目)

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
サンスクリット(2時間コース)、現代インド語(ヒンディー語)	博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、ギリシア語(2時間コース)、ギリシア語(4時間コース)、ラテン語(2時間コース)、ラテン語(4時間コース)、スペイン語(初級)、スペイン語(中級)、イタリア語(初級4時間コース)、イタリア語会話(中級)、朝鮮語(初級)、朝鮮語(中級)、サンスクリット(4時間コース)、チベット語(初級)、アラブ語(初級)、ポーランド語(初級)モンゴル語、オランダ語、スワヒリ語(初級)、スワヒリ語(中級)、英語、英語論文作成法、書道	ヘブライ語、イラン語(初級)、チベット語(中級)、シュメール語	

専門科目 (系別科目)

系	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎文化学系		系共通科目(哲学)講義, 系共通科目(西洋古代哲学史)講義, 系共通科目(西洋中世哲学史)講義, 系共通科目(西洋近世哲学史)講義, 系共通科目(日本哲学史)講義, 系共通科目(倫理学)講義, 系共通科目(宗教学)講義, 系共通科目(キリスト教学)講義, 系共通科目(美学)講義, 系共通科目(美術史学)講義, 哲学・西洋哲学史講読, 西洋哲学史講読, 日本哲学史講読, 美学美術史学講読	哲学特殊講義, 哲学演習, 哲学卒論演習, 西洋哲学史特殊講義, 西洋哲学史演習, 日本哲学史特殊講義, 日本哲学史演習, 倫理学特殊講義, 倫理学演習, 宗教学特殊講義, 宗教学演習, 宗教学演習Ⅱ, 宗教学講読, キリスト教学特殊講義, キリスト教学演習, 美学美術史学特殊講義, 美学美術史学演習Ⅰ, 美学美術史学演習Ⅱ, 美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学), 卒業論文(西洋哲学史), 日本哲学史演習, 卒業論文(日本哲学史), 卒業論文(倫理学), 卒業論文(宗教学), 卒業論文(キリスト教学), 卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義, 系共通科目(インド哲学史)講義, 系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義, 系共通科目(国文学)講義, 系共通科目(中国語学)講義, 系共通科目(中国文学)講義, 系共通科目(中国哲学史)講義, 国語学国文学講読, 中国語学中国文学講読, 中国哲学史講読, インド古典学講読	国語学国文学特殊講義, 国語学国文学演習, 中国語学中国文学特殊講義, 中国語学中国文学演習, 中国語学中国文学外国人実習, 中国哲学史特殊講義, 中国哲学史演習, インド古典学特殊講義, インド古典学演習, インド古典学講読, 仏教学特殊講義, 仏教学演習, 仏教学講読Ⅰ, 仏教学講読Ⅱ	国語学国文学卒論演習, 卒業論文(国語学国文学), 中国語学中国文学演習, 卒業論文(中国語学中国文学), 卒業論文(中国哲学史), 卒業論文(インド古典学), 卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋古典学)講義, 系共通科目(フランス文学)講義, 系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義, 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義, 系共通科目(英語学)講義, 系共通科目(英文学)講義, 系共通科目(アメリカ文学)講義, 系共通科目(フランス語学)講義, 西洋古典学講読, スラブ語学スラブ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学外国人実習, 英語学英文学講読, 英語学英文学外国人実習, アメリカ文学講読, アメリカ文学外国人実習, フランス語学フランス文学演習, フランス語学フランス文学講読, イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義, 西洋古典学演習, スラブ語学スラブ文学特殊講義, スラブ語学スラブ文学演習, スラブ語学スラブ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学特殊講義, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ, 英語学英文学特殊講義, 英語学英文学演習Ⅰ, アメリカ文学特殊講義, アメリカ文学演習Ⅰ, フランス語学フランス文学特殊講義, フランス語学フランス文学演習Ⅰ, フランス語学フランス文学演習Ⅱ, フランス語学フランス文学外国人実習, イタリア語学イタリア文学特殊講義, イタリア語学イタリア文学演習, イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学), 卒業論文(スラブ語学スラブ文学), 卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学), 卒業論文(英語学英文学), アメリカ文学演習Ⅱ, 卒業論文(アメリカ文学), フランス語学フランス文学演習Ⅱ, 卒業論文(フランス語学フランス文学), 卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学)講義, 系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義, 系共通科目(東洋史学)講義, 系共通科目(西南アジア史学)講義, 系共通科目(西洋史学)講義, 日本史学基礎演習, 日本史学講読, 東洋史学講読, 西洋史学講読, 考古学講読, 考古学実習	日本史学特殊講義, 日本史学演習Ⅰ, 日本史学実習, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習Ⅰ, 東洋史学演習Ⅱ, 東洋史学演習Ⅲ, 東洋史学演習Ⅳ, 東洋史学演習Ⅴ, 東洋史学演習, 東洋史学実習, 西南アジア史学特殊講義, 西南アジア史学演習Ⅰ, 西南アジア史学演習Ⅱ, 西南アジア史学講読, 西南アジア史学実習, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習Ⅰ, 西洋史学演習Ⅱ, 西洋史学演習Ⅲ, 西洋史学実習, 考古学特殊講義, 考古学演習Ⅰ, 考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ, 日本史学実習, 卒業論文(日本史学), 卒後論文(東洋史学), 卒業論文(西南アジア史学), 西洋史学演習Ⅴ, 卒業論文(西洋史学), 考古学演習Ⅲ, 卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ, 系共通科目(言語学)講義Ⅱ, 系共通科目(社会学)講義, 系共通科目(地理学)講義, 心理学講義, 心理学実習Ⅰ, 心理学実習Ⅱ, 言語学基礎演習, 社会学特殊講義, 地理学講読, 地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱa, 系共通科目(心理学)講義Ⅱb, 系共通科目(心理学)講義Ⅱc, 系共通科目(心理学)講義Ⅱd, 系共通科目(心理学)講義Ⅱe, 心理学講義, 心理学特殊講義, 心理学演習Ⅰ, 心理学講読, 心理学実習Ⅲ, 言語学特殊講義, 言語学演習, 社会学特殊講義, 社会学演習, 社会学講読, 社会学実習, 地理学特殊講義, 地理学演習Ⅰ, 地理学講読	心理学演習Ⅱ, 卒業論文(心理学), 言語学卒論演習, 卒業論文(言語学), 社会学演習, 卒業論文(社会学), 地理学演習Ⅱ, 卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系	系共通科目(科学史)講義, 系共通科目(情報・史料学)講義	系共通科目(科学哲学)講義, 系共通科目(二十世紀学)講義, 系共通科目(日本現代史)講義, 系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅲ, 系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ, 現代史学特殊講義	科学哲学科学史特殊講義, 科学哲学科学史演習, 情報・史料学特殊講義, 情報・史料学演習, 二十世紀学特殊講義, 二十世紀学演習Ⅰ, 二十世紀学演習Ⅱ, 現代史学特殊講義, 現代史学演習Ⅰ, 現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史卒論演習, 卒業論文(科学哲学科学史), 情報・史料学卒論演習, 卒業論文(情報・史料学), 二十世紀学卒論演習, 卒業論文(二十世紀学), 現代史学卒論演習, 卒業論文(現代史学)

教育学部が求める学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組みなければなりません。

そのため、教育学部では、人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部への誘い

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸事象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性にかんがみ、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。

同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。また、いったん他の学問分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入学者教育諸科学の勉学を望む者が近年増加しているのを受けて、昭和58年4月から一般社会人を含めた国内外の大学卒業者の第3年次編入学を行っています。さらに戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題に関わる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積をもとに、昭和55年から心理教育相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。また、教育学部においては、平成10年4月から、基礎教育に重点を置き、幅広い視野を得ることを目的として教育科学科に統合し、3系制（現代教育基礎学・教育心理学・相関教育システム論）に再編しました。平成11年4月からは教育科学専攻に専修コース（修士課程）が設置され、大学院が高度な専門職業人の養成に向けて一層解放されました。

近年、いじめ、不登校をはじめとした「こころの問題」が多発し、子どもの置かれている状況が社会問題となっています。あらゆる子どもに潜在する広く教育に関連した問題として、普遍化したとらえ方を促すものです。これらは大人のかかえる問題でもあります。このように、教育学は現代社会においてますます重要な役割を果たす学問であると考えられます。

【写真】「比較教育学演習」授業風景



教育学部の教育方針

◎ 学部教育の方針

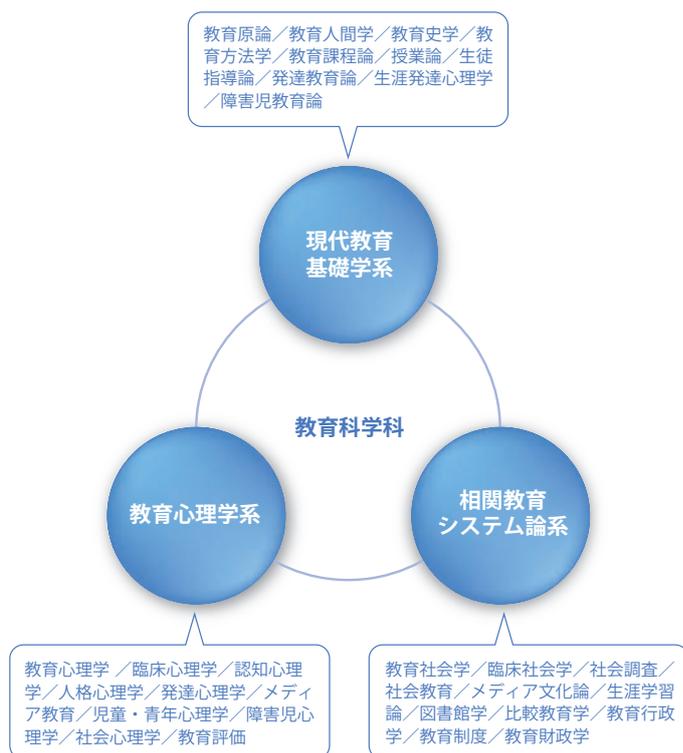
教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

◎ 学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っております。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。



教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。

入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。



平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

■教育学部のホームページ：<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：教育学部教務掛 [tel.075-753-3010](tel:075-753-3010)

在学生からのメッセージ



今にしかできないこと

教育科学科2年生 清原 敏成さん

みなさんは、一度はモラトリアム(猶予期間)という言葉聞いたことがあると思います。京都大学に来ようと思っているみなさんのうち大半は、このモラトリアムに属しているのではないのでしょうか。モラトリアムの間は、いろいろなことに挑戦できます。みなさんでしたら、部活動に没頭していたり、生徒会活動をしていたり、受験勉強をがんばっていたり、様々なことに取り組んでいることと思います。しかし、自分自身を見つめ直す、そして自分が何をしたいのかについて考えている人は案外少ないのではないのでしょうか。私も正直、この教育学部に来るまでは将来自分が何をしたいのかについて考えたことがありませんでした。しかし、やはり京都大学、周りの仲間は教育に対して真剣に考え、鋭い洞察力を持っている者ばかりです。そういう仲間へ感化され、私も最近ようやく自分のやりたいことが、かすかではあるものが見えてきました。学校の選抜過程、学歴と職業達成、青年文化などのテーマを扱っている、教育社会という分野です。これからは、もっとくわしく学んでいこうと考えています。

だから、みなさんもこの京都大学で、そして教育学部で素晴らしい仲間とともに自分探しの旅をしてみてください。



毎日が新たな発見

教育科学科関連教育システム論系3年生 西川 光さん

高校生の頃から「人間」について興味があり、大学では「人を育てる」ことを広い視野で学びたいという思いから、教員養成系ではない京都大学教育学部に入学し、現在は比較教育学の観点からみた教育に興味を持っています。

教育学部には、広い分野に渡って数多くの講座があります。自分の志望する講座だけではなく、複数の講座の授業に参加することで、一口に「教育」といってもさまざまな視点やアプローチが存在することを知り、自分にとって「教育」とは何なのかという問いに対する考えを深めていくことができます。また、そのプロセスは同時に自分自身の視点を考え直すことでもあり感じています。

個性豊かな教授や学生に囲まれて過ごす学生生活はとても刺激的であり、毎日が新たな発見に満ち溢れています。教育を学びながら、自分も育てられ、その成長を肌で感じることができる。高校生の頃に期待していたよりも、はるかに充実した学生生活を送っています。

卒業後の進路



就職先の例
法務省/博報堂/読売新聞社/リクルート
東芝/花王/住友化学/三井物産/日本生命
みずほ銀行/三菱東京UFJ銀行/京都銀行

教育学部の平成19年度卒業生は68名で、そのうち38名(約56%)が就職しています。その中には教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、20名(約29%)が大学院に進学しています。残りの10名(約15%)は聴講生等です。

教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

卒業生からのメッセージ



自分らしさを忘れずに

2007年卒業
京都大学大学院教育学研究科
臨床教育学専攻 加藤のぞみさん

私は「心理」を勉強したくて、この学部に入りました。入りたいという気持ちはあったものの、入れるという自信は全くなく、今でも京大にいることを不思議に感じます。

そんな私ですが、学部時代は個性豊かな友人たちに囲まれ、合宿やキャンプ、バーベキューなど沢山の楽しみを共有すると同時に、一緒にレポートに苦しんだり、時には教育や心理について深く語ることもでき、本当に刺激的でかけがえのない時間を過ごしました。

時には自分の方向性を見失いかけてたり、自信がなくなったりもしましたが、共に励ましあい、刺激合せて学べた学部時代があったからこそ、今の自分があるのだと思います。

現在は学部では経験できなかった実践的な「心理」を学ぶため、院で勉強を続けています。終わりのない問いに向き合うことの大変さに埋もれながらも、将来は自分のテーマをより深く掘り下げ、それを社会に還元できればと考えています。

自分のやりたいこと、目標とするものさえ見失わなければ学生生活を十分に満喫できると私は思います。そこにどんな回り道があったとしても自分を信じて突き進んでください。きっとあなた自身が満足できるゴールが待っているはずですよ!



子ども達との出逢いをきっかけに

2007年卒業
京都大学大学院教育学研究科
臨床教育学専攻 富松 良介さん

私は、東京のある大学で法律を学び、京都大学教育学部へ編入しました。そのきっかけは、児童養護施設の子どもの出逢いにあります。「子どもの人権」について、条約や法律の条文からだけでなく、子ども達の生きる現実の姿から捉えなおしたいと思った私は、施設で学習支援ボランティアを始めたのです。そこで出逢った子ども達は、十分な学習環境に恵まれていないばかりか、虐待などにより心も傷つけられていました。しかし心の奥底では、人と深く関わり、ふれあいたい気持ちを強く抱いているように感じました。教育学部への編入を決めたのは、そのような子ども達に対して、「教育と心理」の両面から臨的に関わる必要があると直観したからでした。

学部では、臨床教育学・心理臨床学の理念や具体的な技法に、体験的に接することができました。実習や演習の充実は、とても魅力的なものでした。そして何より、実習で一人ひとりの心の尊厳と、可能性を信じることの大切さを先生方から教わりました。その意味で、京都大学への編入は私の人生にとって、大きなターニング・ポイントであったと確信しています。

そして今、私は大学院へ進学し、「臨床の実践」に取り組んでいます。

大学科目(系) 紹介

現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうのように捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広くかつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原論、教育人間学、教育史学、教育方法学、教育課程論、授業論、生徒指導論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

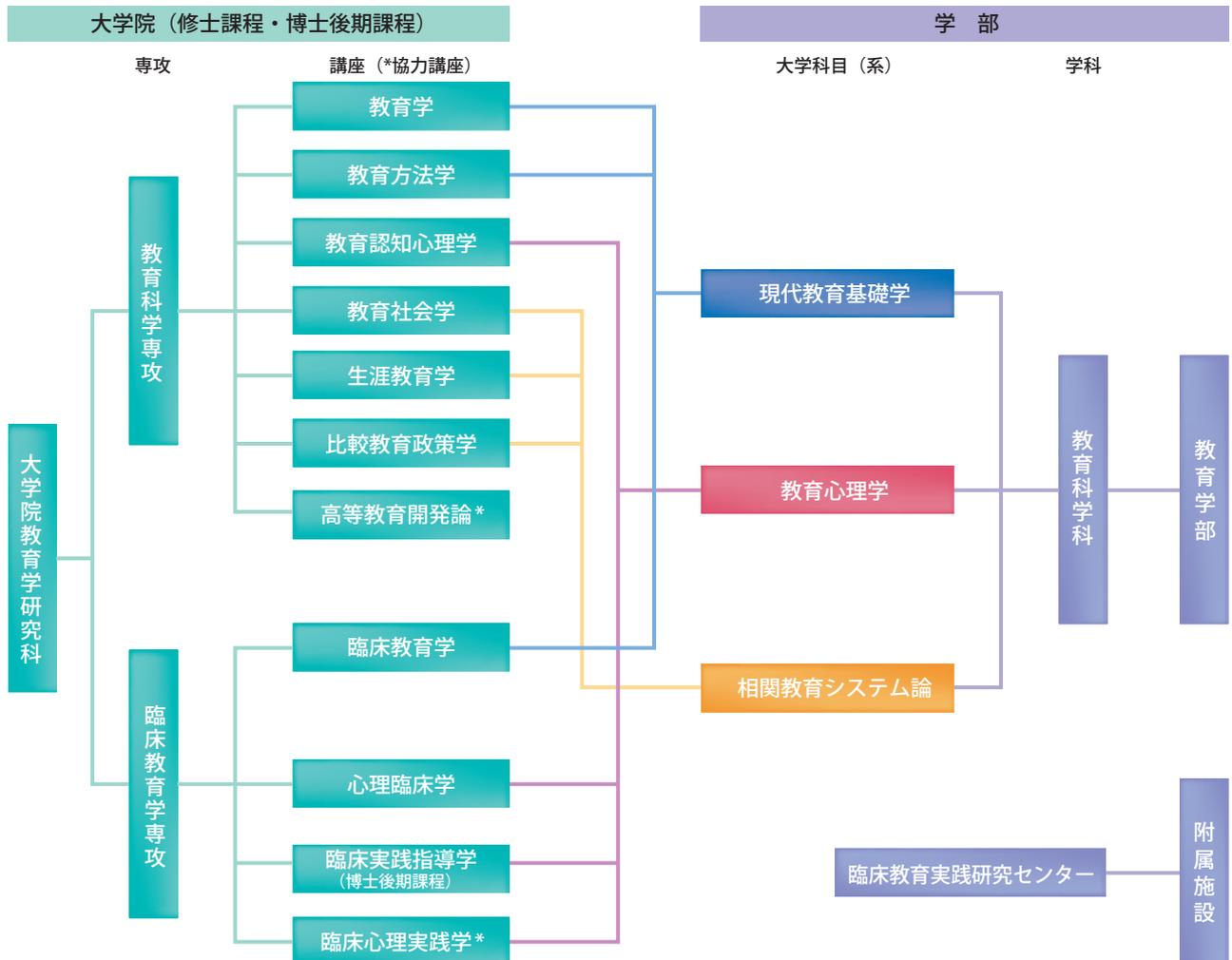
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

相関教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。相関教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的としています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 生徒指導論, 精神保健Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 教育人間学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア教育概論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育認知心理学基礎演習A・B, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義, 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ	教育情報学, 応用認知心理学講義, 発達心理学講義, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 乳幼児の心理学, 教育心理学コロキウムⅠA・ⅠB, 教育心理尺度開発演習, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ, 健康心理学講義	教育心理学コロキウムⅡ
相関教育システム論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部・第二部, 行政学, 財政学, 教育政策学入門, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・Ⅲ, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用	教育情報学, 教育社会学講義, 社会学講義Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 教育社会史, 現代教育社会学論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 相関教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道德教育論, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 同和・人権教育論, フランス語科・ドイツ語科・中国語科・水産科・宗教科の各教科教育法	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	職業指導, 教育実習Ⅱ, 教職教育

特別支援教育に関する科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	障害児教育総論, 知的障害者の心理・生理・病理, 聴覚障害者の心理・生理・病理, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 聴覚障害教育課定論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論, 聴覚障害教育総論Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ(発達障害), 障害児教育の教育課程論		特別支援教育実習

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

法学部への誘い

法学部は、明治32年(1899年)に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,000余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、39講座を擁するに至りました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育も担当するとの組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置に伴い、大学院組織全体が、12の大講座に再編されました。学部の教育も、基礎的・基本的なものに重点が置かれるようになりました。なお、平成18年度には、経済学研究科と協力して、新しい専門職大学院として、公共政策大学院が発足しました。

また、平成19年度には、本学部・大学院の「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成—自由と共同性の法システム—」が日本学術振興会の学術創成研究を内容とする科学研究費補助金の対象研究に採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

【写真】「憲法第一部」の講義風景



法学部の教育

● 卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1回(90分)の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目とがあります。卒業するためには、教養科目を48単位以上、専門科目については、演習2単位を含む80単位以上を取得しなければなりません。

● 第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から20単位以上、自然科学系科目から8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

● 高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生のみが受講・受験することができる専門科目は、半期2単位の、法学入門、政治学入門①・②、家族と法、司法制度論です。

2・3回生担当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一

部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も履修できる2・3・4回生配当科目もあります。刑法第二部と民法第二部がこれに当たります。さらに、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2回生も履修ができます。

上記以外の六法系科目や一部の基礎法関連科目は、3・4回生配当科目となっています。経済学部の一部の科目も履修できます。

演習は3・4回生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周回予習に基づいた活発な討論が行われています。

● 科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成は、1・2回生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として3回生以上で行うことを推奨しているのです。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる専門科目の単位数に上限を設けています（キャップ制といえます）。

■法学部のホームページ：<http://kyodai.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：法学部教務掛 **tel.075-753-3107**

在学生からのメッセージ



「自由」の責任

3回生 尾藤 寛也さん

よく京大は「自由」だと言われます。実際に幅広い選択肢とそれに役立つ場が学生に与えられています。ただ、特に法学部では、これを何の義務もない放任状態と誤解してはいけません。必修科目はありませんが、しかしそのため自分と真剣に向き合っ

て講義を選ぶことになります。講義は簡潔に話すこと以上に学説の最先端の緻密な議論を正確に伝えることを重視して進められるので（その適否は別にして）講義を理解するための自学自習が求められます。ほとんどの講義ではレポートや出席を義務付けておらず、期末考査のみで自分の理解が評価されることになります。

つまり、京大法学部では主体的に勉学に向き合うことになるわけです。この環境で、必ずやみなさんは多くを得ると思います。ぜひ京大法学部に挑みに来ててください。



個性豊かな友人に囲まれて

4回生 小谷 彩佳さん

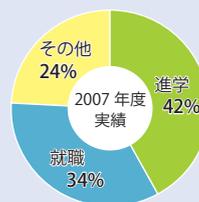
社会を動かしている仕組みについて勉強したいと思って入学しました。授業では、法律・政治・経済など様々な側面から社会を読み解く力を得ることができ、国際政治学ゼミでは、文献を読んで討論したり他大学ゼミと政策提言で競いあったり、非常に充実した日々を送ることができました。

京大法学部は、自分から動かなければ何も始まらないところです。自分の時間の使い方は限りなく自由であり、各々興味のあることに好きなだけ取り組むことができます。そんな環境で個性が磨かれていくでしょう。久しぶりに会った友人と話せば、昨日のテレビ番組から国際情勢に至るまで率直に意見を交わすことができ、自分とは違う視点にハッとすることもしばしばです。

個性豊かな友人たちから様々な刺激を受けることができる、これが本学の一番の魅力ではないでしょうか。

■ 卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約90%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の約23%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。



■ 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

■ 卒業生からのメッセージ



幅広い選択肢が用意された環境

2007年卒業
日本銀行 業務局
国庫業務企画担当勤務
井上 明佳さん

「様々な角度から社会の仕組みを学びたい」と考え法学部を選びました。

優秀な先生方、尊敬できる友人たち、京都という静かな環境に恵まれ、4年間で法律、政治、経済、会計から語学まで多くのことを学びました。特に会社法のゼミでライブドア対ニッポン放送事件等の判例研究を行ったことや、中国法の講義をきっかけに興味を持ち中国に留学したことはよい思い出です。

現在は大学で学んだ知識を活かしながら、銀行員としてさらに専門分野に精通すべく努力しています。そのような中、大学時代の友人たちの活躍を耳にすることはとてもよい刺激になっています。

受験生の皆さん、京都大学はきっと皆さんの期待に応える場所だと思います。「やりたいこと」をどうか忘れず、高い志を持って入学されれば充実した大学生活を送ることができるはずです。



希望する将来に向かって

2007年卒業
京都大学大学院
法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）
島田 裕子さん

一般教養科目で法律に興味を持ち、2回生で法学部に転学、法科大学院に進学しました。法科大学院といえば弁

護士?と思われる方も多いと思いますが、それだけではありませんし、弁護士と一言で言っても色々な種類の弁護士がいます。法科大学院に進学して2年目になりますが、将来についてまだまだ皆さんの選択肢があり、可能性があると感じています。

みなさんはまず大学、学部という選択をするわけですが、京都大学法学部は将来の可能性を広げるという点でも、とてもよい大学だと思います。幅広く開講される授業、著名な教授陣、志の高い仲間…非常によい環境で法律の基本的な知識をしっかりと身につけることができますし、社会学、経済学等隣接する学問を幅広く学ぶこともできます。よく遊び、よく学び、進みたい道を見つけてください。

教員紹介

吉岡一男 教授 (刑事学)

犯罪現象の包括的理解にもとづいて、刑事法や刑罰など刑事制度を中心に、犯罪対応のあるべき姿を検討しています。

森本 滋 教授 (商法)

会社法の比較研究・金融関連法の研究。

芝池義一 教授 (行政法)

国や地方自治体が行っている行政活動のための法制度や個別の制度を分析するための「行政法的一般理論」について研究しています。

徳田和幸 教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における手続保障のあり方、多数当事者訴訟に関する諸問題等についての研究。

河上倫逸 教授 (西洋法制史)

ヨーロッパ近・現代法を歴史的文明現象として把握し、その比較研究。法の歴史的・社会理論の構築。

錦織成史 教授 (民法)

とくに、不法行為、損害賠償の分野を中心に研究しています。

初宿正典 教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

位田隆一 教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

岡村周一 教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

小野紀明 教授 (政治思想史)

特に 20 世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

林 信夫 教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在態様、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

的場敏博 教授 (政治学)

現代日本の政党政治を、①戦後日本の政党政治の流れの中に、②他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

大石 眞 教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

伊藤之雄 教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

山本 豊 教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

寺田浩明 教授 (中国法制史)

伝統中国における法(成文法や裁判や契約)のあり方を比較法制的視点から研究しています。

高木 光 教授 (行政法)

行政活動を適正妥当なものにするための法的ルールはいかにあるべきかを研究しています。

木南 敦 教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といろいろ取り上げています。

松岡久和 教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

真淵 勝 教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

新川敏光 教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

川瀆 昇 教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

村中孝史 教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

浅田正彦 教授 (国際法)

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行っています。

潮見佳男 教授 (民法)

民事責任の基本問題。

亀本 洋 教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

酒巻 匡 教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

山本克己 教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

岡村忠生 教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

洲崎博史 教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

前田雅弘 教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

鈴木基史 教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

山本敬三 教授 (民法)

現代契約法の基礎的研究。

北村雅史 教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

塩見 淳 教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とともに充たしうるような刑法を求めて研究・教育を行っています。

服部高宏 教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

伊藤孝夫 教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

秋月謙吾 教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

横山美夏 教授 (民法・フランス法)

所有に関する法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

中西 寛 教授 (国際政治学)

国際政治の歴史的展開。

佐久間 毅 教授 (民法)

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

笠井正俊 教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

唐渡晃弘 教授 (政治史)

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究。

酒井啓亘 教授 (国際法)

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

土井真一 教授 (憲法)

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。

毛利 透 教授 (憲法)

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

山田 文 教授 (民事手続法)

民事紛争解決手続(訴訟外手続を含む)について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

高山佳奈子 教授 (刑法)

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

中西 康 教授 (国際私法)

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。

橋本佳幸 教授 (民法)

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。

待鳥聡史 教授 (アメリカ政治)

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。

安田拓人 教授 (刑法)

刑事制裁の根拠を探りながら、責任能力論、量刑論、心神喪失者等医療観察法の諸問題等に取り組んでいます。

堀江慎司 教授 (刑事訴訟法)

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。

中田昭孝 教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から研究・教育を行っています。

大山隆司 教授 (刑事裁判実務)

刑事手続法などの理論を刑事裁判実務の観点から研究・教育しています。

松田一弘 教授 (知的財産法)

特許権侵害訴訟及び特許審決取消訴訟に関する諸問題について研究しています。

竹中ゆかり 教授 (刑事法)

刑事手続法及び刑事実体法の実態や問題について実務家(検事)の観点から教育を行っています。

島田幸典 准教授 (比較政治学)

英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。

深澤龍一郎 准教授 (行政法)

行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。

船越資晶 准教授 (法社会学)

批判法学の法・社会理論について研究を行っています。

戸田 暁 准教授 (企業法務)

証券取引法などの企業法の理論と実務に関する諸問題について研究を行っています。

稲森公嘉 准教授 (社会保障法)

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。

曾我部真裕 准教授 (憲法)

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの自由について研究しています。

齊藤真紀 准教授 (商法)

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を行っています。

奈良岡聰智 准教授 (日本政治外交史)

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。

増田史子 准教授 (国際取引法)

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。

愛知靖之 准教授 (知的財産法)

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲固定に関する諸問題を中心に研究を行っています。

佐々木 健 准教授 (ローマ法)

日本や西洋の法の源流に位置するローマ法において私人が利益を実現回復する紛争解決手段を研究しています。

高谷知佳 准教授 (日本法制史)

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究しています。

エスタ ティナ オットマン准教授 (国際公共政策)

国際関係、特に中東地域の紛争・紛争解決を研究しています

専門科目 (平成 20 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、フランス法、憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、社会保障法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門、政治学入門①、政治学入門②、司法制度論、家族と法、外国書講読(英)、外国文献研究(英・独・仏)、特別講義(日本政治思想史、外交史、アセット・マネジメントの実務と法)、特殊講義(政治理論への挑戦：ミシェル・フーコーの思想)、演習	ミクロ経済学1、ミクロ経済学2、社会経済学1、社会経済学2、経済政策論、財政学、経済史1、経済史2、労働経済論、世界経済論、金融論、金融政策、基礎統計学、経済統計学、経営学原理、会計学1、会計学2、経済学史、日本経済史、欧米経済史、社会政策論、公共経済学、公共政策論	法理学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、憲法、行政法、税法、国際法、国際機構法、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、刑法、刑事学、政治原論、政治過程論、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策

経済学部が望む学生像

経済学の研究対象である経済活動は、人間が生きていくために最も基本的なものです。私たちが毎日生活しているのは、多くの人々が日々経済活動を営んでいるからこそ可能になっているものです。しかし、その経済活動は決して単純なものではなく、産業の空洞化、雇用問題、財政赤字、地球環境問題など、私たちが解決すべき経済問題が、次々と新たに発生し、複雑性を増しています。

このような状況を前にして、経済学の課題を解決するためには、即効性のある個々の断片的な知識を詰め込むよりも、どのような事態になっても対応できる柔軟な思考力と創造力を備えることが、むしろ重要であると考えています。このような素質を有した学生を経済学部は期待しております。

経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

【写真】川北教授のゼミ風景



経済学部の教育

● 第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、経済学部が提供する「入門科目」を受講し、経済学の基本を学ぶことになります。入門科目には、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」、「社会経済学入門」、「基礎統計学」、「経済史・思想史入門」、「現代経済事情」、「経営学入門」、「会計学入門」、「情報処理入門」があります。これら9つの科目の概要については、2ページ後に紹介しています。

● 第2学年から学ぶこと

第2学年からは経済学の専門科目を受講することができます。専門科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」として、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、計量経済学、経済統計学、経済史、経済学史、経済思想など経済学の基本となるもの、国の経済活動に関わる経済政策や財政学、資金の流れに関する金融論、経営学の基礎である経営学原理、企業の仕組みに関する経営組織論、企業が顧客に対してどうすればよいかを考えるマーケティング、企業を経営するために必要な資金を考える経営財務論や会計学などがあります。「専門科目」としては、今日の経済・経営の分野において必要とされる多数の講義が用意されています。これら「専門基礎科目」と「専門科目」はすべて選択科目であり、必修科目はありません。さらに、経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて幅広い分野から、自分自身の興味と関心に応じて、自主的に受講科目を選択することができます。

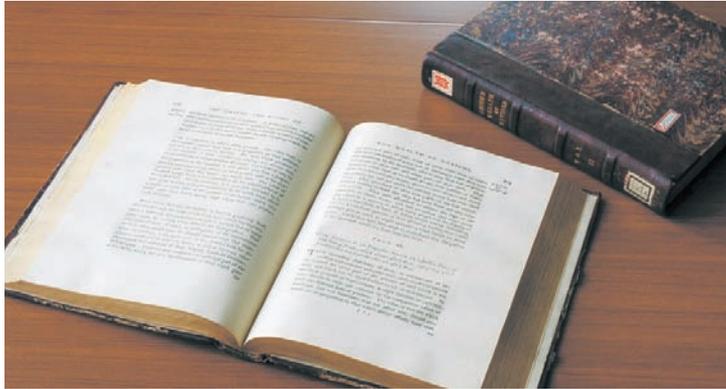
● 少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的テーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。第2学年からゼミナールに参加することができます。ゼミナールは各教員が特定のテーマで毎年各学年10名を募集し、指導します。第3学年進級時に、所属ゼミナールを変更することも認められています。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

● 「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える

基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかりと勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできるところが京都大学経済学部です。



『国富論』

『経済学の父』と称されるアダム・スミスの『国富論』の初版（経済学部図書所蔵）

■経済学部のホームページ：<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：経済学部教務掛 tel.075-753-3406

在学生からのメッセージ



実学を究める

3 回生 大成 安代さん

学問をいくら究めても、それが社会貢献しないのなら、ただの自己満足に終わってしまう。経済学部で学ぶことのできる学問は、この意味において、生活の近くに息づいており、社会貢献しうるものが多い。経済時事問題を解決するツールも多くある。もちろん経済学部で学んだ知識を直接、将来的な社会

貢献に結びつける必要はない。学ぶ過程で得た、自分なりの考え方をどのようにして社会に役立てるかということが最も重要だと思う。

とりあえず、京都大学。とりあえず、経済学部。とりあえず飛び込んできても損は無い。自由な学風のもと、尊敬できる教授陣や友人たちに囲まれて、有意義な学生生活を送ることが出来るに違いない。周りから刺激を受けながら、自分の価値観が再構築されていく楽しさも味わってほしい。

KUBS 京都大学放送局所属
第 23 回 NHK 全国大学放送コンテスト映像 CM 部門優勝
平成 18 年度第 2 回京都大学総長賞



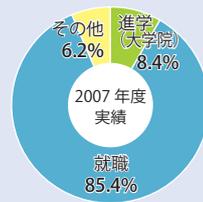
京大ならではの貴重な時間を満喫

2 回生 チョン・ハンジャーさん

日本に留学することが決まり、具体的に大学を選択するとき、学風が気に入るかどうかが非常に気になって、いろいろな大学の案内、ホームページを調べたり、先輩たちからたくさんアドバイスをいただいたりしました。そのなかで、京都大学の「自学自習」の学風が好きになりました。現在は経済学部

に所属していて、幅広い分野の経済学に関する知識を習得するだけでなく、哲学や生命科学などの一般教養科目も受講しています。まさに「自学自習」で自分が勉強したいことを選べるという利点を生かして、さまざまな授業を思う存分楽しんでます。京都大学は、勉学環境面でしっかりサポートしてくれているので、アカデミックな授業と遊びのある学生生活の双方に満足しながら、京大ならではの貴重な時間を満喫しています。大学卒業の後は、シンガポールの外務省に入って、京都大学で学んだ知識を活用しながら、両国のより良好な関係を作っていきたいと思っています。

卒業後の進路



就職先の例

富士通、三菱東京 UFJ 銀行、キャノン、大阪ガス、住友商事、トヨタ自動車、みずほフィナンシャルグループ、関西電力、読売新聞、住友生命、日本生命、三井物産、京都銀行、三井住友銀行

京都大学経済学部はすでに 80 年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年約 1 割の学生は大学院へ進学しています。

経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。

経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理・歴史」、「公民」、「商業」

中学校教諭：「社会」

卒業生からのメッセージ



京都大学での四年間

1999 年卒業
厚生労働省勤務 日野 力さん

私は今、厚生労働省という課題と難問が山積する職場で、自分なりの問題意識を持って、日々格闘しています。

私は、まじめな学生とは言えない生活を送っていました。ゼミは出席しま

したが興味のない授業にはほとんど出ませんでした。ただ、私は、ゼミなどの周りの人から刺激を受けたおかげで、自分なりの問題意識を持って、自分で勉強し、自分で考えることを四年間の学生生活で学ぶことができました。

京大は自由な校風が特徴です。自由というものは、単純にすばらしいことのように思えます。しかし、結果について自分が責任を持たねばならず、過酷な世界です。社会に出て、厳しい現実と直面したときに、何よりも大切な事は、自分で考え行動することです。京大での四年間は、今の私にとって、かけがえのない経験だったと思います。



京都大学で身に着けた「進化」

2003 年卒業
2007 年京都大学経営管理大学院修了
榎峠 弘樹さん

京都大学は「進化する大学」で、時代の挑戦者たることを忘れません。私が学んだ経済学部も、金融工学などの

先鋭的な領域を取り込みながら発展し続けております。経済学は、日々変化し続ける経済現象を対象とする学問です。故に、その進歩は目覚しく、尽きることがありませんが、本学部はそれ以上の速さで進化していると実感いたします。

私が、三菱商事を経た後に籍を置く投資ファンド業界は、ノーベル賞受賞者をも含む世界中の競争相手と、先進的な理論や積み重ねた経験をもとに、知的で激しい戦いを繰り広げる世界です。この厳しい環境の中で私を支えてくれているのは、本学で身に着けた「進化を起こす力」や、経済学の「より良い社会を実現する」という理念です。これからも、自らの限界に挑戦し続け、社会の発展に貢献していきたいと考えています。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測るなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となっています。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えるいたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基いて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるのではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	准教授	講師	助教	助手
経済システム分析	経済理論	八木紀一郎 小島専孝 宇仁宏幸	遊喜一洋	デミター・ヤルナゾフ		
	統計・情報分析	大西 広 森棟公夫		飯山将晃	白井 亨	
	歴史・思想分析	田中秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤祐丈			
経済動態分析	比較制度・政策	今久保幸生 岡田知弘 久本憲夫 岩本武和	黒澤隆文 久野秀二	稲葉久子		
	金融・財政	(植田和弘) 島本哲朗	諸富 徹			
	市場動態分析	西牟田祐二 文 世一				
現代経済・経営分析	現代経済学	西村周三 成生達彦 塩地 洋 根井雅弘 依田高典	渡邊純子	櫻田忠衛		
	国際経営・経済分析	山本裕美 劉 徳強	菊谷達弥 宇高淳郎			
	経営管理・戦略	武石 彰 若林靖永	曳野 孝	マスワナ・ジャン・クロード		
	市場・会計分析	藤井秀樹 末松千尋 若林直樹 澤邊紀生				
	事業創生	日置弘一郎 徳賀芳弘	梶山泰生			
	ファイナンス工学		江上雅彦 岩城秀樹			
	ビジネス科学	吉田和男	松井啓之			
	プロジェクトセンター			宮崎 卓		
寄附講座		木島正明	尾崎祐介		片川真実	

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<p>●入門科目</p> <p>ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門</p>	<p>●専門基礎科目</p> <p>ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2</p> <p>●専門科目 I</p> <p>社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 世界経済論, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 国際経済学, 国際金融論, 労働経済論, 農業経済論, 国際経営史, 国際農政論, 金融政策, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, ネットワーク経済論</p>	<p>●専門科目 II</p> <p>社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 金融リスク論, サービス経済論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 進化経済学, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 組織調査論, 非営利組織経営, 流通論, マーケティング・リサーチ, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 事業創成</p>

大学院連携科目	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
応用計量経済学, 思想史の方法と対象, 国際財政論, 金融システム論, 数理経済学, 国際マーケティング	外国経済書講読, 演習, 卒業論文, 特殊講義	基礎比較経済論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎的な資源論, 基礎組織行動論

理学部が望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

理学部への誘い

自然はどのようになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来からの学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、今また、21世紀COE拠点として、5専攻(系)の全てにあたる5つの教育研究計画が評価され、理学部全体で活動しています。



理学部の教育

● 理学部の教育理念

教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

● 理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身に付け、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス(10数名)が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理学系： 数学
- 物理学系： 物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系： 地球物理学、地質学鉱物学
- 化学系： 化学
- 生物科学系： 動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては卒業研究(講読(数理学系)または課題研究)を履修します。

全学共通科目に関しては、以下のように大まかに言ってA～Dの4群とそれらの組み合わせほかから成っています。

- A 群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B 群科目 自然科学系科目
- C 群科目 外国語科目

D 群科目	保健体育科目
A・B 群科目	科学論など
A・C 群科目	芸術交流論など
B・D 群科目	健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

4 年次では卒業研究に取り組む。

4 年次では、数理科学系では講義と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必修科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部 3 年次から大学院への入学について

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に 3 年以上在学した者で所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、全ての専攻の修士課程または博士後期課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1 年で修士の学位が、または修士課程と合計して 3 年の在学で博士の学位が授与されることがあります。

■理学部のホームページ：<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：理学部第二教務掛 **tel.075-753-3637**

在学生からのメッセージ



多様な価値観の中での「自由」 理学部地球惑星科学系 4 年生 延寿寺 秀朗さん

私は理科系の学問を落ち着いたところで追及したいからという動機でこの学部に入りました。京都大学は学問に打ち込むことができる他に京都という場所にあるために、博物館や美術館を訪れたり、京都御所の一般公開に出かけたりなど色々な体験ができます。またこの学部では自分の専攻したいと思っている以外の理学の授業を履修することもできます。辛いことも多いですが私はたくさんの価値観の中で学問はもちろんその他あらゆることの「自由」を満喫して毎日の学生生活が夢のようです。現在私の専攻している地質学を一生懸命勉強することを第一にしてあらゆる体験をした上で、将来研究者になりたいと私は現在目論んでいる次第です。温かい環境で研究に打ち込みたいという人達にとって京都大学理学部は必ずや有意義であると私は実感しています。



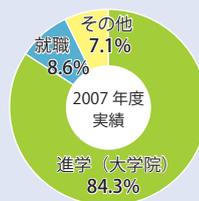
自分の「道」を見つけよう 理学部生物科学系 4 年生 前田 亮さん

私は、網膜の桿体細胞に含まれるロドプシンという視物質の研究をしています。中でも、そのタンパク質の熱安定性について調べています。今では専門的な内容の研究を行っていますが、理学部に入学した当初、私はまだ「生物系でミクロな研究をしたい」という漠然とした考えしか持っていませんでした。

それでも、様々な分野で最先端を進む先生方の講義を受けていく内に、私は「タンパク質の構造」に興味を持つようになり、さらに実習やセミナーを通じて専門的な知識を深めていき、最終的に「桿体視物質ロドプシンの構造変化を研究したい」という思いに至りました。

このように、理学部は非常に幅広い選択肢がある学部です。皆さんにも、そんな自由な校風の中、多種多様な分野から色んな事を学び、自分の進みたい「道」を見つけてほしいと思います。

卒業後の進路



就職先の例
 村田製作所／コーデンシ／日本エアリキード
 構造計画研究所／エスエムジー／アクシス
 ピクセラ／気象庁／追手門学院（中高）
 駿台予備校／福岡県立高校／キーエンス
 吉野石膏／INTEC／DeNA
 新日鉄ソリューションズ／三井住友銀行
 野村證券／リーマンブラザーズ証券
 ウィル不動産販売／キャリアブレイン
 JTB ビジネストラベルソリューションズ
 大阪府信用農業協同組合

卒業後大学院に進学する者が全体の 5 分の 4 以上に達し、博士の学位取得者は毎年 100 人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の 10 分の 1 以下です。

理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状（数学・理科）と中学校教諭一種免許状（数学・理科）の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については、測量法施行令第 14 条第 1 項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を履修することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

卒業生からのメッセージ



好きなことを 好きなだけ学べる環境

2003 年退学（修士課程飛び入学のため）
 東北大学大学院理学研究科数学専攻 助教
 木田 良才さん

私は現在、数学の研究に携わっていますが、その基盤となる知識や研究姿勢は学生時代に培われたものです。数学教室は私に、好きなだけ勉強や研究ができる環境を与えてくれました。実際数学教室では、その欲求を満たすのに十分な量の文献が揃っており、学生は学年に関係なく好きな講義を聴くことができます。さらに、個人的な仲間や素晴らしい先生方に囲まれていたことは、私にとって大変幸運なことでした。

学生時代での私の経験は、現在の研究に大きな影響を及ぼし、その方向性を形作るほど貴重なものになっています。学問のことだけを常に考えられるという時間は、社会に出てからはなかなか得られないものです。自分の時間を豊富に取れる学生時代に、追究したい分野を見つけ、それにとことん時間をかけてほしいと思います。



自分の特性を見極める

2001 年卒業
 京都大学大学院理学研究科
 化学専攻有機合成化学研究室 助教
 橋本 卓也さん

私が学部一回生から彼此十年強ここ京都大学理学部に在籍して感じる本学部の素晴らしさとは、「その門が自然科学に関するありとあらゆる研究分野に通じており、学生自らがその一つ（若しくはそれ以上）を自由に専門として選択できること」に尽きます。おそらく新たにここで学ぶことになる学生はそれぞれ思い描く専門分野や将来像がすでにあることなのでしょうが、せっかくならば特別な門を叩いたわけですし、一旦現計画は保留して数ある中から今一度自分の特性にあった分野を探索することをお勧めします。

また、いつか皆様が研究者として世にでる日までのわずかな学生生活において、勉学とともに人としての深み・面白みを存分に高められることを強く願っております。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いてきましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。

数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、函数解析、複素解析、代数学解析、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性にに応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

有機物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光学、光物理化学、分子構造化学、電子スピン化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、遺伝子動態学

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、ソフトマター物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学I、発生ゲノム科学、放射線生物学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学II、ゲノム情報発現学、分子生物物理学、分子進化学、分子生体情報学、神経生物学、分子細胞生物学、分子発生学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育しています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、関連地球惑星科学



[写真] 数学講究（数理科学系卒業研究科目）の風景

全学共通科目（専門基礎科目）

科目

微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、非線型数学、非線型数学セミナー、現代解析学の展開、函数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理 A、対称性の数理 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、初修物理学 A、初修物理学 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学 A、低温科学 B、ビーム科学入門、レーザー科学、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎化学実験、現代化学入門 A、現代化学入門 B、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎地球科学 I A、基礎地球科学 I B、基礎地球科学 II A、基礎地球科学 II B、地球科学実験 A、地球科学実験 B、Field 地球科学 A、Field 地球科学 B、Visual 地球科学概説、Visual 地球科学演習、地球生物圏史セミナー、地質科学セミナー、地球の物理、地球テクトニクス基礎セミナー、自然災害科学 I、自然災害科学 II、環境地圏科学ゼミナール II、生物学実習 I、生物学実習 II、生物学実習 III、生物自然史基礎論 A、生物自然史基礎論 B、真菌自然史 A、真菌自然史 B、動物自然史 A、動物自然史 B、植物自然史 A、植物自然史 B、生命現象の生物物理学、基礎生物学 A、基礎生物学 B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のすすめ、生態科学、コンピュータグラフィックス実習 A、コンピュータグラフィックス実習 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、グラフ・ネットワーク、科学英語 A、科学英語 B

専門科目

1年次	2年次	3年次
線型代数学演習A, 線型代数学演習B, 地球・惑星科学入門I, 現代化学セミナーA, 現代化学セミナーB	大学で学ぶ物理学, 自然人類学A, 自然人類学B, 集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 基礎数学からの展開A, 基礎数学からの展開B, 数学基礎演習I, 数学基礎演習II, 解析力学1, 解析力学2, 波動と量子論, 熱・統計力学1, 物理のための数学1, 物理のための数学2, 物理学情報処理論, 解析力学1理論演習, 解析力学2理論演習, 熱・統計力学1理論演習, 天文学概論I, 天文学概論II, 地球惑星科学入門II, 地球惑星科学入門III, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習A, 観測地球物理学演習B, 地質科学通論I, 地質科学通論II, グローバルテクトニクス, 基礎地質科学実習, 生物圏進化史, 有機化学I A, 有機化学I B, 物理化学I (量子化学), 無機化学I, 物理化学II, 生物化学I A, 生物化学I B, 分子生物学I, 分子生物学II, 分子遺伝学I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 生体分子科学, 基礎生物学実験I, 基礎生物学実験II, 基礎生物学実験III, 臨海実習第1部	代数学I, 代数学II, 幾何学I, 幾何学II, 解析学I, 解析学II, 微分方程式論, 函数解析学, 複素関数論, 代数学演義I, 代数学演義II, 幾何学演義I, 幾何学演義II, 解析学演義I, 解析学演義II, 数値解析, 計算機科学, 量子力学1, 量子力学2, 量子力学特論1, 熱・統計力学2, 物理実験学1, エレクトロニクス, 物性物理学1, 物性物理学2, 物理実験学2, 物理数学特論1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学3, 電磁気学4, 物理学情報処理論2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学2理論演習, 量子力学1理論演習, 量子力学2理論演習, 電磁気学3理論演習, 電磁気学4理論演習, 現代物理学, 物理学課題演習(原子核物理:素粒子の基本相互作用-量子電磁力学, アインシュタインは正しいか?-EPRパラドックスを検証する-, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の4つの力, 宇宙X線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理学課題演習(物性物理:相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導と巨大磁気抵抗, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス, ソフトマター), 基礎宇宙物理学I. 自己重力, 基礎宇宙物理学II. 電磁流体力学, 基礎宇宙物理学III. 輻射/観測, 物理学課題演習(宇宙物理:天体測光観測, 天体撮像観測, 天体分光観測), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学I, 地震学I, 海洋物理学I, 気象学I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学I, 地形学, 地球惑星科学課題演習(地球物理:固体地球系, 流体地球系), 岩石学I, 岩石学II, 鉱物学I, 鉱物学II, 層序学, 地質調査法, 地史学, 古生物学I, 古生物学II, 地球テクトニクスI, 地層学, 地球テクトニクスII, 地質学機器分析法, 岩石学実験I, 岩石学実験II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検I, 地球テクトニクス実習I, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習(地質鉱物:地質科学研究法1, 地質科学研究法2), 生物化学II, 生物化学III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法I, 化学実験法II, 無機化学II A, 無機化学II B, 物性化学I, 物性化学II, 化学統計力学, 有機化学II, 有機化学III, 化学数学, 物理化学III A, 物理化学III B, 量子化学I, 量子化学II, 分析化学I, 分析化学II, 環境化学, 物理化学演習II, 計算機化学演習, 物理化学演習I, 無機・物性化学演習, 生物化学演習, 化学実験A, 化学実験B, 化学実験C, 化学実験D, 植物系統分類学II, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学I, 生態学II, 人類学第1部, 人類学第2部, 陸水生態学, 遺伝情報維持機構論, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学I, 発生生物学II, 植物生理学, 動物発生進化論, 植物分子生物学, 分子進化論, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報発信学, 数理生物学, 植物分子遺伝学I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学II, 分子生物物理学, 生物学セミナーA, 生物学セミナーB, 生物学実習A, 生物学実習B, 生物学実習C, 生物学実習D, 生物学実習E, 臨海実習第2部, 臨海実習第3部, 臨海実習第4部, 野外実習第1部, 野外実習第2部, 陸水生態学実習I, 陸水生態学実習II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4年次	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学I, 代数幾何学II, 整数論I, 整数論II, 位相幾何学I, 位相幾何学II, 微分幾何学I, 微分幾何学II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論I, 解析学特論II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学I, 保険数学II, 保険数学演習I, 保険数学演習II, 原子核物理学1, 原子核物理学2, 素粒子物理学1, 素粒子物理学2, 重力, 重力特論, ソフトマター, 量子力学特論2, 量子力学特論3, 量子光学・光物性, 物理数学特論2, 非平衡統計, 物性物理学3, 物性物理学4, 太陽物理学, 恒星物理学, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学II, 地震学II, 海洋物理学II, 気象学II, 太陽地球物理学, 陸水学, 火山物理学II, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩石学, 鉱物学実習, 地質科学野外巡検II, 地球テクトニクス実習II, 理論テクトニクス特論, 無機化学III, 物理化学IV, 有機化学IV, 有機化学演習, 物理化学演習III	<p>【数学講究】 代数学講究, 幾何学講究, 解析学講究, 離散数学・計算機科学講究</p> <p>【物理学課題研究】 (原子核科学) 自然における相互作用I, 自然における相互作用II, 素粒子と原子核, 原子核とハドロンの物理, 天体核現象, 高エネルギー天体物理 (物性科学) 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 時空間秩序・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝縮系の理論, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 液体の物理化学・理論生物物理化学, 化学物理理論 (宇宙科学) 太陽物理, 恒星物理, 銀河物理, 理論宇宙物理学</p> <p>【地球惑星科学課題研究】 (地球物理学) 地球・惑星プラズマ, 地球・惑星電磁場, 大気物理, 気候物理, 海洋物理, 地震・地球内部, 測地, 活構造・地表変動・火山物理 (地質学鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</p> <p>【化学課題研究】 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピニ化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</p> <p>【生物学課題研究】 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態科学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 細胞性粘菌における細胞分化と形態形成, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 放射線生物学, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学, 理論生物物理学</p>	数学特別講義, 物理学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物学特別講義

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

アドミッションポリシー (医学部が望む学生像)

京都大学医学部は 21 世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の特任家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているのです。自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

【写真】分子細胞生物学の実習風景



医学科 新医学領域の開拓と革新的医療の創成

● 医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

● 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年、第2学年では、「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主とした科目の履修が主体となります。しかし、これと並行して、生命科学に関する基礎的な教材に関して、少人数で教員と議論したり、あるいは、人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修を開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくことになります。専門科目の勉強と並行して、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

● 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各々が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが設けられました。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークなどが組織されました。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。施設も多額の寄付により、新しく構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行

われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

■医学部医学科・医学研究科のホームページ：
<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：医学研究科 教務・学生支援室
tel.075-753-4325

在学生からのメッセージ



京都大学医学部を選ぶ理由

医学科 4 回生 西村 知華さん

医学部は専門科目が一回生時から始まり、全て必修科目です。また、多くの科目は互いに関係しているので、各々の科目を単体として終わらせるのではなく、知識の体系を作り上げる過程の中に組み込んでいかなければなりません。また、さらにその体系を元に、授業や実習にて自ら思考することも要求されます。

京都大学には素晴らしい環境が整っていますが、その恩恵の多くは手を拱いては手に入りません。視野を広げ様々なことに興味を持ち、自らアクセスすることで手に入るのです。京都大学で享受される自由とは、学問の世界に自分次第で入っていけるということと私は考えます。

京都大学で成長するには学問への強い思いとそれに由来する積極性が不可欠です。直感的に志望校とする前に自分にとって良い環境か、再度問うてみてください。

学科紹介 (医学科)

医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

専門科目 (医学科)

1 回生	基礎医学生物学, 基礎医学生物学(実習), 医学情報リテラシー, Early Exposure
2 回生~ 3 回生	組織学, 組織学実習・組織標本作製実習, 肉眼解剖学講義実習, 発生学, 生理学, 生理学実習, 実験動物学, 分子細胞生物学, 分子細胞生物学実習, 神経科学, 脳実習, 免疫学, 微生物学講義, 微生物学実習, 寄生虫学, 病理学総論, 病理学各論・実習, 法医学, 法医学実習, 薬理学・薬理学実習, 放射線生物学, 遺伝医学, 薬物動態学・毒性学, 医療情報学
3 回生~ 4 回生	社会・環境・予防医学, 診断治療学総論, 循環器病学・心血管外科学, 血液病学, 内分泌・代謝病学/糖尿病・栄養内科学, 呼吸器病学, 消化器病学, 泌尿器科学・腎臓病学, 臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学), 特殊感染症学, 免疫病学, 整形外科学, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 皮膚科学, 小児科学, 加齢医学(老年医学), 精神医学, 麻酔科学・集中治療医学, 救急医学, 臨床腫瘍学, 画像診断学, 口腔外科学, 形成外科学, 医の倫理, 臨床検査医学, リハビリテーション医学, 医療安全学
5 回生~ 6 回生	臨床実習(血液・腫瘍内科, 内分泌・代謝内科, 循環器内科, 消化器内科, 呼吸器内科, 免疫・膠原病内科, 老年内科, 糖尿病・栄養内科, 神経内科, 消化管外科, 肝胆膵・移植外科, 乳腺外科, 小児外科, 眼科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科・人工腎臓科, 腎臓内科, 耳鼻咽喉科, 整形外科, 精神科神経科, 放射線治療科, 放射線診断科, 麻酔科, 集中治療部, 脳神経外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 形成外科, 口腔外科, 薬剤部, 検査部, 感染制御部, 輸血細胞治療部, 病理診断部, 外来化学療法部, 初期診療・救急医学)
6 回生	卒業試験

卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もいますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

卒業生からのメッセージ



'-ism

2007年卒業

京都大学大学院医学研究科医学専攻
神経生物学 中島 則行さん

京大医学部で、学んだポリシーがある。

1. ダイナミズムとホメオスタシスに表れる生命現象の美しさを感じる。
2. 意見を率直に述べて、多くの人と自由に語り合うこと。
3. 夢を持ち明確なヴィジョンに向かって大きな流れを作り出すこと。
4. 感性を研ぎ澄まし、直面している問題の本質を見極めること。
5. すべての現象は、簡単な原理やその本質から一元的に考えること。
6. 極端を避けて中庸に、そして地道に続けること。
7. 成功したら嬉しい。けど失敗しても楽しみ、何度でもチャレンジすること。
8. 常に変化する周囲の速度、加速度を感じ、今いる位置を把握すること。
9. 信念と自信を持ち、ここぞというときに最大の加速度で大きく跳躍すること。
10. そして日々進化を遂げる科学の世界に Fiat lux!
ここには無限の可能性と自由が溢れている。



「自由な学風」とは

2008年卒業

京都大学医学部附属病院研修医
子安 翔さん

京都大学を語る上で必ず耳にするのは「自由な学風」という言葉ではないでしょうか。これはまず単純に「拘束のなさ」という意味での自由を含んで

おり、もちろんそれ自体も大きな魅力ではあるのですが、この言葉の真意は、各分野で世界をリードする先生方が惜しげもなく門戸を開いていらっしゃることにあるのではないのでしょうか。私自身学生時代には、部活に明け暮れる合間に、前研究科長・成宮周教授の研究室において実験研究の手伝いをさせていただき、そこで教授と先輩方の言われるままに手を動かすうちにそれが世界に発信される論文の一部になる、という貴重な経験をさせていただきました。研修医になった現在も、病院内で親しく声をかけて下さる先生が実は大変高名な先生だ、などということは日常茶飯事です。そして、同じくそういった環境を十二分に活用し、能力人格ともに優れた心から尊敬できる仲間たちに囲まれている、ということも京都大学の重要な魅力なのです。

「自由な学風」。すでにやや使い古されてきた感もあるフレーズではありますが、私自身が感じた京都大学の魅力であり、これからもそうあり続けることを切に願います。

人間健康科学科 語らいから学びあい…創りあげる



【写真】看護援助学演習Ⅱ

● 人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、新しく設置した人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

● 人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育過程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チームに積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上で高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

● 授業科目の区分

人間健康科学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通教育は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部人間健康科学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目 (全専攻共通・必修)				<ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻 			

● セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

● 全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに人間健康科学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

● 専門基礎科目

専門基礎科目は医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と平行して第Ⅰセメスターより第Ⅲセメスターまでに、人間健康科学科全専攻の学生は必須単位として共通履修することとなります。

専門基礎科目は生体の基礎、医療の基礎ならびに健康科学より構成され、13科目が含まれその配当単位は合計17単位となっています。全学共通科目として開講される基礎人体構造学、生体制御機構概論、医療情報学、健康人間学の4科目は全専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

● 専門科目（看護学専攻）

看護学専攻では入学時から専門科目を開講します。第1セメスターでは「基礎看護学」「看護カウンセリング論」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第2セメスターでは「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。第3・4セメスターは「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第3セメスター以降は、成人・老年、精神、母性、小児、在宅、地域の各専門領域の科目も開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第7～8セメスターでは「選択実習」と「統合看護（卒業論文）」を開講します。第6セメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、4年間の学習を統合し看護学を深めていくことができるようにしています。

● 専門科目（検査技術科学専攻）

1年次：全学共通科目として「健康について科学すること」を教育テーマの中心として取り上げ、『人間健康科学概論』において、「健康の科学」に関する基盤形成をしていきます。また、チーム医療教育として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習します。広い教養と見識を培う時期です。

2年次：基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に解説する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。

3年次：臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

4 年次：卒業ゼミとして、指導教員のもと各自が学生医学論文のための研究に取りかかります。さらに、3 年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、病院実習として京都大学医学部附属病院の検査部・病理部・輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策に終始することなく、チーム医療教育、地域医療、医療の国際協力など幅広い医療に関する問題および医工連携に直結する実習にも取り組んでいきます。

● 専門科目（理学療法学専攻）

第 I セメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めた後、第 II セメスターから専門科目として人体構造学、運動機能解剖学などの基礎医学を学んでいきます。

第 III セメスターには疾病概論、外傷・救急概論、病理学総論などの専門基礎科目を中心に学び、その後の専門科目を学ぶ上での基礎づくりを行います。そして第 III セメスターから第 V セメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第 VI セメスターから第 VII セメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実験を経験します。第 VIII セメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

● 専門科目（作業療法学専攻）

作業療法学専攻では、第 I、II セメスターで共通科目と並行し、早期臨床体験（臨床実習 I）として作業療法臨床場面を見学することで、作業療法への興味を深めるとともに、人体の構造や機能等の基礎医学を学びます。第 III セメスターでは、作業学や作業分析など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の 3 領域の見学実習（臨床実習 II）など、専門課程を学ぶための基礎づくりを行います。

第 IV から VI セメスターにかけては、作業療法評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第 VI セメスターで講義や演習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習（臨床実習 III）を行います。第 VII、VIII セメスターでは、より高度な臨床応用力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨地実習（臨床実習 IV）を通して学び、卒業研究で、将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

■医学部人間健康科学科のホームページ：<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：医学研究科 教務・学生支援室（人間健康科学科教務担当）

tel.075-751-3906

在学生からのメッセージ



挑戦への喜び—学問を興す

医学部保健学科検査技術科学専攻 4 回生

前田 利雄さん

『健康科学』という言葉から何をイメージしますか。思い浮かばない人がほとんどだと思います。何故なら、これは我々が生み出そうとする新たな学問領域だからです。一人ひとりが心身ともに豊かに生きる社会、この理想に気持ちを揃えて、それぞれの持ち場に全力を尽くしています。実現のためには医学だけでなく、人文社会学も含めた幅広い知識が求められます。

京都大学には新たな学問を志向する伝統があります。どんな時にも情熱を傾けて語りかけて下さる先生方がいます。将来の日本を導かんと切磋琢磨し合える、専門分野を越えての学友がいます。もし興味のある分野がこの学科にあるのなら、もし次世代の医療に挑戦したいと思うのなら、きっと最高の環境といえるでしょう。『健康科学』という新しい宇宙へ、ともに踏み出さずにはありませんか。

■ 卒業後の進路

【看護学専攻】医療系（病院、診療所、助産院、訪問看護ステーション、保健所、介護老人保健施設など）、福祉系（健康福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設、知的障害者援護施設など）、官公庁、企業、教育研究機関、大学院進学など

【検査技術科学専攻】医療系（病院、診療所、保健所等）、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

【理学療法学専攻】リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

【作業療法学専攻】医療系（病院、診療所、保健所、保健センターなど）、福祉系（児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会援護施設、老人福祉施設など）、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

看護学専攻



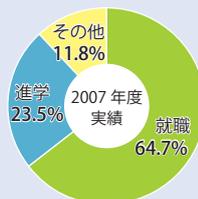
検査技術科学専攻



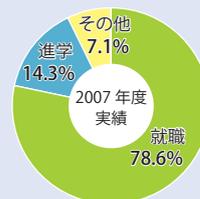
就職	39	病院	28
		企業	6
		その他	5
進学	11	大学院	10
		大学編入	1
その他			5

就職	11	病院	4
		企業	5
		その他	2
進学	24	大学院	24
その他			1

理学療法学専攻



作業療法学専攻



就職	11	病院	10
		企業	1
進学	4	大学院	4
その他			2

就職	11	病院	10
		企業	1
進学	2	大学院	2
その他			1

人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

【看護学専攻】看護師、保健師、助産師

【検査技術科学専攻】臨床検査技師

【理学療法学専攻】理学療法士

【作業療法学専攻】作業療法士

講座紹介 (人間健康学科)

医学部人間健康科学科「看護学専攻」・「検査技術科学専攻」・「理学療法学専攻」・「作業療法学専攻」は平成21年4月より、「看護学課程」・「検査技術科学課程」・「理学療法学課程」・「作業療法学課程」に名称変更する予定です。

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気のだけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む21世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生み育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適應するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。

理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したものの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象とします。

健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象とします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されることです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工医学の3講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しうる研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる基礎的な生理的ならびに病理学情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育、研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

生体医療情報解析に画像診断技術が高度先進医療として導入されつつあります。これらの診断機器を開発・導入する上で、基礎となる情報科学の理論、医用工学技術について習得する必要があります。そのために、情報理工医学講座では、医学・医療分野と工学分野を融合した医工連携による最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来し生活に障害をもたらします。病や障害の有無にかかわらず人間の健康な生活を維持し、豊かにするには、日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉えることが必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、作業機能開発学講座と作業機能適応学講座を設けています。

1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。

全学共通科目 (人間健康学科)

学 科	科 目
看護学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 医学細胞生物学, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 基礎化学実験, 情報科学概論
検査技術科学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 数学基礎 I A, 数学基礎 I B, 数学基礎 II A, 数学基礎 II B, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 医学細胞生物学, 物理学実験, 基礎化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学
作業療法学専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学

専門科目 (人間健康学科)

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	看護学原論, 生活環境看護学, 看護援助学, コミュニケーション論(人間関係論), 看護援助学演習 I, 生活健康実習	生体防御看護学, 看護援助学演習 II, 生活援助実習, 成人看護対象論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 精神看護学概論, 母性看護概論, 母性保健論, 小児看護概論, 小児保健学, 生育医療学, 在宅ケア論, 老年看護学, 保健福祉行政論, 地域看護学概論, 地域看護診断学, 保健看護政策論, 保健行動学習論, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II	成人看護学実習, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 母性看護学演習, 小児看護学演習, 家族看護学, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習	看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論, 緩和ケア論, 患者教育論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ペアレンティング論, 助産診断技術学 I, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 看護研究, 選択実習, 症例研究,
検査技術科学専攻		生化学, 生化学実習, 分子生物学実習, 細胞生物学実習, 微生物学, 微生物学実習, 臨床検査総論, 血液学, 臨床生理学, 医用電子工学, 医用電子工学実習, 検査情報管理学	遺伝子検査技術学, 遺伝子検査技術学実習, 医動物学・実験用動物学, 医動物学・実験用医動物学実習, 病理学各論, 病理組織・細胞検査学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 臨床検査学実習, 臨床生理学, 臨床生理学実習, 臨床化学, 臨床化学実習, 生体応答解析学, 生体応答解析学実習, 医療情報学実習, 診療画像学概論, 画像情報学実習, 検査情報管理学実習, 生体応答解析学, 情報処理工学, 医用核磁気学	公衆衛生学実習, 検査精度管理学, 放射性同位元素検査技術学, 病理組織・細胞検査学実習, 画像診断機器工学, 医用機器システム学, 臨床実習, 臨床病態学, 卒業研究
理学療法学専攻	理学療法見学実習, 理学療法総論, 人体構造学, 運動機能解剖学, 人体機能学	リハビリテーション医学, 運動学, 筋・骨格系病態学, 筋・骨格系理学療法学, 神経系病態学, 人体機能学実習, 発達障害系病態学, 老年医学, 日常生活援助法 I, 精神医学, 人体構造学実習, 理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 義肢学	臨床運動機能学, 臨床運動機能学実習, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, 神経系理学療法学実習, 呼吸循環代謝系病態学, 呼吸理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 理学療法評価学実習, 老年期理学療法学, 地域理学療法学概論, 物理療法学, 生活動作学実習, 循環代謝系理学療法学, 装具学, 臨床評価実習 II, 日常生活援助法 II	身体運動解析セミナー, 画像診断セミナー, 運動機能解剖セミナー, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 臨床実習 II, 卒業研究
作業療法学専攻	臨床実習 I, 人体構造学, 運動機能解剖学, 人体機能学	人体機能学実習, 作業学, 作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 日常生活援助法 I, 臨床実習 II, 発達障害系病態学, 精神医学, 老年医学, 身体障害作業療法治療学総論, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 人体構造学実習, 運動学, 筋・骨格系病態学, リハビリテーション医学, 神経系病態学, 運動機能評価学実習, 高齢期作業治療学, 作業療法適応学原理	作業療法管理運営論, 作業学演習 II, 生活機能評価学実習, 感覚運動統合機能評価学演習, 心理社会機能評価学, 日常生活援助法 II, 臨床実習 III, 研究方法論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業治療学, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 作業療法技術論, 地域作業治療学	臨床実習 IV, 作業療法演習, 卒業研究

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創生し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、生物系、物理系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻、医薬創成情報科学の4つの専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省21世紀COEプログラムをはじめ、創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部にご様を招待します。

〔写真〕生体分子の機能解明を目的とした実験の風景



薬学部の教育

● 高度な職能をもつ薬剤師を育てる

薬学は疾患の治療、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を進展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能をもつ薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

● 1～2回生（薬科学科、薬学科共通）：

全学共通科目を中心にした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

● 3～4回生（薬科学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

● 3～6回生（薬学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4 回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学専門演習を行います。医療薬学専門演習は主として医療薬学分野の研究室をまわり、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4 回生後期から特別実習が行われます。特別実習は 6 回生まで行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5 回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で 5 ヶ月間の実務実習を行います。



【写真】 模擬薬局における調剤実習風景

■薬学部のホームページ：<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：薬学部教務掛 **tel.075-753-4514**

在学生からのメッセージ

薬学部の魅力

総合薬学科 4 回生 上吉川 泰佑さん



薬学部で 6 年制と 4 年制が併設されて 3 年目になりました。6 年制は臨床現場、薬局で薬剤師として活躍することを目指し、4 年制は企業や大学で研究者として活躍することを目指します。以前は「薬学部＝研究」ということが当たり前だと思っていたのですが、1 ヶ月間病院実習によって実際の臨床の現場を体験してチーム医療の一員として活躍されている薬剤師のみなさんの姿を拝見して 6 年制の必要性を痛感しました。

私は遺伝子薬学分野に所属してそのような医療の現場で応用される薬の基礎となる研究を始めました。まだまだ研究者としては初心者ですが、技術を身につけて、将来自分のしたことが薬の開発に役立って病に苦しんでいる方を笑顔にできればと思っています。

研究者、あるいは医療従事者として

総合薬学科 4 回生 安齋 悠樹さん

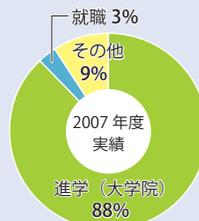


薬学部は、単に医薬品についての知識を修めるための学部ではありません。有機化学、生化学、物理化学、統計学、薬剤学などの観点から、『薬』を通して医療全体を見つめる総合科学です。そのためには幅広い知識が求められ、講義の内容も他学部には類を見ないほど多彩なものです。

現在、京都大学薬学部には 6 年制と 4 年制とが併設されていますが、主として前者は臨床で活躍する薬剤師を、後者は企業や大学などでの研究者を養成する課程です。私の学年（平成 17 年度入学）はまだ 4 年で薬剤師免許が取得できる課程のみなのですが、正直、薬剤師としての態度・技能に関する講義も実習も手薄であり、臨床に出る場合を考えると 6 年制教育の必要性が実感されます。

私は現在、薬品有機製造学/ケモゲノミクス分野に所属して研究者としての道を歩み始めたばかりです。私にはまだ何のスキルもありません。この研究室、学部、そして大学で得られるものを全て吸収して一人前の研究者になりたいと思います。

卒業後の進路



就職先の例

塩野義製薬／武田薬品工業／大塚製薬
アステラス製薬／大日本住友製薬
エーザイ／第一三共／大正製薬／花王
田辺三菱製薬／日本新薬／万有製薬
沢井製薬／久光製薬／大鶴薬品工業
厚生労働省

8 割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の 3 割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では 7 割が製薬会社に就職しています。

薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6 年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、4 年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状、衛生検査技師（薬学科）などの資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



意外と幅広い 薬学部の魅力

2005 年総合薬学科卒業
小林製薬(株) 研究開発カンパニー
薬粧品開発部 医薬品開発グループ勤務
亀井 枝里子さん

京都大学の薬学部が単科の薬科大学と違う点は、薬剤師国家試験の勉強だけでなく、科学的な基礎知識を幅広く学ぶ点です。私は昔から生物が好きだったので、生物を専門的に学べ、また同時に将来活用できる資格を取得できる薬学部を選びました。入学後は生物だけでなく、薬理学や化学など、さまざまな分野の知識を身につけることができました。

薬学部は京大キャンパスの一番南西にあり、京大生でも他学部の人にはほぼ必ず「どこにあるの?」と聞かれるような少し目立たない場所ですが、それは逆に静かでアットホームな環境にあるということ。1 学年の人数も少ないので全員の顔と名前が一致でき、とても一体感のある学部です。

総合大学の活気ある刺激的な空気と、少人数で高校にも似た空気の両方を味わえる薬学部で、みなさんが有意義な学生生活を過ごせるよう応援しています。



生命を理解する

2003 年総合薬学科卒業
千葉科学大学 助手
中山 喜明さん

高校時代、医療に携わる研究者になりたいと考えていた私は、薬というかたちで医療に関わる薬学部に進学しました。薬学は生物・物理・化学を基盤とし、医療に関する分野を融合した総合科学であり、高校までの化学的・物理的な観点や全く新しい観点から生命を理解します。それまで私は生物が苦手でしたが、多彩な専門分野をもった個性的な先生方より、全く想像もしなかったような新しい観点で生物について教わるうちに、いつしか生命の仕組みに興味をもつようになりました。4 回生の研究室配属時には遺伝子をテーマにした研究室に入り、大学院を卒業するまで充実した研究を行うことができました。世界の最先端で研究を行う楽しさと難しさを同時に経験することができました。薬学部には多くの新しい可能性が存在すると思います。そんな薬学部で充実した学生生活が送られるよう応援しています。

学科紹介

薬科学科

医薬品の創成，生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うために，大学院に進学します。

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習，病院実習，調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが，さらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

研究室紹介 (大学院の基幹分野，協力講座，寄附講座，COEプログラム協力講座，統合薬学フロンティア教育センター)

創薬科学専攻

薬品有機製造学：藤井信孝 教授 (兼任)

- 1) ゲノム/プロテオーム情報取扱い型創薬研究
- 2) 7回膜貫通 G-蛋白共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3) ペプチド類縁体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤，抗ウイルス剤，抗癌剤の分子設計・合成研究
- 5) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用

薬品合成化学：富岡 清 教授

- 1) 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2) 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3) 分子の高次構造制御の有機化学
- 4) 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 5) 生物活性天然物の全合成

薬品分子化学：竹本佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学：伊藤美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究，特にテルペノイドの合成機構の解明
- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 海外伝統薬物の調査研究

薬品機能解析学：松崎勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

構造生物薬学：加藤博章 教授

- 1) X線結晶構造に基づいた ABC トランスポーターの構造生理学
- 2) ベルオキシソーム膜タンパク質の膜局在化メカニズムの構造生物学
- 3) 精密立体構造に基づく酵素の触媒作用の構造的起源の解明
- 4) X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

ゲノム創薬科学：辻本豪三 教授 (兼任)

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲッ

トバリデーショ

- 2) ゲノムインフォマティクによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファン G 蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 4) 遺伝子改変動物，病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

製剤機能解析学：半田哲郎 教授

- 1) リポ蛋白質粒子とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- 2) デイク状 HDL の新生に関する生物物理化学的研究
- 3) 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- 4) レムナント粒子の細胞毒性に関する研究
- 5) ペプチドによる受容体型キナーゼの機能抑制に関する研究

精密有機合成化学：川端猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生命薬科学専攻

生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体 Ca²⁺ シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の新規情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

分子微生物学：渡部好彦 准教授

- 1) インターフェロン産生と作用機序 (抗ウイルス機構) の解析
- 2) インターフェロンに対する多面的な細胞応答機序の解析
- 3) インターフェロンと各種疾患との相関の探索
- 4) インターフェロン遺伝子治療の基礎的研究

生体機能解析学：金子周司 教授

- 1) イオンチャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬，機能解析，薬効解析，安全性評価，病因論，ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

遺伝子薬学：伊藤信行 教授

- 1) 細胞増殖因子 (FGF) の脂肪組織，骨・軟骨，脳形成な

どにおける役割の解明

- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成，組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

生理活性制御学：小堤保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学：中山和久 教授

- 1) コリン体を中心としたタンパク質の細胞内輸送および局在化機構の解明
- 2) プロスタグランジン受容体による局所ホメオスタシスの維持機構の解明

3) マスト細胞と局所環境のゲノムネットワーク研究

- 4) 7回膜貫通型受容体 (GPCR) による G タンパク質共役機構の解析

神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成，神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体 G 蛋白質及び低分子量 G 蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学：二木史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガー型転写因子の DNA 認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング (核・ミトコンドリアなど) の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

医療薬科学専攻

薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法，製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器，細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 中枢神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 3) 胎仔血清に由来する神経保護物質セロフェンド酸の作用機序の解析
- 4) 生体および天然物に由来する神経機能制御学保護活性物質の探索研究

5) ニューロン生存と神経再生制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能解析学：佐治英郎 教授

- 1) 脳疾患，心疾患，がんでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれに基づく病態の仕組みの解明及び薬物作用の解明に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行，選択的活性化をおこす機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学：高倉喜信 教授

- 1) 遺伝子治療・DNA ワクチン療法最適化を目指した核酸医薬品の設計と体内動態制御
- 2) 免疫応答制御を目指したタンパク質・DNA ワクチンの開発
- 3) RNA 干渉を利用した疾患治療システムの開発
- 4) 核酸医薬品による免疫活性化機構の解明と疾患治療への応用

5) 高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法の開発

医療薬剤学：乾 賢一 教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポータの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポータ・代謝酵素の遺伝的多型とテーラード医療

医薬創成情報科学専攻

薬理ゲノミクス：辻本豪三 教授

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファン G 蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

ケモゲノミクス：藤井信孝 教授

- 1) ゲノム / プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 7回膜貫通 G-蛋白質共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3) ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痴呆剤の分子設計・合成研究
- 5) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用

システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。

- 2) 哺乳類時計遺伝子の同定とリズムの分子機構の研究
- 3) 多層にわたる時間の分子ネットワークシステムの研究
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー（制御分子学）：掛谷秀昭 教授

- 1) 多因子疾患（癌、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル合成研究等）

システムケモセラピー（創薬計算化学）：北浦和夫 教授

- 1) 生体高分子のための量子化学計算法の開発
- 2) 生体高分子の構造と機能の理論的研究
- 3) 蛋白質と低分子の分子間相互作用の理論解析
- 4) 計算化学手法によるドラッグデザイン

統合ゲノミクス：金久 實 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) バイオインフォマティクスに基づく創薬ターゲット探索とバリデーション
- 3) 薬物・化学物質と生体システムとの相互作用予測・反応予測
- 4) 創薬・医療のための統合データベース開発

分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

寄附講座

創薬神経科学：杉本八郎 寄附講座教授

- 1) アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の病因解明に基づく創薬研究
- 2) 生体内物質や天然物の中から生理活性物質を探索し創薬のリードを発見
- 3) ゲノムや神経再生医療技術を駆使した創薬アプローチに関する研究
- 4) コリンエステラーゼ阻害薬の神経細胞保護作用のメカニズムの解明に基づく創薬研究

医薬品理論設計学：北浦和夫 寄附講座教授

- 1) 電子状態理論による蛋白質と医薬品候補化合物の分子間相互作用の精密解析
- 2) 統計・情報理論による医薬品候補化合物の高速・高精度親和性予測法の開発
- 3) ドラッグデザインのための計算化学的手法の開発
- 4) 計算化学的手法および SBDD による医薬品化合物の論理的な探索研究
- 5) 生体高分子の構造・機能に関する理論的研究

ナノバイオ医薬創成科学：清水一治 寄附講座教授

- 1) 最先端工学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究
- 2) 先端ナノバイオ工学技術 DNA チップによるがん等の臨床検体の分析
- 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用したテーラード医療
- 4) 分子標的薬のターゲット探索、薬理ゲノミクス研究

COE プログラム協力講座

生命知識システム学：金久 實 教授

- 1) バイオインフォマティクスに基づく創薬科学研究
- 2) 代謝パスウェイ、代謝物質、酵素反応に関する情報科学的解析
- 3) 糖鎖と糖関連遺伝子に関するゲノム科学的解析
- 4) タンパク質と低分子化合物の相互作用予測
- 5) ゲノム多型情報、遺伝子発現情報等の有効利用技術の開発

統合薬学フロンティア教育センター

本センターは、特任教員5名と兼任教員、連携教授から成り、新概念に基づくe-ラーニングを実践する統合型教育支援薬学情報ナビゲーションシステムを始め、薬学の全学問領域を体系的に統合した薬学フロンティア教育プログラムを開発し、革新的医薬品開発、高度先進医療を担う薬学人を育成すると共に、連携ネットワークによる展開を図る。

統合薬学教育開発分野：奥野恭史 准教授
臨床薬学教育開発分野：矢野義孝 准教授

先端薬学教育開発分野：柝倉匡文 准教授
医療人 GP：柴田敏之 特任教授

全学共通科目（必須・選択必須科目）

科目

薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学A、基礎有機化学B、数学基礎A、数学基礎B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、物理学実験、基礎化学実験、生物学実習Ⅲ、薬用植物学、基礎情報処理1、基礎情報処理2

専門科目（予定）

	1 回生	2 回生～	3 回生～	4 回生	5 回生	6 回生
化学系講義科目		有機化学1（有機合成化学）、有機化学2（生物有機化学）、天然物薬学1（天然物化学）、天然物薬学2（薬用資源学）、創薬有機化学エクササイズ	有機化学3（創薬化学）、有機化学4（精密合成化学）、天然物薬学3（生薬学）、有機化学5（生体機能化学）、医薬品化学・新薬論			
物理学系講義科目		物理化学1（量子化学）、物理化学2（電気化学・界面化学）、分析学1（薬品分析学）、分析学2（放射化学）、物理化学3（構造化学）、分析学3（分光学）、創薬物理化学エクササイズ1、創薬物理化学エクササイズ2	分析学4（臨床化学）、物理化学4（生物物理化学）			
生物系講義科目		生物化学1（物質生化学）、生物化学2（代謝生化学）、生物化学3（基礎遺伝子学）、衛生薬学1（健康化学）	微生物学1（細菌学）、生物化学4（応用遺伝子学）、生物化学7（生体防御学）、微生物学2（ウイルス学）、衛生薬学2（環境衛生学）、生物化学5（細胞生物学）、生物化学6（生理化学）			
医療系講義科目	生理学1（解剖生理学）、医療薬学チュートリアル演習1、先端医療 SGD 演習1	生理学2（分子生理学）、生理学3（病態生理学）、薬理学1（総論・未梢薬理）、薬理学1（溶液製剤論）、医療薬学チュートリアル演習2、先端医療 SGD 演習2 演習1	薬理学2（循環器薬理）、薬理学3（中枢神経薬理）、薬理学2（固形製剤論）、薬理学3（薬物動態学）、生理学4（病態ゲノム学）	医療薬剤学1、薬局方・薬事関連法規、臨床薬学総論、薬物治療学1、薬物治療学2、医療薬剤学2		
情報系講義科目		バイオサイエンス統計基礎		基礎バイオインフォマティクス、応用バイオインフォマティクス		
専門実習			薬学専門実習1、薬学専門実習2、薬学専門実習3、薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、特別実習	医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、医療実務事前学習、病院実務実習、薬局実務実習、特別実習	医療薬学ワークショップ、医療薬学実験技術、学術情報論、臨床薬学総論、特別実習

工学部が望む学生像

- ・高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- ・創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30（1897）年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3（1914）年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8（1919）年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成20年4月現在で工学研究科の地球系専攻、建築学専攻、電気系専攻、化学系専攻が移転を終え、今後も順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、学科によっては第4学年の授業と特別研究（卒業研究）を桂キャンパスで行うことがあります。

【写真】イオン加速器を用いた実験の風景



工学部の教育

◎「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るといえることに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

◎第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

◎高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

◎第4学年では特別研究（卒業研究）に取り組む

第4学年では、特別研究（卒業研究）を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士（工学）の学位を取得することができます。

◎カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重

視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

■工学部のホームページ：<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：工学部教務掛 **tel.075-753-5039**

在学生からのメッセージ



自分の、世界の未来を創る

電気電子工学科 4 回生 森岡 直也さん

電気電子工学の技術は、現代社会の基盤として実に幅広い面から世の中を支えており、これからの社会の更なる発展のためにも必要不可欠なものです。また、環境問題にも電気エネルギーの観点からアプローチを行います。このような高いポテンシャルを持つこの学問に、私は大きな魅力を感じています。

京大工学部は、即座に世の中で役に立つものを作るための技術を学ぶ場所ではなく、「こういうことができたらいいのに」というような内容を実現するための基礎的な研究を行う場所です。電気電子工学科では、そのための環境や実験施設が十分に用意されていますし、先生方もユニークで（とことどころ変で）熱心な方ばかりです。自分の考える「こういうことができたらいいのに」を実現させたいと思っているような人には最高の環境ではないでしょうか。



ただひたすらに

情報学科 4 回生 石塚 祐一郎さん

何ができるようになったかわからない。情報学科数理工学コース 4 回生の率直な感想です。情報学科と言えど、数理工学コースは理論、すなわち数学の連続になり、すべきことを見失いがちです。でも今研究室に配属されてようやく、できることが増えてきた感じです。講義や実験はよく分からないことも

多いですが、やったことを体でなんとなく覚え、めげずにやり通せば、いざ研究室に配属されたときにきつと役に立ちます。

また、情報学科数理工学コースは理系としては比較的緩やかなカリキュラムから成り立っています。余った時間をどう活用するかは自分次第。本気で何か打ち込もうと思うことさえできれば、きつと十分な時間が得られるはず。実際僕もサークル活動を通して、普通では身につけられないような能力を手に入れることができました。皆さんが充実した学生生活を送れることを願っています。



自分から行動していく場所

工業化学科 4 回生 藤埴 大裕さん

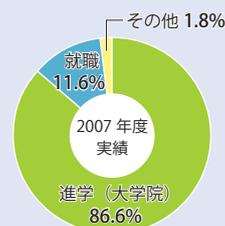
もともと化学が好きで環境問題を解決できる化学物質を作りたいと思っていた僕は、高校の先生に勧められてオープンキャンパスに参加したときに桂キャンパスの研究施設を見て、その充実ぶりに惹かれ京都大学工業化学科を選びました。

大学では特に自分から行動しなければなりません。時間割を考えたり、自分で必要だと思った内容を自分で調べたり、プロセス設計という授業ではどのプロセスを作るか探したりと様々なことに自主性が必要となります。また、そうした自主性は勉強だけのことではなく、時間を作ってサークルやバイトに積極的に打ち込むことも出来ます。

今、化学とは少し異なる化学工学という分野を学んでいます。まだまだわからないことが多く勉強しないといけませんが、将来は化学工学の知識を活かし環境問題に取り組んでいきたいです。

卒業後の進路

本学部卒業生の 5 分の 4 以上（平成 19 年度 87%）の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。



工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。（また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。）

卒業生からのメッセージ



一人一人が主役です。

2001 年地球工学科卒業
環境省総合環境政策局
環境研究技術室勤務
夏井 智毅さん

当時高校生だった私は、地球工学科というダイナミックな響きに引かれて、入学。すばらしい先生方、ともに語らう友人（自分らしさと自信を備えた人たち）らの中で、環境工学を学びました。僥倖ながら、私が思う京都大学像を少しお話すると、京大の伝統は、自主性を重んじ、既成概念にとらわれない自由な学風です。自由とは「易きに流れる」自由でなくて、一人一人が主役となって、自ら問題提起し、自らで探求・解決していくことを学生に求めるものです。京大は、こんな姿勢で、創造的チャレンジに挑んでいる個性ある人たちの集まりです。みなさんも、ぜひ、京大で、自ら行動し、主役気分を味わってください。そうすれば、京大はみなさんの可能性を引き出してくれるでしょう。



やりたいことが見つかる場所

2005 年建築学科卒業
株式会社竹中工務店
プロジェクト開発推進部
佐藤 陽介さん

私は大学に入るまで、大学がどんな場所か何ができるのかがよくわかりませんでした。しかし大学入ってみるとそんなことはまったくなく、いろいろな興味があふれていました。個性豊かな人も多くいて、みんな自分がしたいと思うことに打ち込んでいました。私も多くの人から刺激を受け、海外旅行や、外国人との交流イベントの企画・開催など、好きなことに打ち込むことができたと思います。建築に関しても、次第に自分がどんなことに興味があるかわかってきて、最終的にまちづくりの研究室に入りました。そこでの研究はいまの建築の企画という仕事でも生きています。

大学はやりたいことができる場所であるとともに、やりたいことを見つけられる場所だと思います。みなさんも大学に入ってやりたいことを見つけ、大いにそれに打ち込んでください。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明の運営に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び建築技術者、行政的な指導、監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組み新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、エネルギー理工学のエネルギー応用工学と原子核工学、宇宙基礎工学の5つのコース・サブコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究科、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる“情報”の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では“数理的思考”によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各コースの研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子 2009」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子 2009」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科指定科目)

学 科	科 目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、図学 A、図学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生物自然史基礎論 A、生化学入門 101、生化学入門 102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)
建築学科	自然現象と数学、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学 A、微分積分学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学 A、図学 B、コンピュータグラフィクス実習 A 又は B、物理学実験、生活と数学 A、生活と数学 B、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、図学 A、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、自然現象と数学、物理学基礎論 A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、函数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B
情報学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、情報と社会、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

専門科目

学 科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
地球工学科	地球工学総論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理, 情報処理及び演習	確率統計解析及び演習, 地球工学基礎数理, 一般力学, 社会盤デザイン, 基礎環境工学Ⅰ, 資源エネルギー論, 工業数学 B1, 構造力学Ⅰ及び演習, 水理学及び演習, 土質力学Ⅰ及び演習, 計画システム分析及び演習, 環境衛生学, 物理探査学	測量学及び実習, 連続体の力学, 工業数学 B2, 構造力学Ⅱ及び演習, 材料学, 波動・振動学, 水文学基礎, 水理水工学, 海岸環境工学, 土質力学Ⅱ及び演習, 土質実験及び演習, 社会システム計画論, 基礎環境工学Ⅱ, 大気・地球環境工学, 水質学, 環境装置工学, 放射線衛生工学, 環境工学実験Ⅰ, 地質工学及び演習, 弾性学及び演習, 流体力学, 物理化学, 資源工学基礎計測, 資源工学地化学実験, 先端資源エネルギー工学, 学外実習, 空間情報学, 構造実験・解析演習, コンクリート工学, 耐震・耐風・設計論, 河川工学, 水資源工学, 水理実験, 地盤環境工学, 岩盤工学, 都市・地域計画, 公共経済学, 交通マネジメント工学, 交通政策論, 都市景観デザイン, 上水道工学, 下水道工学, 廃棄物工学, 環境工学実験Ⅱ, 資源工学のための材料学, 波動工学, 応力解析法及び演習, 熱流体工学, 分離工学, 工業計測, 資源工学材料実験	地球工学デザイン A, 地球工学デザイン B, 地球工学デザイン C, 土木法規, 地球防災工学, 材料実験, 地殻海洋資源論, 地殻開発工学, 塑性学及び演習, 時系列解析, 工学倫理, 建築工学概論, 特別研究
建築学科	基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 建築工学概論, 日本都市史, 世界建築史, 設計演習基礎, 造形実習	建築計画学Ⅰ, 住居計画学, 建築設計論, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 建築環境工学Ⅰ, 建築環境工学Ⅱ, 建築構造力学Ⅰ, 建築構造力学Ⅱ, 建築生産Ⅰ, 建築材料, 建築・都市行政, 景観デザイン論, 建築情報処理演習, 工業数学 C	都市設計学, 行動・建築デザイン論, 日本建築史, 建築設備システム, 鉄筋コンクリート構造Ⅰ, 鉄骨構造Ⅰ, 建築構造力学Ⅲ, 建築生産Ⅱ, 建築論, 都市・地域論, 都市環境工学, 建築光・環境学, 建築温熱環境設計, 建築構造解析, 耐震構造, 鉄筋コンクリート構造Ⅱ, 鉄骨構造Ⅱ, 設計演習Ⅲ, 設計演習Ⅳ, 建築応用数学, 建築情報システム学	建築計画学Ⅱ, 建築基礎構造, 耐震構造, 地球工学総論, 設計演習Ⅴ, 構造設計演習, 構造・材料実験, 建築安全設計, 建築環境工学実習, 建築環境工学演習, 工学倫理, 専門英語, 特別研究
物理工学科	物理学総論 A, 物理学総論 B, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	計測学, 計算機数学, 材料力学Ⅰ, 材料力学Ⅱ, 熱力学Ⅰ, 熱力学Ⅱ, 機械設計製作, 工業数学 F1, 工業数学 A1, 材料基礎学Ⅰ, 固体物理学, 原子物理学, 流体力学Ⅰ, 物質科学基礎, 材料統計物理学, 材料科学基礎Ⅰ, 材料科学基礎Ⅱ, 化学熱力学基礎, 原子核工学序論Ⅰ, 原子核工学序論Ⅱ, 機械製作実習, 電気回路と微分方程式, エレクトロニクス入門	エレクトロニクス入門, 応用電磁学, 工業数学 F2, 工業数学 A2, 工業数学 F3, 工業数学 A3, 数値解析, 材料基礎学Ⅱ, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 連続体力学, 流体熱工学, 工業力学 A, エネルギー変換工学, 振動工学, 制御工学Ⅰ, 制御工学Ⅱ, システム工学, 生産工学, 薄膜材料学, 精密加工学, 設計工学, 材料組織学, 結晶物理学, 材料物理化学, 量子物性基礎論, 構造物性学, 熱及び物質移動, 統計力学, エネルギー・材料熱化学Ⅰ, エネルギー・材料熱化学Ⅱ, 固体物性論, プラズマ物理学, 量子反応基礎論, 中性子理工学, エネルギー化学Ⅰ, エネルギー化学Ⅱ, 流体力学Ⅱ, 統計熱力学, 量子線計測学, 気体力学, 熱統計力学, 空気力学, 推進基礎論, 航空宇宙機力学, 固体力学, 量子無機材料学, 固体電子論, 材料機能学, 材料プロセス工学, 環境物理化学, 高分子材料概論, 物理学演習Ⅱ, 物理工学演習Ⅱ, 機械システム工学演習, 機械システム工学実験Ⅰ, 機械システム工学実験Ⅱ, 機械システム工学実験Ⅲ, 機械設計演習Ⅰ, 機械設計演習Ⅱ, 材料科学実験および演習Ⅰ, 材料科学実験および演習Ⅱ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅰ, エネルギー理工学設計演習・実験Ⅱ, 航空宇宙工学実験Ⅰ, 航空宇宙工学実験Ⅱ, インターフェース, 金属材料学, 材料強度物性, 材料量子化学, 材料電気化学, 材料分析化学, 加速器工学, 放射化学	量子物理学Ⅱ, 人工知能基礎, システム工学, マイクロ加工学, 物理学英語, 固体物性学, 信頼性工学, 品質管理, 機械要素学, 核物理基礎論, 生物物理学, 原子炉基礎演習・実験, 基礎解析, 有限要素法の基礎と演習, 航空宇宙工学演義, 工学倫理, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ
電気電子工学科	電気電子工学概論, 電気回路基礎論, 電気電子回路, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	電子回路, 電気電子工学実験 A, 電気電子工学実験 B, 電気電子プログラミング及演習, 電気電子数学, 電磁気学Ⅰ, 電力回路, 電気機器Ⅰ, 論理回路, 計算機工学, 情報理論, 物性・デバイス基礎論, 半導体工学	電気電子工学実習 A, 電気電子工学実習 B, 電気電子計算工学及演習, グラフ理論, 電気回路, 電磁気学Ⅱ, デジタル回路, 電気電子計測Ⅰ, 電気電子計測Ⅱ, 自動制御工学, デジタル制御, システム最適化, 知能型システム論, 電気機器Ⅱ, パワーエレクトロニクス, 発電工学, 放電工学, 通信基礎論, 情報伝送工学, 通信ネットワーク, 電波工学Ⅰ, マイクロ波工学, 計算機ソフトウェア, 計算機システム, デジタル信号処理, 固体電子工学, 電気電子工学のための量子論, プラズマ工学, 真空電子工学Ⅰ, 電気電子材料学, 光工学Ⅰ, 生体医療工学	電波工学Ⅱ, 光通信工学, 電力系統工学, 絶縁設計工学, マンマシンシステム工学, 電気応用工学, 音響工学, 真空電子工学Ⅱ, 光電子デバイス工学, 光工学Ⅱ, 電気伝導論, 電気電子英語, 工学倫理, 電気法規, 電波法規, 特別研究
情報学科	計算機科学概論, 数理工学概論, アルゴリズムとデータ構造入門, 線形計画, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 基礎情報処理演習	工業数学 A1, 数理工学実験, 基礎数理演習, プログラミング演習, 計算機科学実験及演習Ⅰ, 計算機科学実験及演習Ⅱ, システム解析入門, 論理システム, システムと微分方程式, 解析力学Ⅰ, 意思決定論, 論理回路, 言語・オートマトン, 計算機アーキテクチャⅠ, プログラミング言語, コンパイラ, 電子回路, 情報理論, コンピュータネットワーク, グラフ理論, 数値解析	コンピュータネットワーク, 数値解析, 工業数学 A2, 工業数学 A3, 線形制御理論, 確率と統計, 確率離散事象論, 応用代数学, 人工知能, ヒューマンインタフェース, 数値計算演習, 数理工学セミナー, システム工学実験, 計算機科学実験及演習Ⅲ, 計算機科学実験及演習Ⅳ, 物理統計学, 連続体力学, 量子物理学Ⅰ, 量子物理学Ⅱ, 現代制御論, 最適化, 非平衡系の数理, 情報システム理論, 計算機アーキテクチャⅡ, オペレーティングシステム, パターン認識, データベース, 集積システム入門, 技術英語, 情報システム, アルゴリズム論, 画像処理論, ソフトウェア工学, マルチメディア, 計算と論理, 生命情報学, 情報と通信の数理, 電子回路	信号とシステム, 数理解析, 非線形系の力学, 情報と職業, 通信基礎論, 工学倫理, ビジネス数理, 特別研究
工業化学科	工業化学概論Ⅰ, 工業化学概論Ⅱ, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習, 有機化学基礎及び演習, 基礎無機化学, 化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学Ⅰ(創成化学), 物理化学Ⅰ(創成化学), 無機化学(創成化学), 分析化学(創成化学), 高分子化学基礎Ⅰ(創成化学), 化学数学(創成化学), 化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学Ⅰ(工業基礎化学), 無機化学Ⅰ(工業基礎化学), 分析化学Ⅰ(工業基礎化学), 有機化学Ⅰ(工業基礎化学), 有機化学Ⅱ(工業基礎化学), 化学プロセス工学, 化学数学Ⅰ(工業基礎化学), 最先端の化学入門(工業基礎化学) 【化学プロセス工学コース】物理化学Ⅰ(化学工学), 無機化学Ⅰ(化学工学), 基礎流体力学, 化学工学数学Ⅰ(化学工学), 化学工学計算機演習, 反応工学Ⅰ	【創成化学コース】創成化学実験(創成化学), 有機化学Ⅱ(創成化学), 生体関連物質化学(創成化学), 物理化学Ⅱ(創成化学), 高分子化学基礎Ⅱ(創成化学), 統計熱力学入門(創成化学), 機器分析化学(創成化学), 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(創成化学), 物理化学Ⅲ(創成化学), 錯体化学(創成化学), 最先端機器分析(創成化学), 高分子化学Ⅰ, 化学生物学, 材料有機合成化学, 環境安全化学 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験(工業基礎化学), 物理化学Ⅱ(工業基礎化学), 有機化学Ⅱ(工業基礎化学), 無機化学Ⅱ(工業基礎化学), 分析化学Ⅱ(工業基礎化学), グリーンケミストリー概論, 生化学Ⅰ(工業基礎化学), 高分子化学概論(工業基礎化学), 化学数学Ⅱ, 環境保全概論, 有機化学Ⅲ(工業基礎化学), 物理化学Ⅲ(工業基礎化学), 無機化学Ⅲ(工業基礎化学), 生化学Ⅱ, 生物化学工学, 有機工業化学, 高分子化学概論Ⅱ(工業基礎化学), 量子化学概論, 環境安全化学, 界面基礎化学 【化学プロセス工学コース】移動現象, 流体系分離工学, プロセス制御工学, 物理化学Ⅱ(化学工学), 化学工学数学Ⅱ, 計算化学工学, 化学工学実験(化学工学), 環境保全概論, 反応工学Ⅱ, 固相系分離工学, 微粒子工学, プロセスシステム工学, 化学工学シミュレーション, 生物化学工学, 環境安全化学, 物理化学Ⅲ(化学工学), 有機工業化学	【創成化学コース】電気化学, 有機分光学, 高分子化学Ⅱ, 化学のフロンティア(創成化学), 産業科学特論, 有機金属化学, 工学倫理, 化学実験の安全指針, 特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針, 触媒化学, 化学統計力学(工業基礎化学), 有機分光学, 電気化学, 有機金属化学, 先端機器分析科学(工業基礎化学), 工学倫理, 特別研究 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針, プロセス設計, 工学倫理, 特別研究

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々なかつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育で求められる十分な学力を有する人材を求めます。

農学部への誘い

衣食住は人間の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人間の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれません。しかし今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら品種改良や、食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきかという問題を考えている人たちもいます。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科（農学科）、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万7千名に及ぶ卒業生を社会に送り出し、食料生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動にはなおいっそうの自然との調和が求められます。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をかけない方法や技術を見つけだしていかなければならないのです。

この大きな課題に皆さんもぜひチャレンジしてください。

【写真】調査研究方法実習における農村調査



農学部の教育

● 専門知識の習得と広い視野の育成

農学部では、資源生物科学科（生物系）、応用生命科学科（化学系）、地域環境工学科（物理系）、食料・環境経済学科（社会科学系）の基礎系4学科と森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重し、学生の自主的判断を活かすつ、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成をめざしています。

人間社会は、地球上の動植物や微生物と共存しながらそれらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、生物が食物連鎖や物質循環をおとしてどのような生態系を形成しているのかについての深い理解が欠かせません。また人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げていくことが求められます。

● どのように学ぶか

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわれます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられます。学科にとらわれない幅広い学識を養うことを目的にまず1～2回生では主に、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。これと並行して専門基礎科目も開講され、3回生からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では講義に加え、実験、実習、ゼミナールが重視され、各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。さらに4回生では研究分野（研究室）に分かれて課題研究（卒業研究）に取り組みます。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士（農学）の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

農学部の教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館北の農学・生命科学棟、宇治キャンパス（京都府宇治市）、農学部附属の農場（大阪府高槻市）・牧場（京都府京丹波町）でも行われます。

● 生産現場に根ざした教育・研究

上の写真のように実際の生産・農産物流通の現場に出かけ、そこにある問題点を分析し、解決策を導く手法を学ぶというフィールド実習もおこなわれます。附属の農

場と牧場もあり、教育・研究の場として利用されています。附属農場では、農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした研究が行われています。附属牧場は、総面積約15haを有し、肉用牛を用いて、産肉生理学的な面からの研究を行うとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。



【写真】 食料・環境経済学科のゼミ風景

■農学部のホームページ：<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ：農学部第一教務掛 [tel.075-753-6012](tel:075-753-6012)

在学生からのメッセージ



悩んで迷って、突き進める環境

地域環境工学科 4年生 伊木のり子さん

古代から営まれ続ける農業は、時代によって変化し続けてきました。文明が変わり続ける以上、農学もまた終着点の無い学問であると思います。そんな農学に様々な切り口から取り組める点に魅力を感じて、私は地域環境工学科を志望しました。

大学生生活は、多くの世界や、色々と凄い(!)人々との出会いの連続で、自分の進む道の可能性がとことん溢れた環境だと感じています。研究室、クラブやサークル、履修する授業など、何に関しても選択肢が多すぎて、毎日が迷いや悩みの連続でした。しかし振り返ると、それだけ多くの中から自分が迷い悩んだ末の道だからこそ、その選んだ一つ一つに対して全力で取り組み、とても充実した日々を送れているのだと思います。可能性に溢れた京都大学の環境に、感謝です。



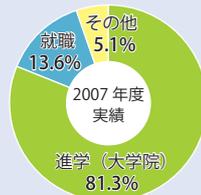
人類の未来のために

森林科学科 4年生 河瀬 麻里さん

私は幼いときから、川遊びをしたり、公園や森でセミ捕りに興じたりと、自然と触れ合うことが好きでした。京都大学は刺激に満ちた面白い所だと聞いていたので、京都大学で環境問題について学びたいと思い、農学部森林科学科を選びました。地球温暖化を始めとする様々な環境問題が、理論的研究領域

から現実生活の領域へと移行しつつある中、私はその解決に向けて、自分なりに貢献したいと考えています。大学では、化学、物理学、生物学、社会科学など様々な側面から森林について学ぶことができ、人間活動と地球環境の保全の調和を目指す事の大切さについて考えさせられました。人類の未来のために、食料や環境について様々な視点から学ぶことのできる農学部は、学生時代を過ごすのに素晴らしい場所だと思います。

卒業後の進路



就職先の例

テレビ朝日/三菱東京UFJ銀行
博報堂DYメディアパートナーズ
高等学校教員/王子製紙/三井物産
日本銀行/科学技術振興機構/シャープ
麒麟麦酒/グリコ栄養食品/日清食品
招徳酒造

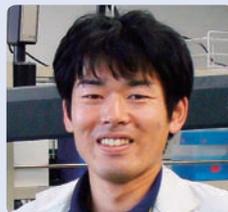
卒業生の8割以上が大学院に進学しています。

就職先については、公務員、公的研究機関の研究者、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・マスコミ・コンピュータ関係など、幅広い分野で活躍しています。

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



(よく?) 学び、よく遊んだ

2000年農学部生物機能科学科卒業
農業・食品産業技術総合研究機構
近畿中国四国農業研究センター勤務
中野 善公さん

「楽しそう、家から近い」という理由で京大に入学しました。今思えば、なんでも思う存分でき、研究に限らず先生や友人がいくらでもつき合ってくれる環境でした。遊んでいた時間のほうが幾分か長かったと思いますが、私の場合、将来の展望は京大で過ごしてはじめて見えてきたので、その時期に刺激を与えてくれた人達がいたこと、また、その人達と一生物のつながりができたことは何物にも代え難いと思います。現在は農業研究職に就いています。学生時代と違い、生産現場で使えてなんぼの仕事であり、研究と実用のバランスを取ることに困難を感じます。また、行政面、コストや労力まで考慮するなど、当然のことながら初めて直面する問題も多いです。それでも日々、前進できている(と自分は思いたい)のは、京大で過ごした時間があるからです。



贅沢な環境

2007年農学部食品生物科学科卒業
アサヒビール 酒類技術研究所勤務
渡邊 航太郎さん

中学や高校の勉強では誰かが作った問題を解くのにに対し、大学や大学院の研究では誰も答えを知らない問題を解明していきます。この研究というものをを行うにあたり、京都大学農学部は最適かつ贅沢な環境であったと思います。私自身、第一線で活躍する数多くの先生方や頼りになる先輩方、良きライバルである同級生達のおかげで有意義な研究生活を送ることができました。

私が農学部の食品生物科学科を志望したのは、「病を治療すること」と同等に「健康を維持すること」に重要性を感じ、食を通じて人々の健康を支える研究をしたいと考えたからです。対して現在は「食の楽しさ」を意識して酒類の研究開発を行っており、業務内容は大学での専攻分野と異なりますが、何をすることも大学生生活での経験が土台になってくれていると感じます。

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、これまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

資源植物グループ：作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学
資源動物グループ：動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学
海洋生物グループ：海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学
生産環境グループ：雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する(バイオサイエンス)、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する(バイオテクノロジー)ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学(全能性統御機構学)、植物分子生物学(遺伝子特性学)

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント(農業水利施設の効率的な維持管理と更新)による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、精密農業による資源循環型社会の構築、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、農畜水産物と食品生産に関わる計測と制御など、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的评价などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林環境計画学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食料不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目(学科推薦科目)

学 科	科 目
資源生物科学科	数学基礎ⅠA、数学基礎ⅡA、数学基礎ⅠB、数学基礎ⅡB、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、基礎生物学A、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、基礎化学実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎ⅠA、数学基礎ⅡA、数学基礎ⅠB、数学基礎ⅡB、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、無機化学入門A、無機化学入門B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、基礎化学実験、基礎生物学A
地域環境工学科	微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎ⅠA、数学基礎ⅡA、数学基礎ⅠB、数学基礎ⅡB、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学、生命科学概論A、生命科学概論B、バイオテクノロジー—農学の新戦略—、生物圏の科学—生命・食糧・環境—、人間と数学A、人間と数学B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎ⅠA、数学基礎ⅡA、数学基礎ⅠB、数学基礎ⅡB、基礎情報処理、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、生命科学概論A、生命科学概論B、物理学実験、基礎生物学A、基礎生物学B、基礎化学実験、地球科学序論、生存圏の科学—環境計測・地球再生
食品生物科学科	数学基礎ⅠA、数学基礎ⅡA、数学基礎ⅠB、数学基礎ⅡB、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、基礎生物学A、基礎化学実験、物理学基礎論A、物理学基礎論B、

RESEARCH ACTIVITIES

教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

総合人間学部

赤松紀彦 教授

中国古典演劇

浅野耕太 教授

環境経済学、応用計量経済学

阿辻哲次 教授

漢字の歴史

石川尚人 教授

古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表層部での地学現象（超大陸の形成史、古環境変遷など）の解明

石田明文 教授

ドイツ近代の知の構造

石原昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

稲垣直樹 教授

◎ヴィクトル・ユゴー研究 ◎近現代フランス小説とその日本での受容 ◎科学技術と擬似科学の文化表象

伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究、歴史民俗世界の祭儀空間研究

宇敷重広 教授

力学系の分岐理論、カオス・フラクタル、複素力学系

内田賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のこぼの研究

内本喜晴 教授

電気化学エネルギー変換

江田憲治 教授

1920-30年代の中国政治史・思想史

大川 勇 教授

ドイツ・オーストリア文学、中欧精神史、教養論

大木 充 教授

外国語教授法、動機づけ、自律学習、CALL

大澤真幸 教授

◎社会システムの構造に関する身体論的研究 ◎メディア・コミュニケーションの構造に関する研究

岡田温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史、芸術理論

岡田敬司 教授

教育において自律、かかわり、共同体を問う

小田伸午 教授

(高等教育推進センター)
スポーツ科学、身体運動の制御機構

尾野照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

加藤 真 教授

(地球環境学堂兼務)
植物や動物の生態と進化、生物の多様性と生態系の保全

加藤幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論（アイルランド亡命文学研究等）

金坂清則 教授

◎都市の地域的存在様式と地域整備に関する歴史地理学的研究 ◎イザベラ・バードを主とする19世紀英国の女性旅行家とその活動に関する研究

鎌田浩毅 教授

火山学、地質学、地球科学、科学教育法、コミュニケーション論

川島昭夫 教授

近代イギリスの文化史、社会生活史および科学の制度史

際本泰士 教授

プラズマ物理学。特に集団的相互作用による多粒子系の自己組織化と輸送過程の実験研究

小林茂夫 教授

(情報学研究科)
感覚を生むしくみ、脳素子の探索

小山静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

齋木 潤 教授

視覚認識の認知神経科学的研究

齋藤治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

佐伯啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

阪上雅昭 教授

実験室でブラックホールを造る

篠原真明 教授

問哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

島田真杉 教授

アメリカ現代史における国民統合の研究

新宮一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

菅原和孝 教授

狩猟採集民の社会と生態、対面相互行為の構造、日常会話の人類学的分析

杉万俊夫 教授

グループ・ダイナミックス、社会心理学

杉山雅人 教授

(地球環境学堂兼務)
水圏における化学物質の分布・循環機構・動態に関する研究。環境化学物質の高感度検出法に関する研究

鈴木雅之 教授

初期近代からロマン主義時代を経てヴィクトリア朝にいたるイギリス文学、視覚芸術・視覚表象文化

高崎金久 教授

代数解析、数理物理、可積分系

高橋義人 教授

◎ゲーテ自然科学にもとづく近代科学の批判的検証 ◎デモロジーと近代ヨーロッパ◎グノーシス主義と西欧の宗教史

高橋由典 教授

感情を基点とする社会学理論の研究

竹安邦夫 教授

(生命科学研究科)
細胞のナノバイオロジー、バイオインフォーマティクス

田地野 彰 教授

(高等教育推進センター)
教育言語学、教育文法、外国語の教授と学習、第二言語習得論

田部勢津久 教授

光機能性ガラスの設計・無機材料科学、光ファイバ通信デバイス、フォトニクス材料

田邊玲子 教授

近代西欧、特にドイツの文学現象における人間、ジェンダー、セクシュアリティ観

田村 類 教授

◎分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究 ◎キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

壇辻正剛 教授

(学術情報メディアセンター)
音声学、応用言語学

津田謹輔 教授

糖尿病・栄養学

東郷雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

富田恭彦 教授

◎粒子仮説を基盤とした17世紀観念説の論理空間とその変貌 ◎現代言語哲学・科学哲学

中西輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

西井正弘 教授

国境を越える人の移動（難民・移民・逃亡犯罪人など）に関する国際法的規制と国際人権法、国際環境法の研究

西垣安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究 / 住居観の史的的研究

西村 稔 教授

18～19世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

西山良平 教授

日本古代中世の都市・王権・文化

服部文昭 教授

スラヴ諸語の研究

廣野由美子 教授

19世紀イギリス小説、小説技法、物語論

福岡和子 教授

19世紀アメリカ小説・批評理論

藤田耕司 教授

生成文法、生物言語学による言語能力の起源・進化研究

船橋新太郎 教授

(こころの未来研究センター)
前頭連合野の機能に関する神経科学的研究

カール・ベッカー 教授

(こころの未来研究センター)
生命倫理・医療倫理の教育と東西比較

堀 智孝 教授

水圏環境の化学、金属酸化物複合体の構造化学、物質の地球循環を解明するための分析化学

前川 覚 教授

極低温度における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

前川玲子 教授

20世紀のアメリカ思想・文化史研究

松井正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

松浦 茂 教授

17・18世紀のアムール川流域史、18世紀東アジア地理学史、清初史

松下和夫 教授

(地球環境学堂)
公共政策としての環境政策論の研究、特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGOなどの多様な主体の役割の分析

松田 清 教授

日本洋学史、日欧文化交渉史

松村道一 教授

運動制御の神経機構

間宮陽介 教授

公共的空間（コモンズ、都市空間、政治空間）に関する研究

丸橋良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

水野尚之 教授

◎アメリカ19・20世紀の小説 ◎アメリカの都市の成立と文化

三谷恵子 教授

中・東欧の言語と文化、言語接触と言語変化、言語と社会

道籙泰三 教授

W.ベンヤミン等19、20世紀のドイツ文学・思想の研究

三原弟平 教授

カフカ、ベンヤミンなど20世紀ドイツ文学・思想

三室 守 教授

光合成の光化学、光物理学的過程の解析。光合成生物の進化。

宮本嘉久 教授

ソフトマターの構造形成、緩和現象、破壊

村中重利 教授

酸化物薄膜の蒸着

元木泰雄 教授

日本中世成立期の政治史、院政・武士・内乱について

森谷敏夫 教授

生体信号処理・応用生理学

森本芳則 教授

偏微分方程式に対する超局所解析

山口良平 教授

有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求、ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究

山田孝子 教授

東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究

山田 誠 教授

北方圏地域の日誌および都市地理学

山梨正明 教授

言語学（意味論・語用論）・記号論

山本行男 教授

（高等教育推進センター兼務）
酵素や生体関連物質の機能解明研究

吉田 純 教授

（高等教育推進センター）
ドイツの社会思想・社会理論、情報ネットワーク社会の理論的・経験的研究

依田義丸 教授

創造行為としての演劇（特にシェイクスピアを中心とした英米演劇）

エンゲルベルト ヨリッセン 教授

日欧交渉史、西南ヨーロッパのルネッサンス・バロック時代、ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題、比較文化・比較文学、インド英文学

安部 浩 准教授

M. ハイテカーを中心とする存在論・実存哲学。H. ヨナスを中心とする環境思想。

市岡孝朗 准教授

（地球環境学堂兼務）
生態学、昆虫学、熱帯雨林における群集生態学

上木直昌 准教授

確率解析学

岡 真理 准教授

◎現代アラブ文学 ◎第三世界のフェミニズム思想 ◎パレスチナ問題

小方 登 准教授

コンピュータを利用した地理情報処理、宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原

奥田敏広 准教授

20世紀ドイツの長編小説 - トーマス・マンを中心に -

小倉紀蔵 准教授

東アジア思想に基づき、特に韓国・朝鮮を主なフィールドとする文化およびメディア概念の研究

小畑史子 准教授

（地球環境学堂）
労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究

勝又直也 准教授

◎中世ヘブライ文学 ◎ユダヤ学 ◎地中海・中東における3つの一神教文明の交流史

桂山康司 准教授

英国宗教詩人の研究 - ミルトン、ホプキンスを中心に -

河崎 靖 准教授

言語学・文献学

木坂正史 准教授

力学系理論、特に複素力学系

木下俊哉 准教授

レーザー冷却、トラッピング、冷却原子を用いた物性物理学

神崎素樹 准教授

◎協働筋の機能的意義の解明 ◎立位姿勢制御の解明

小木曾 哲 准教授

火成岩岩石学、実験岩石学、地球化学

酒井 敏 准教授

大気・海洋の流体としての力学

櫻川貴司 准教授

計算機科学

佐藤義之 准教授

メルロ＝ポンティ、レヴィナスを手がかりとした、現象学ならびに倫理学の研究

島崎 健 准教授

平安朝文学の研究

須田千里 准教授

日本近代文学の研究

瀬戸口浩彰 准教授

植物系統進化学・植物地理学

大黒弘慈 准教授

貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史

多賀 茂 准教授

十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想

高谷 修 准教授

18世紀英文学及び比較文学

立木秀樹 准教授

プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性、及びフラクタル立体図形の研究

津江広人 准教授

構造有機化学、合成有機化学を基盤とした、窒素架橋かご形分子の合成と物性に関する研究

辻 正博 准教授

中国中世（六朝隋唐時代）の政治制度、中国法制史、敦煌・トルファン出土文書研究

戸田剛文 准教授

認識論・近代イギリス経験論・知覚

中嶋節子 准教授

近代都市史、都市景観史、建築史。自然景観や建築から都市の歴史を読む

永田素彦 准教授

◎環境変化をめぐる対話システムの構築 ◎科学技術（バイオテクノロジー）の社会的受容

中森誉之 准教授

言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築

西山教行 准教授

外国語教育ならびに言語政策、フランコフォニー、植民地主義などの研究

林 達也 准教授

運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明

ブライアン・マサル・ハヤシ 准教授

アメリカ20世紀の移民史

日置尋久 准教授

（高等教育推進センター兼務）
データハイディング

マーク・ピーターソン 准教授

コンピューターを利用した英語教育

藤田健一 准教授

（地球環境学堂兼務）
新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

藤原直樹 准教授

高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の研究

松田英男 准教授

イギリスおよびアメリカ映画論

水野眞理 准教授

◎英国ルネッサンス期の物語文学 ◎イングランド人による自己と他者・異文化の表象

道坂昭廣 准教授

中国古典文学、特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学

宮下英明 准教授

微生物の多様性と多機能性に関する研究。藻類学、系統進化学、微生物生態学、生物学

吉村成弘 准教授

（生命科学研究科）
1分子イメージング・計測・操作技術を用いて、細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。

細川 浩 講師

（情報学研究科）
神経生物学、細胞生物学

見平 典 講師

憲法秩序形成の在り方に関する規範的分析と経験的分析

李 長波 講師

日本語と中国語の歴史的研究、東アジア言語思想史の研究

文学部

伊藤邦武 教授

言語分析による認識論

出口康夫 准教授

統計学・シミュレーションなど現代科学の方法論を視野に入れた認識論・存在論。進化生物学の人間観を批判的に検討する「新・人間本性論」。

中畑正志 教授

西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究

川添信介 教授

◎西洋13・14世紀のアヴェロエス主義の問題 ◎スコラ哲学における身心問題

小林道夫 教授

デカルト哲学を中心とした西洋近世哲学および科学哲学上の諸問題の研究

福谷 茂 准教授

カントを中心とする近世哲学史

藤田正勝 教授

ドイツ観念論における哲学と宗教の問題

水谷雅彦 教授

◎現代倫理学の理論的研究 ◎コミュニケーション及び情報の倫理学的研究

氣多雅子 教授

近代のニヒリズムの本質と思想的系講について

杉村靖彦 准教授

現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追究する。

声名定道 教授

近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について

中村俊春 教授

17世紀フランドル絵画史

根立研介 教授

日本には、きわめて写実的な肖像彫刻が数多くのこざれているが、その「写実」の意味など、肖像に関する諸問題を研究する。

吉岡 洋 教授

現代のメディア、テクノロジー環境を見据えた美学・芸術理論

木田章義 教授

日本語の歴史

大谷雅夫 教授

国文学中国文学の比較研究

大槻 信 准教授

古代日本語の研究

金光桂子 准教授

中古・中世の物語文学

川合康三 教授

唐宋変革期の文学

平田昌司 教授

中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について

木津祐子 准教授

近世以降に編まれた対音資料をもとに、基礎または対象となる中国方言音系を分析する。さらにそれを通して中国語の規範意識の所在を探る。

池田秀三 教授

漢魏六朝の学術と思想

宇佐美文理 准教授

中国宋代思想史。特に存在論と藝術論についての研究

赤松明彦 教授

古代インドにおける認識論・存在論・論理学・言語哲学の展開についての思想史的研究

横地優子 准教授

インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程

御牧克己 教授

インド・チベット仏教思想研究

宮崎 泉 准教授

後期インド仏教とそのチベットへの伝播について

中務哲郎 教授

古代ギリシアの説話文学

高橋宏幸 教授

ローマ文学におけるペルソナの研究

佐藤昭裕 教授

スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法

西村雅樹 教授

19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究

松村朋彦 准教授

18・19世紀ドイツ文学・文化史

宮内 弘 教授

英詩（特にルネッサンス期と20世紀）及び文体論研究

若島 正 教授

Vladimir Nabokovを中心としたアメリカ小説の研究

佐々木徹 教授

イギリス小説

廣田篤彦 准教授

初期近代イングランドにおけるナショナリズムの文学作品における表象について

家入葉子 准教授

12世紀から15世紀にかけての英語の文法構造の変化について

森 慎一郎 准教授

アメリカ小説研究（F・スコット・フィッツジェラルドなど）

田口紀子 教授

フランス語学・ナラトロジー

吉川一義 教授

近現代フランス文学。プルースト小説の生成および絵画との関連。

増田 眞 准教授
ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

永盛克也 准教授
フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

齊藤泰弘 教授
レオナルド・ダ・ヴィンチの思想研究

天野 恵 准教授
中世ヨーロッパ文学最古のジャンルのひとつである武勲詩の伝統に、古典文学の要素を盛り込んだルネサンス騎士道文学。

藤井譲治 教授
日本近世政治史研究

勝山清次 教授
これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近は権門勢家の形成に関心をもっている。

吉川真司 教授
日本古代政治の形式と規範に関する研究、畿内の古代寺院および寺領荘園に関する研究

谷川 穣 准教授
近代日本の教育／宗教／社会史研究

夫馬 進 教授
中国明清社会研究

杉山正明 教授
モンゴル時代史

吉本道雅 教授
中国古代史（西周～前漢）

中砂明德 准教授
前近代中国人の歴史認識の研究。すぐれた歴史家の、というよりは「俗流」の歴史観の展開に興味がある。

高嶋 航 准教授
中国近代の社会と文化の諸相

濱田正美 教授
中央ユーラシア史上のイスラーム教と政治の相互関係

久保一之 准教授
前近代中央アジア・イラン史

服部良久 教授
ドイツ中世史

南川高志 教授
元首政期ローマ帝国の政治史的研究

小山 哲 教授
16～18世紀のポーランドにおける政治文化について

上原真人 教授
日本における瓦生産体制の変遷について

泉 拓良 教授
西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

吉井秀夫 准教授
考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

宇阪直行 教授
感覚・知覚・意識情報処理

藤田和生 教授
動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究

櫻井芳雄 教授
記憶の脳内メカニズムを神経細胞の活動から実験的に解明しようとする認知神経科学的研究

板倉昭二 准教授
ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究

蘆田 宏 准教授
人間の視覚情報処理とその脳内機構に関する心理物理学的研究

田窪行則 教授
日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

吉田和彦 教授
インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

吉田 豊 教授
中央アジア出土中世イラン語文献の言語学的・文献学的研究

松田素二 教授
アフリカ都市社会の研究

落合恵美子 教授
家族社会学、ジェンダー論、歴史社会学、特に近代家族論

伊藤公雄 教授
ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

田中紀行 准教授
文化と社会構造の関係にかんするマクロ社会学理論の研究；文化エリートの比較歴史社会学的研究

石川義孝 教授
人口移動をはじめとする空間的相互作用の理論的・計量的検討

杉浦和子 教授
都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

米家素作 准教授
近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

伊藤和行 教授
16・17世紀イタリアにおける自然哲学および科学思想の歴史的研究

伊勢田哲治 准教授
科学者共同体の哲学、科学的実在論、ヘイズ主義、功利主義、科学技術倫理

林 晋 教授
情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析

杉本淑彦 教授
フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

紀平英作 教授
20世紀アメリカ合衆国政治史と合衆国を中心とした国際政治史の研究

永井 和 教授
戦前日本における政軍関係の研究

小野澤 透 准教授
第二次世界大戦以降のアメリカ合衆国の中東地域に対する政策の展開を冷戦史の視点から分析している

教育学部

辻本雅史 教授
教育史学：日本教育史・近世思想史

鈴木晶子 教授
教育学：教育哲学・思想史

駒込 武 准教授
教育史学・植民地教育史

山田洋子 教授
発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

田中耕治 教授
教育方法学：学力論、授業論、評価論

西岡加名恵 准教授
教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

明和政子 准教授
発達教育論：比較認知発達科学、乳幼児期の心の発達・模倣

子安増生 教授
発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

楠見 孝 教授
認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

齊藤 智 准教授
認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

岩井八郎 教授
教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

稲垣恭子 教授
教育社会学：学校社会学・青年文化史

川崎良孝 教授
図書館情報学

前平泰志 教授
生涯教育学

渡邊洋子 准教授
生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

佐藤卓己 准教授
広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

高見 茂 教授
教育政策学：教育資源分配と公共政策

杉本 均 教授
比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）

金子 勉 准教授
教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

南部広孝 准教授
比較教育学：高等教育改革の国際比較研究

矢野智司 教授
教育人間学：生成と発達の教育人間学、贈与と交換の教育人間学

西平 直 教授
臨床教育学：人間形成と東洋哲学

齋藤直子 准教授
教育人間学：アメリカの教育哲学

桑原知子 教授
心理臨床学・人格心理学：心理臨床及び人格のダイナミズムに関する研究

田中康裕 准教授
心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治癒とその限界

大山泰宏 准教授
心理臨床学：心理療法論、臨床心理学の言説研究

皆藤 章 教授
臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

伊藤良子 教授
（臨床教育実践研究センター）
臨床心理実践学：心理療法及び臨床人間形成に関する研究

角野善宏 准教授
（臨床教育実践研究センター）
臨床心理実践学：心理療法・精神医学

法学部

法学部の研究テーマ紹介については、**法学部の学部紹介**（52, 53ページ）に記載されています。

経済学部

経済学科

依田高典 教授

「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究、特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

今久保幸生 教授
ドイツ経済政策史、ドイツ生産システムの発展、日本のFTA 戦略と東アジア経済

岩本武和 教授
国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

植田和弘 教授
財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

宇仁宏幸 教授
経済制度の補完性とマクロ経済の安定性に関する理論的、実証的研究

大西 広 教授
「レーニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス＝新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動中である。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も実証の分野で行っている。

岡田知弘 教授
日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

小島孝孝 教授
ケインズ経済学形成史を同時代の経済理論との関連で研究。ホートリーを再評価し、ホートリー・コネクションを主張

塩地 洋 教授
自動車産業に関して、その史的形成過程及び現在の構造的特質、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

島本哲朗 教授
マスメディアの経済政策、金融政策の有効性

田中秀夫 教授
17～18世紀の英国（スコットランドを含む）の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

武石 彰 教授
技術経営、競争戦略

成生達彦 教授
ミクロ経済学の応用という観点から、企業組織、企業間関係、マーケティング、流通について研究しています。

西村周二 教授
医療および福祉の経済学、経済心理学、サービス経済論、保険と年金の経済学

根井雅弘 教授
マニッシュル以後の現代イギリス経済学

久本憲夫 教授
一國の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

文 世一 教授

都市の空間構造に関する理論的、実証的分析、交通政策の分析

堀 和生 教授

日本、中国、朝鮮の近代経済史を比較検討し、東アジアの発展理論を構築することをめざしている

森棟公夫 教授

計量経済学の研究を行っている。計量経済学とは、経済分析に必要とされる統計学的な解析方法である。研究としては、特に金融データの時系列分析に携わっている。

八木紀一郎 教授

マルクス経済学、オーストリア学派、歴史学派などの学史的な研究をふまえて、制度の成立・変化を解明する理論を探究している

山本裕美 教授

開発経済学の立場から現代中国経済の市場化過程を中華民国期の市場経済化との比較の視点から研究している。

吉田和男 教授

日本経済・財政の数理分析

劉 徳強 教授

開発経済学、中国経済論

岩城秀樹 准教授

数理工学的アプローチによる将来の不確実な資産価値及びキャッシュ・フロー（現金流）の価値評価とその制御

宇高淳郎 准教授

応用ミクロ経済学、特にマーケティング戦略の経済分析

菊谷達弥 准教授

広い意味での企業組織の経済学的研究。企業の分社化行動の国際比較。自動車産業における部品調達・製品販売における企業間関係の分析など。

江上雅彦 准教授

ファイナンス工学

黒澤隆文 准教授

近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史、工業経済論

坂出 健 准教授

20世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争、協調関係の特質の検討をつうじて、欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

竹澤祐丈 准教授

近代社会形成期の英国（イングランドとスコットランド）での議論、特に、共和主義思想を、同時代のヨーロッパの動向と関連付けてながら、思想的に研究しております。

曳野 孝 准教授

経済環境と社会組織が異なる条件のもとで、現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを、国際比較によって明らかにすること。

松井啓之 准教授

行政の情報化、計画支援情報システムの開発、マルチエージェントシミュレーション

宮崎 卓 准教授

中国経済、経済協力論

諸富 徹 准教授

環境税、排出権取引制度をはじめとする、環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史的変動と租税思想史の研究。地域の接続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

遊喜一洋 准教授

マクロ経済学、特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

渡辺純子 准教授

産業構造の変化に対する企業・政策の対応（日本の繊維産業に関する歴史的研究）

飯山将晃 講師

情報処理論、メディア工学

稲葉久子 講師

異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に、何を学習し、どのように多文化共存の途に活用できるか、探求すること。

ジャン・クロード マスワナ 講師

グローバル化下でのビジネスにおける変化、金融システム開発、アジア・アフリカ比較経済開発、非古典派金融理論

ティミター・ヤルナゾフ 講師

◎ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス ◎ブルガリアにおける市場経済移行 ◎EU 経済統合とEUの東方拡大

澤邊紀生 教授

会計学、管理会計学、会計制度形成過程の研究

末松千尋 教授

事業創成、ITビジネス論、IT戦略論

徳賀芳弘 教授

会計の国際的調和化現象の分析、ベンチャー企業のIPO前後の会計行動の考察

西牟田祐二 教授

経営史、国際経営史、投資銀行史

日置弘一郎 教授

比較経営特に組織デザイン論、キャリア形成、権力継承など

藤井秀樹 教授

会計の比較制度分析、国際会計論 公会計、非営利組織（NPO）会計

若林直樹 教授

企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

若林靖永 教授

マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング（組織）、リレーションシップ・マーケティング、非営利・協同組織のマーケティング。

梶山泰生 助教

国際的な製品開発組織・戦略、競争優位と国際的な立地戦略、技術と知識のマネジメント。

理学部**数理科学系****池田 保 教授**

数論

泉 正己 教授

作用素環

磯 祐介 教授

微分方程式論の数値解析、逆問題解析、応用解析学

上 正明 教授

低次元トポロジー

上田哲生 教授

多変数複素関数論および複素力学系

上野健爾 教授

理論物理学への応用を見込んだ複素多様体論および数論的多様体の研究

加藤和也 教授

整数論、とくに類体論や岩澤理論の代数多様体への拡張

加藤信一 教授

代数群の表現論

木上 淳 教授

解析学

熊谷 隆 教授

確率論

河野 明 教授

位相幾何学 リー群やそれに関連する空間をトポロジーの手法、とくにホモトピー論的手法を用いて研究

國府寛司 教授

力学系理論 ◎力学系とその分岐 ◎力学系理論の応用

齋藤 裕 教授

代数群の保型 表現の研究 表現・許容表現の研究

重川一郎 教授

確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

宍倉光広 教授

力学系理論 ◎複素力学系の不変集合や分岐集合 ◎実力学系に分岐現象

堤 蒼志雄 教授

非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

中島 啓 教授

表現論・幾何学 幾何学を用いた量子展開の表現論の研究

並河良典 教授

代数幾何学 特に複素シンプレクティック多様体やカラビヤウ多様体の研究

西和田公正 教授

偏微分方程式の解の構造

深谷賢治 教授

幾何学 図形を研究する。現在は位相的場の理論を通じて無限次元幾何学を目指す。

松木敏彦 教授

リー群論

三輪哲二 教授

代数解析学

森脇 淳 教授

代数幾何学、特にモディライ空間と数論的多様体の研究

吉田敬之 教授

数論 保型形式から得られるL函数について、その特殊値と零点の研究

浅岡正幸 准教授

力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

梅田 亨 准教授

函数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

大鍛治隆司 准教授

微分方程式論

加藤 毅 准教授

空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

加藤文元 准教授

代数幾何学、特に非アルキメデス的解析学やその代数幾何学への応用

塩田隆比呂 准教授

微分方程式論

高村 茂 准教授

複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

中西賢次 准教授

偏微分方程式論

西村 進 准教授

計算機科学 特にプログラミング言語の理論、プログラム変換

西山 享 准教授

リー群の表現論

畑 政義 准教授

超越数論

日野正訓 准教授

確率論

藤井道彦 准教授

微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

山崎愛一 准教授

多元環の整数論

吉田伸生 准教授

確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移（例えば液体の気化や凝固）の確率的な仕組みについて

稲場道明 講師

代数幾何学におけるモジュライ理論

岸本大祐 講師

代数的位相幾何学

久保雅義 講師

応用解析、数値解析

小西由紀子 講師

数理論 特にミラー対称性

平賀 郁 講師

数論 特に保型表現

若野 功 講師

応用解析、数値解析：破壊現象の数学解析と数値解析

物理科学系**前野悦輝 教授**

固体物理学 ◎スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発 ◎熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究 ◎低温での測定技術の開発

石田憲二 教授

固体物理学 新奇な超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定（核磁気共鳴（NMR）実験を用いた研究）

松田祐司 教授

固体物理学 新奇超伝導状態の研究 強く相関し合った電子系を示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

芝内孝禎 准教授

固体物性・低温物理学 超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

高橋義朗 教授

量子光学 中性原子のレーザー冷却及びその精密測定のための基礎物理への応用

田中耕一郎 教授

光物性 ◎超高速レーザー分光法をもちいた非平衡系のダイナミクスの研究 ◎光誘起構造変化の素過程の解明 ◎新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

八尾 誠 教授

不規則系物理学 液体、アモルファス、マイクロクラスター等の構造、量子物性、ダイナミクスに関する実験的研究

吉川研一 教授

時空間秩序・生命物理 生命現象などの非平衡開放系に潜む基本原理を、発見・解明することをめざす。

山本 潤 教授

ソフトマター物理学 液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

高西陽一 准教授

液晶を中心にしたソフトマターの相構造と物性に関する発現機構解明をめざす。

前川 孝 教授

プラズマ物理学 ◎プラズマ波動物理 ◎トローラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

田中 仁 准教授

プラズマ物理学 特に、電子サイクロトロン波・電子バーンスタイン波を用いた球状トカマクの生成、純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

川上則雄 教授

凝縮系理論 強相関電子系、低次元量子多体系、ナノ量子系、冷却原子系などの理論研究

池田隆介 准教授

凝縮系理論 磁場下の超伝導の基礎理論、新奇な超流動状態の理論など、低温で実現する量子凝縮系の理論的研究

藤本 聡 准教授

凝縮系理論 強相関電子系、新奇超伝導、新しい量子凝縮相の理論研究

太田隆夫 教授

非線形動力学 非平衡ソフトマターを主たる研究対象としてミクロ非平衡系の基本原理・法則の解明

篠本 滋 准教授

非線形動力学、統計物理学、脳の情報処理の理論的研究

藤 定義 准教授

流体物理学 ◎乱流ダイナミクスにおける微細構造の役割及び巨視的秩序構造形成メカニズムの研究 ◎乱流混合、拡散の理論

小貫 明 教授

統計物理学 ◎相転移ダイナミクス ◎非平衡現象の統計物理学

荒木武昭 准教授

統計物理学・計算物理学 ソフトマター、相転移ダイナミクス

武末真二 准教授

統計物理学・非線形動力学 格子熱伝導系や粒子流の格子模型を用いた非平衡統計力学の理論的研究

今井憲一 教授

原子核物理学 加速器を用いたハドロンと原子核の研究

永江知文 教授

原子核物理学 高エネルギー加速器を用いて、クォーク・ハドロン・原子核の新しい様相を実験的に研究している。

川合 光 教授

物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが、通常は素粒子論を中心とし、場の理論、量子重力、超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常におもしろい段階にさしかかっており、力をいれている。

畑 浩之 教授

素粒子基礎論 ◎ゲージ場・重力場理論のダイナミクス ◎弦理論の基本原則とダイナミクスの解明

福岡将文 准教授

素粒子基礎論 ◎場の量子論のダイナミクス ◎弦理論、量子重力理論の基本原則の解明と理論の定式化

小林達夫 准教授

素粒子論。弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

植松恒夫 教授

素粒子論。特に、量子色力学と深非弾性過程、核子や光子の構造関数、超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究

青山秀明 教授

理論物理学・素粒子論。新しい超対称性の研究の一方で、経済物理学、言語物理学などでも、理論物理学の見方を生かした研究を行っている。

笹尾 登 教授

高エネルギー物理学 素粒子の基本構造と相互作用の実験的研究及びビーム物理学の研究。現在は荷電バリオン対称性とその破れの起源に関する研究、原子を利用した基礎物理学の研究および高輝度 X 線源の開発研究を行っている。

中家 剛 准教授

素粒子実験物理学を専門としており、現在はニュートリノ物理学を主に研究を遂行している。テーマとしては、ニュートリノ振動現象の解明、ニュートリノ質量二乗差の精密測定、ニュートリノ・核子相互作用の研究を行っている。

市川温子 准教授

素粒子実験物理学、特にニュートリノ振動現象の観測を通じた素粒子の質量の起源の解明

小山勝二 教授

宇宙空間からの X 線観測 ◎宇宙超高温プラズマ ◎中性子星・ブラックホール ◎超高エネルギー粒子

谷森 達 教授

高エネルギー宇宙物理学、特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線、粒子線、イメージング技術開発

鶴 剛 准教授

高エネルギー宇宙物理学 特に天文衛星など飛翔体を用いた宇宙 X 線、ガンマ線の観測的研究と、それに必要な観測機器の開発

國廣徳二 教授

クォーク・ハドロン多体系の物理学、超高温・高密度での量子色力学、「くりこみ群法」による数理解

菅沼秀夫 准教授

クォーク・ハドロン物理学 ◎量子色力学に基づくクォークの閉じ込めとハドロンの研究

藤原義和 講師

原子核物理学（理論）◎クォーク模型によるバリオン間相互作用 ◎軽い原子核のクラスター構造、小数多体問題

中村卓史 教授

相対論的天体物理学：ブラックホール、重力波、中性子星、ガンマ線バースト、ダークマター、ダークエネルギー等の形成、起源の研究

犬塚琢一郎 准教授

宇宙物理学 輻射流体力学、磁気流体力学による星・惑星系形成過程の理論的研究など

早田次郎 准教授

弦理論的宇宙論、およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究

長田哲也 教授

赤外線天文学、銀河中心領域、星間物質、観測装置開発

太田耕司 教授

銀河の形成と進化、QSO/AGN の探査の研究

嶺重 慎 教授

宇宙物理学（ブラックホール天文学など）

岩室史英 准教授

銀河天文学、高赤方偏移天体、観測装置開発

戸谷友則 准教授

宇宙物理学、宇宙論、高エネルギー天体物理学

上田佳宏 准教授

X 線天文学、ブラックホール、活動銀河核の進化

柴田一成 教授

太陽・宇宙プラズマ物理学、天体電磁流体力学、太陽フレア、宇宙ジェット、宇宙天気

一本 潔 教授

太陽磁気活動現象の観測的研究、太陽プラズマの偏光分光による診断学

北井礼三郎 准教授

◎太陽の対流現象の観測的研究 ◎太陽大気加熱機構の観測的研究

地球惑星科学系

福田洋一 教授

測地学 ◎ジオイドの精密決定 ◎人工衛星アルティメトリー ◎重力異常と地下構造

宮崎真一 准教授

個体地球物理学、GPSデータを利用した地殻変動解析、地殻活動シミュレーションモデルと観測データの融合ー

淡路敏之 教授

海洋物理学 海洋循環・変動のシミュレーションと輸送力学、観測とモデルを融合するデータ同化

秋友和典 准教授

海洋物理学 高緯度海域における“深い対流”と黒潮変動の力学

余田成男 教授

気象学 ◎大気大循環の数値実験および理論 ◎非線形力学 ◎カオス理論

石岡圭一 准教授

地球流体力学 地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

堤 浩之 准教授

変動地形学及び活構造学 ◎活断層の地震危険度評価に関する研究 ◎東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

町田 忍 教授

地球電磁気学及び太陽地球系物理学 ◎地球・惑星磁気圏物理学 ◎磁気圏における粒子加速 ◎プラズマ粒子計測器開発

中西一郎 教授

地震学及び地球内部物理学 ◎地球内部構造 ◎地震活動

平原和朗 教授

地震学及び地球内部物理学 ◎地震発生シミュレーション ◎地球内部の構造と運動のモデリング

久家慶子 准教授

地震学及び地球内部物理学 ◎地震の破壊過程の推定とその物理に関する研究 ◎地球内部におけるダイナミクスに関する研究

里村雄彦 教授

物理気候学 数値モデルを用いた、グローバル及びローカル気候の形成と変動の素過程の研究

家森俊彦 教授

◎太陽地球系物理学および地球電磁気学 ◎磁気圏および電離層における電磁気的現象の研究 ◎地磁気の観測とデータ処理に関する研究

藤 浩明 准教授

地球電磁気学、海底観測、電気伝導度構造、地磁気活動

竹村恵二 教授

地熱テクトニクス、第四紀地質学、湖沼堆積物による古気候変動

大沢信二 准教授

地熱流体論、同位体水文学、地球環境化学

鎌山恒臣 教授

火山物理学、火山電磁気学、火山の熱放出、電磁気的構造探査

大倉敬宏 准教授

地震学、火山物理学、測地学、スラブ内部地震、構造

古川善紹 准教授

地球惑星科学 惑星の構造形成、進化、沈み込み帯のダイナミクス

小畑正明 教授

上部マントル、地殻下部の岩石学、マグマの成因 岩石組織と構造の形成過程の研究

北村雅夫 教授

天然の鉱物の形成過程に関する研究、および原始太陽系で形成した隕石の成因に関する研究

田上高広 教授

放射性核種の壊変を利用した年代測定と同位体を用いた地球変動、特に断層運動、火山活動及び気候変動の研究

平島崇男 教授

世界各地の変動帯に分布する地殻深部岩石と地下深部流体の研究

酒井治孝 教授

アジアの造山帯の形成・上昇プロセス及びそのモンスーン気候とのリンケージに関する地質学的研究

前田晴良 准教授

層序学および古生物学、白亜紀アンモナイトの分類、進化、古生態

山路 敦 准教授

地質学的手法を用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

下林典正 准教授

天然の鉱物に見られる微細組織や集合様式を解析することによって、その形成過程を解明しようとしている。

三宅 亮 准教授

天然の鉱物の微細組織に関する研究

化学系

三木邦夫 教授

タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究（タンパク質の構造と機能の解明）

竹田一旗 講師

物質輸送を担うタンパク質の構造と作動原理の研究

谷村吉隆 教授

凝縮系の化学物理理論、統計力学理論、分光学理論の研究

安藤耕司 准教授

化学反応量子論、分子多体系における量子移動過程の理論的研究

加藤重樹 教授

分子の電子状態と化学反応のダイナミクスの理論的研究

林 重彦 准教授

生体機能の分子機構に関する理論的研究

鈴木俊法 教授

化学反応動力学の実験的研究

松本吉泰 教授

固体表面での光誘起過程と反応ダイナミクスの研究

渡邊一也 准教授

固体表面での超高速現象の研究と界面選択的分光法の開発

寺嶋正秀 教授

新規時間分解レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミクスの研究

熊崎茂一 准教授

光合成光化学、レーザー顕微分光学、時間分解レーザー分光学、細胞分光学

木村佳文 准教授

レーザー分光法をもちいた超臨界流体、イオン液体などの特殊環境下での化学反応と分子ダイナミクスの研究

竹腰清乃理 教授

固体 NMR 法の開発と応用研究

武田和行 講師

これまで不可能だった分析を可能にする磁気共鳴の研究

馬場正昭 准教授

レーザー分子分光学 励起分子の構造とダイナミクス

有賀哲也 教授

固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索

奥山 弘 准教授

固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究

吉村一良 教授

◎遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究 ◎核磁気共鳴を用いたマイクロな固体物性研究

陰山 洋 准教授

新奇物性（磁性）を示す無機化合物の開拓。新合成ルート（低温合成法）の開発。単結晶育成

花田禎一 教授

機能性無機非晶質物質の合成と物性研究

中西和樹 准教授

無機系及び有機無機ハイブリッド系多孔材料の液相合成と構造制御

林 民生 教授

遷移金属錯体を用いた高選択的な新規有機合成反応の開発

白川英二 准教授

遷移金属触媒を用いる新規付加反応および新規高機能反応場の開発

西村貴洋 講師

遷移金属を触媒とする新規炭素 炭素結合開裂および炭素 炭素結合形成反応の開発

丸岡啓二 教授

ルイス酸型人工酵素の創製と精密有機合成；環境調和型キラル相間移動触媒のデザインと実用的アミノ酸合成

加納太一 講師

有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発

大須賀篤弘 教授

新規な構造と機能を持つポリフィリン系化合物の開拓

忍久保 洋 准教授

ポリフィリン系化合物の新規合成法の開拓

杉山 弘 教授

核酸を中心としたケミカルバイオロジー、遺伝子発現制御化学

板東俊和 准教授

有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー

井上 丹 教授

バイオナノサイエンスとテクノロジー：RNP（RNA—タンパク質複合体）の分子デザインと構築

白石英秋 准教授

機能性 RNA および形質発現の研究

生物科学系**疋田 努 准教授**

爬虫類の系統分類学と生物地理学

曾田貞滋 准教授

◎昆虫の種分化と複数種の共存機構 ◎昆虫の生活史進化

山極壽一 教授

◎ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学 ◎人間の社会的性の起源

佐藤矩行 教授

◎動物の進化発生生物学 ◎動物の発生ゲノム科学

森 哲 准教授

爬虫類の行動および生態に関する研究

堀 道雄 教授

◎アフリカのタンガニイカ湖の魚類群集の研究 ◎甲虫の個体群および生物地理学についての研究 ◎水生動物の左右性についての研究

中務真人 准教授

◎類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学 ◎霊長類の運動分析と運動器官の形態学

久保田 洋 准教授

アフリカツメガエルの原腸陥入運動の分子機構の研究・初期発生における細胞内 Ca の役割

秋山秋梅 准教授

◎酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構 ◎酸化ストレスと癌化、老化の関係 ◎放射線、活性酸素に対する細胞応答

片山一道 教授

◎古人骨から人物像を復元する研究 ◎ポリネシア人の起源と成立を探る人類学的研究

渡辺勝敏 准教授

◎淡水魚類の保全生態学・遺伝学 ◎淡水魚類の系統地理学

佐藤ゆたか 准教授

尾索動物ホヤを対象とした分子発生生物学

中川尚史 准教授

霊長類の採食生態、および社会生態学的研究

稲葉カヨ 教授

異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究

高原和彦 講師

免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答

長谷あきら 教授

植物の光応答に関する、分子遺伝学的、生化学的、生理学的及び細胞学的研究

小山時隆 准教授

光合成生物の時間生物学

井上 敬 講師

細胞生物学 細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究

戸部 博 教授

高等植物の形態学と系統分類学

西村いくこ 教授

高等植物の細胞と細胞内小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究

鹿内利治 教授

光合成・葉緑体機能に関する分子遺伝学・生理学的研究

藤吉好則 教授

膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生物学的研究

西田栄介 教授

細胞増殖・分化、発生及び高次生命機能を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

平野丈夫 教授

脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究

七田芳則 教授

生体における情報変換機構の分子レベルでの研究

石川冬木 教授

遺伝子の振る舞いが、どのように老化やがん化を引き起こすかを明らかにする。

森 和俊 教授

小胞体の恒常性を維持する応答機構の解析

上村 匡 教授

高次生命現象を支える、細胞のデザイン、構築、そしてモデリングに関する研究

阿形清和 教授

幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究

千坂 修 准教授

動物の分子発生生物学

中世古幸信 准教授

細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析

吉田秀郎 准教授

高等動物における遺伝子発現制御機構の分子レベルでの研究

土井知子 准教授

シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究

船山典子 准教授

カワカイメンを用いた、進化的に最も古い生物での幹細胞分化制御機構、細胞間相互作用

今元 泰 准教授

センサー蛋白質の応答に関する物理化学的・構造生物学的研究

高田彰二 准教授

生体分子システムの構造・機能についての、理論およびシミュレーション研究

佐藤 智 講師

細胞膜を構成する脂質分子の機能研究・分子集合 科学による生命現象の解析

国際交流室**鈴木在乃 講師**

国際教育学、異文化間教育学、環境デザイン一般（建築学・造園学・地域計画学）。現在は、住宅計画論、特に留学生等の住居の問題について研究しています。

医学部**医学科****渡邊 大 教授**

生体情報科学

塩田浩平 教授

形態形成機構学

武藤 誠 教授

遺伝薬理学

鍋島陽一 教授

腫瘍生物学

松田道行 教授

病態生物医学

光山正雄 教授

微生物感染症学

湊 長博 教授

免疫細胞生物学

玉木敬二 教授

法医学

長田重一 教授

分子生物学

岩田 想 教授

分子細胞情報学

野田 亮 教授

分子腫瘍学

篠原隆司 教授

分子遺伝学

武田俊一 教授

放射線遺伝学

金子武嗣 教授

高次脳形態学

河野憲二 教授

認知行動脳科学

大森治紀 教授

神経生物学

成宮 周 教授

神経・細胞薬理学

芹川忠夫 教授

実験動物学

松田文彦 教授

疾患ゲノム疫学解析

平出 敦 教授

医学教育、救急医学、蘇生学

福山秀直 教授

脳機能イメージング

内山 卓 教授

血液・腫瘍内科学

中尾一和 教授

内分泌・代謝内科学

北 徹 教授

循環器内科学

千葉 勉 教授

消化器内科学

三嶋理晃 教授

呼吸器内科学

三森経世 教授

臨床免疫学

稲垣暢也 教授

糖尿病・栄養内科学

小池 薫 教授

初期診療・救急医学

宮地良樹 教授

皮膚科学

中畑龍俊 教授

発達小児科学

平岡真寛 教授

放射線腫瘍学・画像応用治療学

富樫かおり 教授

画像診断学・核医学

一山 智 教授

臨床病態検査学

坂井義治 教授

消化管外科学

上本伸二 教授

肝胆膵・移植外科学

戸井雅和 教授

乳腺外科学

福田和彦 教授

麻酔科学

小西郁生 教授

婦人科学・産科学

小川 修 教授

泌尿器科学

伊達洋至 教授

呼吸器外科学

鈴木茂彦 教授

形成外科学

吉村長久 教授
眼科学
伊藤壽一 教授
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
中村孝志 教授
整形外科学
別所和久 教授
口腔外科学
藤田 潤 教授
分子病診療学
高橋良輔 教授
臨床神経学
林 拓二 教授
精神医学
佐藤俊哉 教授
医療統計学
福原俊一 教授
医療疫学
川上浩司 教授
薬剤疫学
今中雄一 教授
医療経済学
小杉眞司 教授
医療倫理学
中山健夫 教授
健康情報学
小泉昭夫 教授
環境衛生学
木原正博 教授
社会疫学
中原俊隆 教授
健康政策・国際保健学
前川 平 教授
輸血医学、血液学
真鍋俊明 教授
診断病理学（一般）、皮膚病理学、肺病理学
清水 章 教授
分子生物学、遺伝子医学
福島雅典 教授
臨床試験管理学、薬剤疫学
横出正之 教授
先端医療構築学、高齢医学
乾 賢一 教授
医療薬理学、薬物動態学
吉原博幸 教授
病院情報システム学、医療情報交換規格
中嶋善明 准教授
生体情報科学
三浦 岳 准教授
形態形成機構学
光家 保 准教授
細胞機能制御学
青木正博 准教授
遺伝薬理学
高橋 玲 准教授
腫瘍生物学
豊國伸哉 准教授
病態生物医学
河村伊久雄 准教授
微生物感染症学

服部雅一 准教授
免疫細胞生物学
福永理己郎 准教授
分子生物学
藤山文乃 准教授
高次脳形態学
石井孝広 准教授
神経生物学
渡邊直樹 准教授
神経・細胞薬理学
庫本高志 准教授
実験動物学
角谷 寛 准教授
疾患ゲノム疫学
須山幹太 准教授
ゲノム情報科学
山内 浩 准教授
脳機能イメージング
向山政志 准教授
内分泌・代謝内科学
松森 昭 准教授
循環器内科学
木村 剛 准教授
循環器内科学
武藤 学 准教授
消化器内科学
新實彰男 准教授
呼吸器内科学
宇谷厚志 准教授
皮膚科学
平家俊男 准教授
発達小児科学
光森通英 准教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学
三木幸雄 准教授
画像診断学・核医学
飯沼由嗣 准教授
臨床病態検査学
渡辺 剛 准教授
消化管外科学
猪飼伊和夫 准教授
肝胆臓・移植外科学
賀本敏行 准教授
泌尿器科学
池田 義 准教授
心臓血管外科学
平田敏樹 准教授
呼吸器外科学
野瀬謙介 准教授
形成外科学
喜多美穂里 准教授
眼科学
根尾昌志 准教授
整形外科学
藤村和磨 准教授
口腔外科学
伊藤克彦 准教授
分子病診療学
池田昭夫 准教授
臨床神経学

三國信啓 准教授
脳神経外科学
村井俊哉 准教授
精神医学
大森 崇 准教授
医療統計学
山崎 新 准教授
医療疫学
松井茂之 准教授
薬剤疫学
沼部博直 准教授
医療倫理学
岩隈美穂 准教授
医学コミュニケーション学
木原雅子 准教授
社会疫学
里村一成 准教授
健康政策・国際保健学
荒井俊之 准教授
虚血再灌流傷害の研究
柴田登志也 准教授
画像診断学
松田直之 准教授
敗血症の新規創薬、集中治療医学、救急医学
柿木良介 准教授
末梢神経損傷・上肢損傷に対する手術とリハビリ
三上芳喜 准教授
診断病理学、婦人科腫瘍学、泌尿器腫瘍学
江川裕人 准教授
肝移植
白神豪太郎 准教授
麻酔科学
高田泰次 准教授
肝移植
南 幸太郎 准教授
分子糖尿病学、再生医学
王 英正 准教授
重症心不全への心筋幹細胞移植療法の確立
手良向 聡 准教授
臨床統計学
桂 敏也 准教授
医療薬理学、生物薬剤学
長瀬啓介 准教授
医療管理及び同領域での情報システム応用
岸本寛史 准教授
地域医療学・緩和医療学・心身医学
鶴山竜昭 講師
法医学
小林拓也 講師
分子細胞情報学
小川 正 講師
認知行動脳科学
森本 剛 講師
医学教育学、総合内科学、医療安全学、臨床疫学
石川隆之 講師
血液・腫瘍内科学
門脇則光 講師
血液・腫瘍内科学

高折晃史 講師
血液・腫瘍内科学
細田公則 講師
内分泌・代謝内科学
久米典昭 講師
循環器内科学
堀内久徳 講師
循環器内科学
塩井哲雄 講師
循環器内科学
平井豊博 講師
呼吸器内科学
藤井隆夫 講師
臨床免疫学
若月芳雄 講師
加齢医学
荒井秀典 講師
加齢医学
藤本新平 講師
糖尿病・栄養内科学
高橋健造 講師
皮膚科学
是枝 哲 講師
皮膚科学
依藤 亨 講師
発達小児科学
足立壯一 講師
発達小児科学
溝脇尚志 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学
石津浩一 講師
画像診断学・核医学
久保 肇 講師
消化管外科学
岡部 寛 講師
消化管外科学
土井隆一郎 講師
肝胆臓・移植外科学
岡本晋弥 講師
肝胆臓・移植外科学
高折恭一 講師
肝胆臓・移植外科学
廣田喜一 講師
麻酔科学
藤原 浩 講師
婦人科学・産科学
万代昌紀 講師
婦人科学・産科学
巽 啓司
婦人科学・産科学
西山博之 講師
泌尿器科学
中村英二郎 講師
泌尿器科学
仁科 健 講師
心臓血管外科学
大久保憲一 講師
呼吸器外科学
坂谷正紀 講師
眼科学

薬学部

藤井信孝 教授

ゲノム・プロテオーム情報収斂型創薬研究

富岡 清 教授

機能性分子の有機合成化学と生物活性分子の生物有機化学

竹本佳司 教授

◎金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発
◎生物活性天然有機化合物の不全合成研究

松崎勝巳 教授

生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開

加藤博章 教授

酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかに機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。

辻本豪三 教授

ゲノム包括的解析、バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテララーメイド医療

半田哲郎 教授

脂質あるいはこれと血漿アポリipoproteinによる分子集合体形成の生物物理化学とその薬学への応用

竹島 浩 教授

細胞内 Ca2+ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明

金子周司 教授

神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究

伊藤信行 教授

遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義

中山和久 教授

◎細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構
◎細胞内タンパク質分解の調節機構

橋田 充 教授

◎薬物の体内動態の機構解明に関する研究◎薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発

赤池昭紀 教授

◎神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索 ◎虚血性網膜障害の予防・治療薬の研究

佐治英郎 教授

◎画像診断薬、放射線治療薬の創製 ◎病態解明、創薬のための分子イメージング法の開発 ◎金属化合物の生体作用の解明

高倉喜信 教授

◎遺伝子治療医薬品の生物薬剤学的研究 ◎培養細胞を利用した薬物動態研究

岡村 均 教授

哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明、リズム障害の分子基盤に関する研究

掛谷秀昭 教授

次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究および天然物薬学研究

北浦和夫 教授

計算化学による生体高分子の構造・機能の研究と創薬のための新規手法の開発

大野浩章 准教授

創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究

山田健一 准教授

有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用

福田善弘 教授

肝臓病学・臨床免疫学

藤田正俊 教授

内科学・循環器内科学

岡 昌吾 教授

生化学・神経糖鎖生物学

杉本直三 教授

医用画像情報学

齋藤邦明 教授

アミノ酸代謝と免疫および疾患メタボローム、プロテオーム解析

精山明敏 教授

生体が営む複雑な生命現象を、磁気共鳴法・光学計測法などの物理学的手法を用いて可視化し、その機能発現を解明する。

高桑徹也 教授

慢性炎症から発症するリンパ腫の研究

池本正生 准教授

臨床生化学：急性炎症抑制蛋白に関する研究

大塚研一 准教授

偏微分方程式論

笹山 哲 准教授

医療情報処理

伊吹謙太郎 准教授

微生物学・ウイルス感染症学

坪山直生 教授

整形外科学、運動器リハビリテーション学

黒木裕土 教授

超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究、空気圧を利用した歩行補助装置の研究

市橋則明 教授

骨・関節系理学療法に関する臨床的研究およびバイオメカニクスの研究

石橋 誠 教授

中枢神経系、骨格系の発生・再生の分子機構の解明（遺伝子工学的手法、発生工学的手法、数理生物学的手法による）

笠原勝幸 准教授

整形外科学・運動学

玉木 彰 准教授

運動と呼吸のリズムに関する研究、呼吸理学療法に関する研究

大畑光司 講師

運動発達とその障害に関する研究、脳損傷とリハビリテーション

前田祐子 講師

高齢者医療の心理・態度研究と医療コミュニケーションの研究

山根 寛 教授

障害構造およびトータルリハビリテーションシステム、作業活動を介したコミュニケーション、場の機能とグループダイナミクス

三谷 章 教授

リハビリテーションの神経機構

十一元三 教授

精神医学、認知神経科学、発達障害学、児童司法精神医学

二木淑子 教授

障害学、作業療法学に関する研究（主に身体障害、高次脳機能障害：認知機能障害のリハビリテーションに関する研究）

加藤寿宏 准教授

発達障害の作業療法（特に高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害児に対する臨床研究）

桂 敏樹 教授

老人・成人保健、健康な街づくり

江川隆子 教授

成人看護学（糖尿病患者のフットケア・腎不全・糖尿病患者のセルフケア・転倒防止のための老人のフットケアなど）

櫻庭 繁 教授

精神看護学、リエゾン精神看護学、自殺、失感情症、病跡学、精神障害者援助論、精神保健福祉活動、高次脳機能に対する生理的研究

我部山キヨ子 教授

母性・父性のメンタルヘルスと育児支援システム構築に関する研究、助産ケアの質向上のためのシステム構築に関する研究、女性の生涯に渡るリプロダクティブヘルス/ライツに関する研究

林 優子 教授

臓器移植看護に関する研究、患者教育に関する研究、医療事故防止のためのバーチャルリアリティシミュレーション及び教育開発プログラムに関する研究患者教育に関する研究

成木弘子 教授

地域看護学（地域ケアシステム構築における市民参画・コミュニティ・エンパワメントに関する研究）

菅沼信彦 教授

不妊症学 産婦人科内分科学

木下彩栄 教授

認知症の病態に関する分子生物学的研究、および、認知症のケアに関する研究

野本慎一 教授

災害医学・看護学、医療安全学、心臓血管外科学

鈴木真知子 教授

小児在宅療養支援に関する研究、重症症例の自律に向けた育児支援に関する研究、学校看護師の専門的機能と役割に関する研究、訪問看護ステーションにおける重心児（者）の専門特化すべきサービスのあり方に関する研究、小児の臓器移植に関する倫理的課題について

柳吉桂子 准教授

助産ケアモデルの構築、助産学教育、助産管理

赤澤千春 准教授

臓器移植に関するクリティカル看護ケアに関する研究、リンパ浮腫に関する研究、アクティブ・ラーニングに関する研究

星野明子 准教授

地域看護学 大都市の人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築

若村智子 准教授

生体リズムからみた生活環境調整に関する研究。睡眠に関する研究

谷口初美 准教授

性と生殖に関する Transition の看護概念をテーマに各 Transition の女性達の成長や健康への影響に関する研究

作田裕美 准教授

がん看護学（がん術後リンパ浮腫の発症予測に関する生理学的研究、がん術後リンパ浮腫患者への治療的介入研究、がん患者のQOL向上に向けた教育・指導の方法論に関する研究）

本田育美 准教授

糖尿病患者の足病変予防に関する研究、高齢者へのフットケアに関する研究

渡邊浩子 講師

助産学・母性看護学 妊娠期の栄養・体重管理と胎児発育に関する研究

笹田昌孝 教授

血液内科学・感染症学

宮本和明 講師

眼科学

平野 滋 講師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中山富貴 講師

整形外科学

西田光男 講師

口腔外科学

高橋 克 講師

口腔外科学

高木康志 講師

脳神経外科学

菊田健一郎 講師

脳神経外科学

野間俊一 講師

精神医学

林田賢史 講師

医療経済学

宮木幸一 講師

健康情報学

原田浩二 講師

環境衛生学

細川雅也 講師

糖尿病学、臨床栄養学

深津敦司 講師

腎臓内科学

伊藤順子 講師

臨床神経生理学

岡野嘉明 講師

循環・呼吸病態生理学、肺高血圧症の臨床、心・血管超音波診断、臨床心電図学

長尾能雅 講師

医療安全管理学

樋口壽宏 講師

婦人科腫瘍学

福原 健 講師

婦人科腫瘍学、周産期管理

中嶋安彬 講師

診断病理学、骨腫瘍

瀬川 一 講師

集中治療医学、麻酔科学

仲瀬裕志 講師

炎症性腸疾患の新規治療法開発

菅井 学 講師

分子生物学、遺伝子医学

増田智先 講師

薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明

竹村匡正 講師

医療言語処理学、過去症例に基づく医学知識抽出

伊藤俊之 講師

消化器内科学、医学教育学

医学部人間健康科学科

齋藤ゆみ 教授

基礎看護学（生体防御・感染看護学）

菅 佐和子 教授

臨床心理学、看護カウンセリング

宮島朝子 教授

「人間－環境系」の視点からみた療養者の生活環境と健康現象との関係性ほか

高須清誠 准教授
機能性低分子の迅速製造を可能とする分子変換法の開拓と創業への展開

伊藤美千穂 准教授

◎植物二次代謝酵素の構造―機能相関研究
◎フィードバックを軸とする薬用植物の調査・開発研究

星野 大 准教授

高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析

中津 亨 准教授

◎光生物タンパク質の構造生物学的研究 ◎ヒト赤血球アニオントランスポーターの構造生物学的研究

平澤 明 准教授

◎オーファン受容体のリガンド探索と機能解析
◎ DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析

中野 実 准教授

◎脂質膜の静的・動的構造評価とタンパク質との相互作用評価 ◎脂質ナノ粒子の創製と薬学応用

山崎哲男 准教授

リンパ球の恒常性維持機構の分子基盤解明

渡部好彦 准教授

サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学

中川貴之 准教授

◎薬物依存形成機構の神経薬理学的解析◎痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析

杉本幸彦 准教授

アスピリンが何故解熱鎮痛薬として効くのか、その標的物質であるプロスタグランジンとその受容体の生理機能を研究している。

山下富義 准教授

◎薬物体内動態シミュレーターの開発研究◎微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

久米利明 准教授

神経変性疾患における中枢ニューロン死制御を目指した神経薬理学的研究

矢野育子 准教授

薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

小野正博 准教授

病態機能分析を指向した分子イメージング技術の開発とその創薬研究への応用

山岡 清 准教授

◎動物体内動態試験での一点 Sampling データに基づく Bootstrap 法による動態パラメータの分散の評価 ◎ RNA 干渉の速度論的定量化およびその制御 ◎非線形臓器動態と全身動態の関連解析 (in loci)

西川元也 准教授

◎核酸を基盤とする治療・デリバリーシステムの開発 ◎生体防御関連因子の時空間制御技術の開発

三宅 歩 講師

ゼブラフィッシュを用いた FGF の機能解析

土居雅夫 講師

脳内中枢時計における分子振動システムの解明、生体リズム調製剤の開発

工学部

地球工学科

杉浦邦征 教授

社会基盤工学専攻 鋼構造・複合構造の力学的特性評価およびその設計法

宮川豊章 教授

社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

田村 武 教授

社会基盤工学専攻 応用力学、数値解析、粒状体の力学、トンネル工学

禰津家久 教授

社会基盤工学専攻 各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究

岡 二三生 教授

社会基盤工学専攻 計算地盤力学、砂地盤の液状化解析、地盤の変形の局所化

小林潔司 教授

都市社会工学専攻 国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

中川 大 教授

都市社会工学専攻 都市計画、都市交通対策、公共交通政策

谷口栄一 教授

都市社会工学専攻 道路交通計画、地域ロジスティクスに関する研究

北村隆一 教授

都市社会工学専攻 交通需要予測、交通システム工学

大津宏康 教授

都市社会工学専攻 ジオリスクエンジニアリング、海外建設プロジェクトリスクマネジメント

細田 尚 教授

都市社会工学専攻 河川工学、開水路水理学、数値流体力学

田村正行 教授

都市環境工学専攻 衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

大西有三 教授

都市環境工学専攻 地下空間開発に伴う岩盤の力学・水理学特性解明と解析ならびに計測手法の研究

後藤仁志 教授

都市環境工学専攻 海岸工学、流砂・漂砂水理学、数値流体力学

河野広隆 教授

都市環境工学専攻 構造物の維持管理、コンクリート工学

椎葉充晴 教授

都市環境工学専攻 水文学、水資源工学、河川防災

川崎雅史 教授

都市環境工学専攻 公共空間における景観デザイン

木村 亮 教授

都市環境工学専攻 新たな構造物基礎やトンネル構造物の開発、世界の貧困削減に向けた研究の実施

嘉門雅史 教授

地球環境学堂 社会基盤親和技術の開発、環境地盤工学

藤田正治 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 山地流域の土砂動態に関する研究、水・土砂・生物系に関する研究

中川 一 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

井合 進 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 地震時の地盤災害、地盤防災に関する研究

関口秀雄 教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 水際地形環境の研究、海岸地下水環境に関する研究

澤田純男 教授

都市社会工学専攻/防災研究所 震源モデルと地盤振動解析に基づく設計入力地震動評価

小尻利治 教授

都市社会工学専攻/防災研究所 水資源工学、総合流域管理、流域環境評価、人工知能システム

中北英一 教授

都市社会工学専攻/防災研究所 降雨予測を含むレーダー水文学、世界の異常降雨災害

岡田憲夫 教授

都市社会工学専攻/防災研究所 災害リスクマネジメント、特に、計画的手法やシステム科学的アプローチに関する研究

戸田圭一 教授

都市社会工学専攻/防災研究所 地下浸水を含む都市水害の予測と対策

多々納裕一 教授

社会情報学専攻/防災研究所 防災の経済分析、災害リスクガバナンス

河田恵昭 教授

社会情報学専攻/防災研究所 総合減災システムに関する研究、巨大災害過程に関する研究

林 春男 教授

社会情報学専攻/防災研究所 防災心理学、組織の危機管理論、災害情報システム、災害過程論

堀 智晴 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 水資源システムの計画と管理、洪水・渇水災害の防止と軽減

間瀬 肇 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 海岸災害解析の基礎となる波動理論、数値モデル、耐波設計法

寶 馨 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 洪水予報と治水計画、極値統計理論、防災の新技术・政策論

萩原良巳 教授

都市環境工学専攻/防災研究所 災害リスク軽減、環境創生計画、環境と開発のコンフリクト、環境災害、水循環圏再構成

宇都宮智昭 准教授

社会基盤工学専攻 海洋構造物の動的応答に関する研究

白土博通 准教授

社会基盤工学専攻 風工学（構造物の耐風設計、強風災害低減）

山本貴士 准教授

社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の力学性能および耐久性、補修・補強、新材料・新工法

角 哲也 准教授

社会基盤工学専攻 ダム工学、水工水理学、ダム貯水地の土砂管理に関する研究

牛島 省 准教授

社会基盤工学専攻 数値流体力学

木元小百合 准教授

社会基盤工学専攻 地盤材料の構成式、地盤数値解析

松島格也 准教授

都市社会工学専攻 交通市場分析、交通経済学、コミュニケーション

松中亮治 准教授

都市社会工学専攻 都市地域計画、交通計画、都市環境評価、交通政策・制度

山田忠史 准教授

都市社会工学専攻 輸送システム、ロジスティクス、最適化

宇野伸宏 准教授

都市社会工学専攻 道路交通システムの計画とITSを用いた管理運用の方法論に関する研究

吉井稔雄 准教授

都市社会工学専攻 交通制御工学、交通流解析、交通ネットワーク解析

五十嵐風 准教授

都市社会工学専攻 地震荷重下における社会基盤構造物の安全性および動的応答の制御

清野純史 准教授

都市社会工学専攻 地震震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

塩谷智基 准教授

都市社会工学専攻 土木構造物の維持管理に資する先端計測技術・評価手法の研究

岸田 潔 准教授

都市社会工学専攻 地盤の力学・水理学特性の評価、トンネルと地下空間の創出、地下構造物の可視化

須喇純一 准教授

都市環境工学専攻 衛星リモートセンシングによる地球環境・都市環境のモニタリングとモデリング

西山 哲 准教授

都市環境工学専攻 地下空間の創造・保全・維持管理のための力学、水理学的特性を解明する解析および計測手法の研究

服部篤史 准教授

都市環境工学専攻 コンクリート構造物のマネジメント、耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

立川康人 准教授

都市環境工学専攻 水循環および洪水の予測と水災害軽減に関する研究

勝見 武 准教授

地球環境学堂 環境地盤工学に関する研究

竹林洋史 准教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 土砂水理学、河川工学

川池健司 准教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 都市水害の氾濫数値解析、防災水工学

三村 衛 准教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 粘土地盤の変形解析、地盤情報データベース、土木遺跡の保存

堤 大三 准教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 山岳域における土砂生産や流砂の観測および土砂災害防止に関する研究

武藤裕則 准教授

社会基盤工学専攻/防災研究所 河川流および沿岸流の構造観測、河川構造と生態系成立の関連に関する研究

高橋良和 准教授

都市社会工学専攻/防災研究所 地震時における土木構造システムの安全性評価、オブジェクト指向地震工学

田中賢治 准教授

都市社会工学専攻/防災研究所 陸面過程スキームの開発、全球規模から領域規模までの水・熱循環の予測

城戸由能 准教授

都市社会工学専攻/防災研究所 水環境の動態解析と予測・評価

横松宗太 准教授

都市社会工学専攻/防災研究所 防災投資による災害リスクの軽減便益の経済評価に関する研究

米山 望 准教授

都市社会工学専攻/防災研究所 数値シミュレーションによる流体関連災害メカニズムの解明

森 信人 准教授

都市環境工学専攻 / 防災研究所 沿岸災害メカニズムの基礎理論および数値モデリング

畑山満則 准教授

社会情報学専攻 / 防災研究所 時空間地理情報システム、災害リスク・コミュニケーション、情報システムを用いた災害対応

矢守克也 准教授

社会情報学専攻 / 防災研究所 防災心理学に関する研究、防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

牧 紀男 准教授

社会情報学専攻 / 防災研究所 ステークホルダー参画型防災戦略計画、災害復興計画、すまいの災害誌（アジア地域を中心に）

竹門康弘 准教授

都市環境工学専攻 / 防災研究所 河川や湖沼の生態系管理のための応用生態工学的、生態水文学的研究

青木謙治 教授

都市環境工学専攻 岩盤内の浸透流挙動に関する研究、地殻環境評価技術の研究

松岡俊文 教授

社会基盤工学専攻 地下資源開発と地球環境保全へのナノジオサイエンスの適用研究

石田 毅 教授

社会基盤工学専攻 地圧や破壊音の測定による岩盤破壊の研究に基づく地下深部の利用・開発への貢献

朝倉俊弘 教授

社会基盤工学専攻 岩盤構造物設計と保守に関する研究

馬淵 守 教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

宅田裕彦 教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

三ヶ田 均 教授

社会基盤工学専攻 統合型マルチスケール構造探査技術の確立と応用

新苗正和 准教授

都市環境工学専攻 地殻環境工学及び資源循環工学に関する研究

塚田和彦 准教授

社会基盤工学専攻 非破壊検査による材料劣化の評価に関する研究

村田澄彦 准教授

社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の創生

山田泰広 准教授

社会基盤工学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

上田 晃 准教授

社会基盤工学専攻 CO₂-地下水-岩石間の地球化学的反応解析に関する研究

楠田 啓 准教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 資源開発と合理的供給システム、海洋資源エネルギー

藤本 仁 准教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

薛 自求 講師

社会基盤工学専攻 地中貯留におけるCO₂挙動モニタリングとCO₂貯留量の定量的評価に関する研究

内山巖雄 教授

都市環境工学専攻 環境が原因となる人の健康のリスク評価に関する研究

森澤眞輔 教授

都市環境工学専攻 都市環境システムの評価とデザインに関する研究

津野 洋 教授

都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

小山昭夫 教授

都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

馬原保典 教授

都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

松岡 譲 教授

都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

東野 達 教授

エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷評価に関する研究

藤井滋穂 教授

地球環境学堂 水域水質・生態系の保全と制御に関する研究

田中宏明 教授

都市環境工学専攻 健全な水循環・水環境をめざす研究

酒井伸一 教授

都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

清水芳久 教授

都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の分析方法の開発と挙動の解明、流域管理

米田 稔 教授

都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

伊藤禎彦 教授

都市社会学専攻 都市衛生工学、水道水質の安全性評価とその制御

藤川陽子 准教授

都市環境工学専攻 放射性廃棄物地中処分の環境安全評価に係わる実験的研究

松井利仁 准教授

都市環境工学専攻 騒音が人間の健康に及ぼす影響に関する研究

松田知成 准教授

都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

高岡昌輝 准教授

都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

西村文武 准教授

都市環境工学専攻 水環境の保全と廃水処理に関する研究

倉田学児 准教授

都市環境工学専攻 広域大気汚染シミュレーションとその将来影響予測に関する研究

管運涛 准教授

都市環境工学専攻 環境用水保全のための雨水利用と水道給水管路内における微生物学的安全性に関する研究

平井康宏 准教授

都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究、廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

越後信哉 准教授

都市社会学専攻 浄水処理の化学、高度水処理技術の開発

山下尚之 講師

都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

建築学科**加藤直樹 教授**

建築計画、構造、環境の全般にわたる情報工学的、システム工学的技術に関する研究

門内輝行 教授

人間生活環境学及び建築・都市設計の方法に関する研究

高橋康夫 教授

日本都市・建築史の研究

宗本順三 教授

建築設計方法及び建築計画学の研究

銚井修一 教授

エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

高松 伸 教授

建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

上谷宏二 教授

弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

井上一郎 教授

鋼構造物および鋼・コンクリート合成構造の設計と接合システムに関する研究

吉田治典 教授

環境負荷の少ない都市・建築の設計方法の研究

高田光雄 教授

建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

高橋大武 教授

居住・行動空間の音環境設計に関する研究

竹脇 出 教授

建築構造物 - 地盤連成系の逆問題型設計法

小林正美 教授

自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

林 康裕 教授

◎地域と建築物の保全再生 ◎建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント ◎建築地震防災

大崎 純 准教授

建築システム最適化と大スパン構造物の設計

石田泰一郎 准教授

人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

山岸常人 准教授

日本建築史及び歴史的建造物保存

河野 進 准教授

コンクリート系構造物の耐震設計

原田和典 准教授

建築空間の火災安全設計

竹山 聖 准教授

建築空間論及び居住形態論

荒木慶一 准教授

計算力学、非破壊検査及び構造力学

吹田啓一郎 准教授

鋼構造建築物の耐震設計と耐震補強

古阪秀三 准教授

建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

金多 隆 准教授

建築生産システムとマネジメントに関する研究

上谷芳昭 准教授

環境共生型屋光照明設計法

西山峰広 准教授

コンクリート系建築構造物の耐震設計

伊勢史郎 准教授

アクティブ騒音制御、音環境制御及び音環境心理に関する研究

吉田 哲 准教授

居住空間における環境心理学の研究

辻 聖晃 准教授

粘性系のダンパーを用いた既存建築物の耐震補強

神吉紀世子 准教授

都市・農村計画、環境共生の地域づくり

田路貴浩 准教授

建築・都市デザインに関する建築論的研究

松下大輔 講師

人間行動に基づく建築設計方法の研究

中島正愛 教授

建物の地震時挙動の解明と震害の防御・軽減技術

河井宏允 教授

自然風の特徴を考慮した新しい建築構造物の耐風設計

田中仁史 教授

鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法

田中喆義 教授

地震火災被害のリスク評価と防災対策

川瀬 博 教授

都市居住空間の地震被害低減のための地震動および地震被害予測に関する研究

丸山 敬 准教授

市街地における風環境の解明

田村修次 准教授

地盤の不均一性評価および地盤-杭-建築物の耐震性能評価法

日高桃子 准教授

新素材・合成手法を応用した耐震構造・要素の開発

理工学学科**榎木哲夫 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース 人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

北條正樹 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 先進複合材料の破壊における巨視視観相関メカニクス、バイオメカニクス

宮崎剛幸 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 電子材料 / 電子デバイスの強度評価、計算固体力学

小森 悟 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 流体装置および環境中に見られる乱流輸送現象の流体工学的解明

木田重雄 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 乱流による熱や物質の混合・輸送のメカニズムの解明

北村隆行 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

牧野俊郎 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース 熱・ぶく射輸送現象の解明と熱・ぶく射応用計測

松久 寛 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース ◎機械構造物の振動解析 ◎振動および騒音の制御

中部主敬 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

蓮尾昌裕 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース レーザー光・近接場光を用いた光計測・分光法の開発

富田直秀 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 荷重支持組織の再生、再建とその生体環境設計

井手亜里 教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 粒子ビームによる超微細加工・分析

安達泰治 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 生体組織・細胞の機能的適応のバイオメカニクスとその工学的応用

池田 徹 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 界面の破壊力学、電子実装における信頼性評価

花崎秀史 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 流体中の熱・物質輸送現象の解明

松本充弘 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 分子熱流体現象の解明

宇津野秀夫 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース ◎機械構造物の振動、騒音制御 ◎連続体を伝わる波動現象の解析

横小路義泰 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース ロボット工学、操縦型マニピュレータの解析と制御

小森雅晴 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース ◎メカニズム、機構、機械要素 ◎超精密形状計測

黒瀬良一 准教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 流体装置内および環境中に見られる乱流輸送現象の解明

水山 元 講師
機械理工学専攻・機械システム学コース ◎生産システム工学 ◎品質管理、品質工学

中西弘明 講師
機械理工学専攻・機械システム学コース 学習・適応システムとシステム制御、自律型ロボットの設計とその安全・防災活動への応用

澁川貴志 講師
機械理工学専攻・機械システム学コース 微小構造体の変形と破壊特性に関する実験及び力学解析

小寺秀俊 教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロシステムの加工と特性に関する研究

田畑 修 教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロマシン、マイクロシステム、微小電気機械システム (MEMS) に関する研究

木村健二 教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 高速荷電粒子と固体表面の相互作用の解明とそれを用いた表面の新しい評価・分析法の開発

立花明知 教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 量子力学に基づく物性理論とシミュレーション及びそのエレクトロニクス材料設計への応用

松原 厚 教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ◎高速・高精度位置決め技術 ◎加工プロセスのモニタリングと制御

楠見明弘 教授
再生医科学研究所・機械システム学コース 1分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

神野伊策 准教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

土屋智由 准教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース マイクロシステム、マイクロマシン用材料の機械的物性評価

鈴木基史 准教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ◎ナノ構造薄膜の電気的、光学的物性に関する研究 ◎イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

茨木創一 准教授
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース ◎加工機の制御と運動精度計測 ◎加工プロセスの制御

玄丞丞 准教授
再生医科学研究所・機械システム学コース ◎有機高分子医療用材料の合成と物性 ◎人工関節軟骨、人工関節のバイオメカニクス ◎細胞増殖制御と生体組織の保存

津守不二夫 講師
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース 粉体成形・粒子系材料を利用したプロセス開発および応用、解析手法の開発

宮野公樹 科学技術振興講師
マイクロエンジニアリング専攻 金属相変態現象における析出相制御 ◎バイオ・マイクロデバイス

桑島修一郎 科学技術振興講師
マイクロエンジニアリング専攻 X線の散乱現象を利用した生体分子薄膜の構造評価とバイオセンシング応用

吉村允孝 教授
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース ◎最適システム設計・生産 ◎生産情報システム

吉田英生 教授
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース 熱エネルギーを主体とするシステムの開発

片井 修 教授
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎知能システムの構築と運用 ◎メディア技術とヒューマン・インターフェイス ◎創発システム論

熊本博光 教授
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎人間中心システム ◎乗用車の運転支援 ◎信頼性と安全性

杉江俊治 教授
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎アドバンスド制御理論とその応用 ◎メカトロニクス系の設計と制御

西脇眞二 准教授
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース ◎最適設計法 ◎車両設計・生産工学

川上浩司 准教授
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎人工物工学による設計支援 ◎機械学習

西原 修 准教授
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎人間中心システム ◎動力学解析によるバーチャル・プロトタイプング

岩井 裕 准教授
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース 熱機器における熱移動現象の解明とその予測および制御

石川将人 講師
情報学研究所システム科学専攻・機械システム学コース ◎非線形制御理論 ◎非ホロノミックシステムの制御 ◎ハイブリッドシステムの制御

稲室隆二 教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 複雑混相流体力学の基礎理論とその応用

永田雅人 教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 流れの非線形安定性に関する研究と非線形システムにおける解の分岐

斧 高一 教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

市川 朗 教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース システム制御理論とその航空宇宙工学への応用

大和田拓 准教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 分子気体力学の理論的研究

幸田武久 准教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース システムの信頼性および安全性

江利口浩二 准教授
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究と航空宇宙工学への応用

杉元 宏 講師
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース 微視的流体力学の理論的研究

青木一生 教授
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース 希薄気体力学の理論的研究とその航空宇宙工学への応用

高田 滋 准教授
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース 非平衡気体力学の理論的研究

福山 淳 教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎プラズマ物理学 ◎核融合プラズマ工学 ◎プラズマ応用

伊藤秋男 教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学 ◎クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究 ◎量子線計測

森山裕丈 教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎核材料工学 ◎放射化学 ◎核燃料サイクル

山本克治 教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎物理学の基礎理論 ◎光と原子の量子状態操作と量子情報通信 ◎素粒子物理学

功刀資彰 教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎数値熱流体力学 ◎ナノ・マイクロ熱流体工学 ◎核融合炉熱工学

神野郁夫 教授
量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース ◎放射線物理学 ◎放射線検出器と量子励起現象

高木郁二 准教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎核融合炉材料 ◎軽水炉材料 ◎水素エネルギー材料

村上定義 准教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎プラズマ物理学 ◎核融合プラズマ工学

松尾二郎 准教授
量子理工学研究実験センター・原子核工学サブコース ◎量子ビームと物質との相互作用 ◎量子ビームによる新材料創製技術 ◎反応ダイナミクス

田崎誠司 准教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎低速中性子光学 ◎中性子スピン干渉現象の研究と応用

佐々木隆之 准教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎アクチノイドの分離分析化学 ◎放射性廃棄物の処理処分

柴田裕実 准教授
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎高速クラスターイオンと物質との相互作用 ◎超高速微粒子生成と宇宙塵計測 ◎マイクロイオンビームに依る微量分析

河原全作 講師
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎エネルギー機器の熱流体工学 ◎伝熱工学 ◎混相流の物理と工学

瀬木利夫 講師
原子核工学専攻・原子核工学サブコース ◎量子ビームの生成と制御 ◎量子ビームによる高精度ナノ加工・ナノ材料創成

松原英一郎 教授
材料工学専攻・材料科学コース 構造解析に基づく金属ガラス転移解明、金属ナノ粒子製造、鉛フリーはんだ設計、磁性薄膜自己組織化等を研究

粟倉泰弘 教授
材料工学専攻・材料科学コース 材料電気化学の手法を用いた薄膜材料のプロセッシングと材料表面の耐食性・高機能化

乾 晴行 教授
材料工学専攻・材料科学コース 金属間化合物の格子欠陥と物性

河合 潤 教授
材料工学専攻・材料科学コース 材料の構造、物性、電子状態、化学状態、濃度等に関する物質情報を計測したり、環境物質を分析するための新手法の開発

杉村博之 教授
材料工学専攻・材料科学コース 物質の集積化と機能構築

田中 功 教授
材料工学専攻・材料科学コース セラミックス材料の量子材料設計

酒井 明 教授
材料工学専攻・材料科学コース ナノテクノロジー、特にナノワイヤー、ナノ接点の電子伝導の研究

落合庄治郎 教授
材料工学専攻・材料科学コース 複合材料の機能発現メカニズムと最適構造デザイン

中村裕之 教授
材料工学専攻・材料科学コース 金属・化合物の磁性、強相関電子系の低温度量子物性

白井泰治 教授
材料工学専攻・材料科学コース 陽電子 (ポジトロン) ビームを用いた物質内部の局所原子配列の解明、高機能材料開発、新しい陽電子分析機器の開発

田中克志 准教授
材料工学専攻・材料科学コース 単結晶弾性率測定法の開発と新材料の弾性率測定、外部応力・磁場による組織制御とそのデバイスへの応用

伊藤和博 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 薄膜材料の作製と物性

邑瀬邦明 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 電気化学的もしくは化学的手法による金属、合金、および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

松永克志 准教授

材料工学専攻・材料科学コース セラミック材料における格子欠陥の計算設計

奥田浩司 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

黒川 修 准教授

材料工学専攻・材料科学コース メソスコピック電子現象の研究

市坪 哲 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 金属ガラスのガラス転移・緩和挙動、ナノ粒子垂直磁化膜の作成、超音波物性測定

宇田哲也 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 新しいタイプの燃料電池の研究、レアメタルの製造プロセス

岸田恭輔 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 結晶性材料の格子欠陥設計による物性制御

田畑吉計 准教授

材料工学専攻・材料科学コース 中性子散乱実験による物性研究。金属間化合物の磁気的性質に対する基礎的研究

石原慶一 教授

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース エネルギー・環境材料、エネルギー・環境教育、エネルギー環境負荷評価

奥村英之 准教授

エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 環境材料、機能性材料、環境教育、エネルギー環境負荷評価

萩原理加 教授

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 無機合成化学、物理化学、電気化学

岸本泰明 教授

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 核融合プラズマ乱流輸送・高強度レーザーと物質相互作用に関する理論・シミュレーション、相対論プラズマ、高エネルギー密度科学

野平俊之 准教授

エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 電気化学的エネルギー変換および材料創製

塩路昌宏 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 熱機関における燃焼現象の解明とその制御

石山拓二 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 内燃機関の燃焼と排気

川那辺洋 准教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 乱流燃焼の光学計測および数値解析

松本英治 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

星出敏彦 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース セラミクス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション、セラミックス薄膜の創製とその機械的特性の評価

今谷勝次 准教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

琵琶志朗 准教授

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 非線形超音波計測によるエネルギー機器の機能・健全性評価

平藤哲司 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 電気化学を基礎とする機能素材プロセスニング

岩瀬正則 教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼生産をはじめとするエネルギー多量消費型材料生産のプロセスに関する熱化学とプロセス物性化学

藤原弘康 准教授

エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼精錬の熱力学およびエネルギー解析

電気電子工学科**古谷栄光 准教授**

システム・制御理論の医療への応用、患者の生理状態推定法、むだ時間制御系の理論

松尾哲司 准教授

電磁界解析、計算磁気学

雨宮尚之 教授

超伝導体の電磁現象、超伝導のエネルギー応用、超伝導の医療・ハイオ応用

中村武恒 准教授

高温超伝導パワー応用、新磁界応用、先進電気機器

小林哲生 教授

脳機能イメージング、複合医工学、マンマシンインターフェース、量子生体計測、生体信号処理

濱田昌司 准教授

生体の関与する電界・磁界・電磁界の解析、脳磁計測用逆計算手法

引原隆士 教授

パワーエレクトロニクス、電力システムの安定化制御手法の検討、磁気浮上システム、非線形力学応用工学

和田修己 教授

電気回路モデリング、デジタル EMC 実装工学、電磁波工学

久門尚史 准教授

非線形回路システム、分布定数回路システム、アルゴリズムのハードウェア化

萩原朋道 教授

デジタル/サンプル値制御理論、2自由度最適制御系の理論と応用、動的システム理論

蛸原義雄 講師

数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

大澤靖治 教授

電力システムの安定度解析ならびに安定化制御

山本 修 講師

高電圧絶縁、放電現象の研究

鈴木 実 教授

高温超伝導物質とジョセフソン効果の研究、巨大磁気抵抗材料、複合酸化物の電子応用

掛谷一弘 准教授

超伝導体等における量子論的伝導現象の解明とナノテクノロジーを併用した革新的デバイス開発

石川順三 教授

イオンビーム装置の開発とその応用、真空ナノ(マイクロ)エレクトロニクス

後藤康仁 准教授

電界放出現象の解析とその応用、PVD法による薄膜形成技術開発、イオンビーム分析

橋 邦英 教授

プラズマ中の原子分子過程と集団的性質の実験的研究、プラズマを応用した電子材料の薄膜形成と超微細加工

酒井 道 准教授

マイクロプラズマの生成法の研究、マイクロプラズマによる電磁波制御の研究

木本恒暢 教授

ワイドギャップ半導体の結晶成長、物性制御とデバイス応用

須田 淳 准教授

ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

松重和美 教授

分子ナノエレクトロニクス、有機電子材料の構造制御と電子物性、ナノテクノロジー、電気自動車

山田啓文 准教授

ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

川上養一 教授

原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

船戸 充 准教授

光材料の育成と物性探索

野田 進 教授

光半導体・光結晶、超高速光エレクトロニクス、情報通信・ネットワーク用光デバイス

浅野 卓 准教授

半導体光デバイスの研究

北野正雄 教授

量子エレクトロニクス、量子光学、電磁メタマテリアル

杉山和彦 准教授

量子エレクトロニクス、レーザー原子時計、光周波数シンセサイザ、量子計算機

青木学聡 講師

ナノスケール材料の創製、評価に関するシミュレーション技術

高岡義寛 教授

クラスターイオンビーム技術による高機能材料創製の研究

中村敏浩 講師

電子材料プロセスの分光診断と反応解析

黒橋禎夫 教授

自然言語処理、知識情報処理

松山隆司 教授

デジタル画像・映像の処理、認識、表示、生成、編集のためのソフトウェアおよびハードウェアの研究

川嶋宏彰 講師

パターン認識、ヒューマンコミュニケーション、ハイブリッドダイナミカルシステム

吉田 進 教授

高信頼度デジタル通信技術、無線情報ネットワーク

村田英一 准教授

デジタル無線通信技術、無線通信ネットワークの研究

守倉正博 教授

伝送信号処理技術を用いた無線LAN、無線アクセスシステム構成技術の研究

田野 哲 准教授

適応信号処理、伝送路符号化、ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

高橋達郎 教授

マルチメディアネットワークアーキテクチャ、プロトコル、システム構成技術

朝香卓也 准教授

情報ネットワークの制御・設計・管理技術

越智裕之 准教授

再構成アーキテクチャ、マルチメディア機器向けVLSI技術

小野寺秀俊 教授

VLSIの設計手法とCAD技術

小林和淑 准教授

大規模集積回路のアーキテクチャと設計技術

佐藤 亨 教授

地下探査、降雨観測、宇宙環境探査などにおけるレーダ信号処理法の研究

乗松誠司 准教授

光通信、特に光ファイバ通信に関する研究

石井 信 教授

生命システム、計算論的神経科学、システム神経生物学、強化学習

大羽成征 講師

多変量データの確率的モデリング、システム要素の統計学、ハイオインフォマティクス

松田哲也 教授

医用画像診断法および生体物理計測法の開発

天野 晃 准教授

生体シミュレーション、3次元画像処理、文書画像処理

下田 宏 准教授

エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

近藤克己 教授

高温プラズマ中の多価電離イオンの挙動および電磁エネルギーの放射について

中村祐司 准教授

核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

野澤 博 教授

熱、光、イオン、プラズマ等各種最先端エネルギーを応用した超LSIのデバイス構造についての基礎的研究

白井康之 教授

超伝導現象のエネルギー応用に関する研究

藤田静雄 教授

量子機能薄膜材料の育成と物性探索、有機エレクトロニクスの材料

白藤 立 准教授

プラズマケミストリーとその応用：薄膜堆積、表面改質、プラズマ重合、エッチング等及び「その場診断」とモデリング、シミュレーション

小山田耕二 教授

情報可視化に関する研究およびボリュームコミュニケーション分野への応用、パラメータ最適化に関する研究および電子機器製品設計や生体シミュレーションへの応用

中村裕一 教授

ネットワークを介したコミュニケーションシステム、画像・映像メディアの撮影・認識・編集

山川 宏 教授

宇宙環境探査工学、太陽エネルギーを用いた宇宙システム工学、宇宙機の軌道ダイナミクス

小嶋浩嗣 准教授

科学衛星による宇宙プラズマ中でのプラズマ運動の探査

橋本弘蔵 教授

マイクロ波電力伝送、宇宙プラズマ中の波動現象、科学衛星による波動観測、衛星インターネット

篠原真毅 准教授

マイクロ波エネルギー伝送、宇宙太陽発電所

山本 衛 教授

電離圏イキュラリティの研究、レーダーによる大気観測方式に関する研究

橋口浩之 准教授

各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

津田敏隆 教授

電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

中村卓司 准教授

レーダーと光学測器による地球大気の複合計測、レーダー・光学観測ネットワークによる大気の大規模構造の研究

大村善治 教授

宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

臼井英之 准教授

計算機シミュレーションによる宇宙プラズマ環境および宇宙飛行体環境の研究

水内 亨 教授

高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

佐野史道 教授

複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

花谷 清 准教授

トラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

岡田浩之 准教授

高温プラズマの生成および閉じ込み

長崎百伸 教授

高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究、ミリ波伝送システムの開発

増田 開 准教授

荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源、自由電子レーザー、ビーム集束核融合の研究

情報学科

佐藤雅彦 教授

構成的プログラミング、コンピュータソフトウェア

山本章博 教授

人工知能基礎論、帰納論理、機械学習、知識発見

西田豊明 教授

会話情報学、社会知のデザイン、人工知能

奥乃 博 教授

人工知能、音環境理解、音楽情景分析、ロボット聴覚

吉川正俊 教授

データベース、情報検索、Web、XML

田中克己 教授

Web 情報検索、マルチメディア情報システム、データベース

石田 亨 教授

人工知能、コミュニケーション、社会情報システム

船越満明 教授

非線形力学、流体力学、力学システムのカオス

西村直志 教授

計算力学、応用力学、計算工学

山本 裕 教授

システム・制御理論、ディジタルシステムと信号処理、システムモデリング

中村佳正 教授

可積分系、計算数学、アルゴリズム、組合せ論

永持 仁 教授

離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

福嶋雅夫 教授

計画工学、システム最適化の理論とアルゴリズム

太田快人 教授

システム制御理論、関数解析手法に基づく制御系設計解析、通信路を介した制御

宗像豊哲 教授

統計物理学、非線形動力学、計算機シミュレーション

岩井敏洋 教授

力学系の微分幾何学的研究

田中利幸 教授

確率モデルに基づく情報処理、情報通信理論、情報統計力学、機械学習

酒井英昭 教授

適応信号処理と通信、雑音制御への応用

高橋 豊 教授

システムのモデル化と性能解析、情報システム、待ち行列理論

岩間一雄 教授

アルゴリズムと計算複雑さの理論

富田眞治 教授

計算機アーキテクチャと並列処理

湯淺太一 教授

プログラミング言語と処理系

美濃導彦 教授

マルチメディア情報処理、3次元モデル中心処理、知的映像メディア処理、環境メディア、スマートクラスルーム、e-Learning

稲垣耕作 准教授

基礎情報学・情報物理学・情報文明学の研究

五十嵐淳 准教授

プログラミング言語の基礎理論

角 康之 准教授

知識処理システム、ヒューマンインタフェース、インタラクティブシステム

尾形哲也 准教授

ヒューマンロボットインタラクション、ロボット認知学習モデル

岩井原瑞穂 准教授

◎データベース ◎電子商取引システム

田島敏史 准教授

データベースシステム、情報検索

松原 繁夫 准教授

情報経済学、人工知能

田中泰明 准教授

確率力学系の理論とそのリスク解析への応用、効率化シミュレーション

藤岡久也 准教授

サンプル値制御、ロバスト制御、数値最適化に基づく制御系設計解析

山下信雄 准教授

数理計画、均衡問題に対する理論と応用

鷹羽淨嗣 准教授

ロバスト制御、最適制御およびフィルタリング

五十嵐颯人 准教授

統計物理学と確率過程理論を用いた、多数の要素が非線形に相互作用しあっている系の研究

谷村省吾 准教授

量子論、量子情報科学、力学系とゲージ理論

笠原正治 准教授

情報システム理論、ネットワークシステム、待ち行列理論とその応用

伊藤大雄 准教授

グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム、離散幾何学、組合せゲーム・パズル

八杉昌宏 准教授

プログラミング言語、並列処理

角所 考 准教授

コンピュータと人間のコミュニケーションのための知的メディア処理

宮崎修次 講師

複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

青柳富誌生 講師

脳の情報処理のモデルの構成と解析、非線形力学、統計物理学

辻本 諭 講師

離散可積分系の理論とその応用

趙 亮 講師

ネットワークの最適化および応用

荻野勝哉 講師

◎意思決定論 ◎ゲーム理論 ◎紛争と交渉問題

工業化学科

松原誠二郎 教授

材料化学専攻 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

平尾一之 教授

材料化学専攻 無機材料化学、非晶質ガラス科学、無機構造化学、セラミックス工学

三浦清貴 准教授

材料化学専攻 無機材料化学、無機材料光物性、レーザー材料プロセッシング、ナノ構造制御

田中勝久 教授

材料化学専攻 無機固体化学、無機材料科学、非線形光学、酸化物磁性体

藤田晃司 准教授

材料化学専攻 無機固体化学、無機材料化学、光機能性材料

大島幸一郎 教授

材料化学専攻 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

依光英樹 准教授

材料化学専攻 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学

檜山為次郎 教授

材料化学専攻 天然物有機化学、ヘテロ元素化学、有機合成、有機金属、触媒反応、有機材料

清水正毅 准教授

材料化学専攻 有機合成化学、有機金属化学、有機ケイ素化学、有機フッ素化学、有機材料化学

大塚浩二 教授

材料化学専攻 材料解析化学、分離分析化学、マイクロ/ナノ分析、μ_TAS

森下富士夫 准教授

材料化学専攻 材料解析化学、分離分析化学、環境計測化学

瀧川敏算 教授

材料化学専攻 高分子ダイナミクス、高分子ゲルの物理化学、不均質系のレオロジー

浦山健治 准教授

材料化学専攻 高分子ゲルの物理化学、高分子薄膜の電気力学物性、エラストマーの力学

木村俊作 教授

材料化学専攻 機能材料、高分子超分子化学、ペブド工学

小山宗孝 准教授

材料化学専攻 ナノ材料化学、電子移動化学、電気分析化学、分光電気化学

小久見善八 教授

物質エネルギー化学専攻 電気化学反応の解析とそのための材料の合成

西本清一 教授

物質エネルギー化学専攻 励起状態の物理化学、分子イメージング、ケミカルバイオロジー

垣内 隆 教授

物質エネルギー化学専攻 界面の物理化学、溶液系の界面物性、電気分析化学、機能性材料化学

井上正志 教授

物質エネルギー化学専攻 無機材料の新規合成法とその触媒機能

江口浩一 教授

物質エネルギー化学専攻 環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

大江浩一 教授

物質エネルギー化学専攻 有機活性種化学、遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

辻 康之 教授

物質エネルギー化学専攻 新規分子触媒の開発とその応用、触媒反応機構の解明

柴田誠一 教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

年光昭夫 教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

小澤文幸 教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

中村正治 教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 元素科学を基盤とした資源活用型有機合成反応の開発

近藤輝幸 教授

新規有機金属錯体の合成とその触媒機能の開発

山本雅博 准教授

物質エネルギー化学専攻 固体、固液、液液界面の物理化学

安部武志 准教授

物質エネルギー化学専攻 電極、電解質材料のインターカレーションケミストリー

田邊一仁 准教授

物質エネルギー化学専攻 ゲノム化学・分子イメージング・機能性ナノ材料

寺尾 潤 准教授

物質エネルギー化学専攻 新規π共役系分子の合成とその電子デバイスへの応用

沖 雄一 准教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明

岡崎雅明 准教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 新規遷移金属クラスターの合成と機能発現

村田靖次郎 准教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 機能性π共役系化合物の合成ならびにフラロレン化学

高谷 光 准教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 金属結合型人工ペプチドの開発と機能開拓

高宮幸一 准教授

物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性同位体を用いた分析手法の開発

和田健司 講師

物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

白川昌宏 教授

分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

榊 茂好 教授

分子工学専攻 化学反応の理論研究、複合電子系の量子化学研究

田中一義 教授

分子工学専攻 分子ナノ工学、量子機能材料の設計と電子物性解析

田中庸裕 教授

分子工学専攻 エアロピック酸化触媒系の開発、光触媒化学、触媒構造・機能・設計

今堀 博 教授

分子工学専攻 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発

川崎昌博 教授

分子工学専攻 化学反応ダイナミクス、大気環境化学反応

横尾俊信 教授

分子工学専攻・協力講座 機能性無機材料の創製、有機-無機ハイブリッド低温溶融ガラスの構造、機能設計

渡辺 宏 教授

分子工学専攻・協力講座 高分子ダイナミクス、不均質物質の変形、流動とダイナミクス

枅尾豪人 准教授

分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性・細胞内機能の研究

佐藤啓文 准教授

分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

伊藤彰浩 准教授

分子工学専攻 量子機能材料、分子磁性、物理有機化学

穴戸哲也 准教授

分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学、選択酸化触媒、固体触媒の構造・機能・設計

俣野善博 准教授

分子工学専攻 高原子価ビスマス化合物の化学とヘテロ原子を含む機能性材料の化学

川崎三津夫 准教授

分子工学専攻 感光材料の光物理学と表面化学

高橋雅英 准教授

分子工学専攻・協力講座 光機能性無機固体材料の基礎科学と応用開発

増淵雄一 准教授

分子工学専攻・協力講座 高分子計算科学、高分子ダイナミクス

梶 弘典 准教授

分子工学専攻・協力講座 非晶質材料の構造と発光特性、特に有機EL、新しい個体NMR法の開発。乱れた構造をもつ高分子材料の構造およびダイナミクス

佐藤 徹 准教授

分子工学専攻・協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

橋本 訓 講師

分子工学専攻 光化学反応、ラジカル反応、大気化学

澤本光男 教授

高分子化学専攻 高分子精密合成、カチオン重合、ラジカル重合

中條善樹 教授

高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓、インテリジェント高分子の創成、高分子ナノハイブリッド材料

吉崎武尚 教授

高分子化学専攻 高分子溶液学、高分子ダイナミクス、高分子統計力学

田中文彦 教授

高分子化学専攻 高分子基礎物理学、高分子理論物性学、高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

伊藤紳三郎 教授

高分子化学専攻 高分子光物理・光化学、機能性高分子、高分子構造、高分子超薄膜

赤木和夫 教授

高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質、不斉液晶場での階層構造盛業、キラル転写・反転による円偏光性発現

長谷川博一 准教授

高分子化学専攻 高分子形態学、ブロックポリマー・ポリマーブレンド・高分子液晶の構造と物性、エレクトロントモグラフィ

松岡秀樹 准教授

高分子化学専攻 高分子界面化学、両親媒性高分子の自己組織化、高分子微粒子

三田文雄 准教授

高分子化学専攻 高分子合成、アミノ酸ポリマー

中村 洋 准教授

高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

堂寺知成 准教授

高分子化学専攻 高分子計算物性学、自己組織化の分子シミュレーション

大北英生 准教授

高分子化学専攻 高分子系の光物理・光化学、高分子の光・電子物性、高分子超薄膜

竹中幹人 講師

高分子化学専攻 高分子アロイの物理学、ソフトマター、自己秩序化によるボトムアップ型ナノ材料の構築

森崎泰弘 講師

高分子化学専攻 高分子合成化学、構造有機化学、有機金属化学

金谷利治 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

山子 茂 教授

高分子化学専攻・協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

岩田博夫 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

田畑泰彦 教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、再生医学、ドラッグデリバリーシステム (DDS)、幹細胞工学

辻井敬亘 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計、高分子超薄膜、高分子ブランの合成と物性

辻 正樹 准教授

高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

西田幸次 准教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造、高分子の結晶化

加藤功一 准教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、バイオエンジニアリング

青木裕之 准教授

高分子物性、近接場光学、単一分子分光、生体イメージング

吉田潤一 教授

合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発、機能性物質および生物活性物質の合成

北川 進 教授

合成・生物化学専攻 錯体化学、多重機能化学、ナノポーラス錯体マテリアル

青山安宏 教授

合成・生物化学専攻 生体認識化学、生体機能工学、応用細胞工学、ゲム工学

村上正浩 教授

合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

森 泰生 教授

合成・生物化学専攻 細胞生理科学、遺伝子工学、分子神経生物学、タンパク質科学、生体分子機能測定

杉野目道紀 教授

合成・生物化学専攻 精密有機合成を目指した新反応開拓、新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

浜地 格 教授

合成・生物化学専攻 生命分子化学、生物有機・無機化学、細胞内有機化学、超分子バイオマテリアル

松田建児 教授

合成・生物化学専攻 物理有機化学、有機機能材料化学、有機ナノテクノロジー

跡見晴幸 准教授

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

世良貴史 准教授

合成・生物化学専攻 人工DNA結合タンパク質を用いた生命現象の人為的操作

菅 誠治 准教授

合成・生物化学専攻 新しい合成手法の開発と有機合成への応用

大場正昭 准教授

合成・生物化学専攻 金属錯体、錯体磁性体の誘電性・磁気光学特性、多孔磁性体

王子田彰夫 講師

合成・生物化学専攻 生体関連化学、分子認識化学、有機合成化学

宮原 稔 教授

化学工学専攻 界面制御工学、ナノ空間工学、ナノ秩序構造形成

三浦孝一 教授

化学工学専攻 反応工学、石炭転換工学、炭素材料

田門 肇 教授

化学工学専攻 分離工学、吸着工学、乾燥工学

大嶋正裕 教授

化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子成形加工、プロセス制御

長谷部伸治 教授

化学工学専攻 化学プロセスの最適合成・設計・操作、生産管理

前 一廣 教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロアクター開発、バイオマス転換工学

丸山敏朗 教授

化学工学専攻・協力講座 輸送現象、機能性材料工学、光エネルギー変換

山本量一 准教授

化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究、計算機シミュレーションを用いた物性研究

河瀬元明 准教授

化学工学専攻 反応工学、材料反応工学、反応装置

佐野紀彰 准教授

化学工学専攻 分離工学、ナノ材料の合成およびその応用開発、プラズマ応用、環境浄化技術

松坂修二 准教授

化学工学専攻 粉体とエアロゾルの特性評価とその応用

加納 学 准教授

化学工学専攻 統計的プロセス・品質管理、プロセス制御、生体情報解析

牧 奉輔 准教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロアクター開発

中川浩行 准教授

化学工学専攻 協力講座 環境安全学、難処理有害物の効率的処理方法の開発

長嶺信輔 講師

化学工学専攻 液相内秩序構造、界面を鑄型にしたナノ材料、微粒子合成

八尾 健 教授

エネルギー基礎科学専攻 結晶化学、材料電気化学、リチウム電池・燃料電池の材料開発、生命適合材料、医用セラミックスの開発、無機材料化学

日比野光宏 准教授

エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学、固体電気化学、種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

尾形幸生 教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体の電気化学と表面改質および太陽光などの光エネルギー有効利用への応用

作花哲夫 准教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 物質界面層における光化学反応および分光学的研究

農学部

資源生物科学科

荒木 崇 教授

高等植物の環境応答の分子機構の研究。特に、1) 成長相転換(花成)の制御機構の解明、2) 長距離作用性シグナルによる生体調節の研究、3) 頂端分裂組織の維持機構の解明

今井 裕 教授

生殖細胞および体細胞の分化・脱分化機構の解明と個体生産への応用

稲村達也 教授

持続的農業システムのための耕地生態管理に関する研究

祝前博明 教授

DNA マーカー・量的形質遺伝子の情報を取り込んだ能力評価法の開発と資源動物の育種改良への応用

内海 成 教授

ヒトの健康維持・増進に役立ち、加工食品の製造にも適したタンパク質を含有する作物の開発

遠藤 隆 教授

コムギにおける異種染色体断片導入系統の育成と分子細胞遺伝学的研究

奥野哲郎 教授

植物ウイルスの増殖機構の研究

北島 宣 教授
有用植物の生産・管理に関する生理・生態学的研究

久米新一 教授
動物の環境生理に関する研究

佐久間正幸 教授
昆虫の感覚と空間定位行動の生理学的研究

左子芳彦 教授
海洋熱水環境に生息する超好熱菌の探索と遺伝子資源の研究開発

白岩立彦 教授
作物の収量形成の生理・生態的機構と増収技術

谷坂隆俊 教授
有用遺伝子資源の開発と同定に関する育種学的研究

富永 達 教授
雑草の生活史特性に関する生態・遺伝学的研究

中坊徹次 教授
魚の進化系統分類学。形態と分子により魚の系統関係を研究。ときに新種の記載を行う。

縄田栄治 教授
熱帯作物の生態生理。熱帯における農業システム動態

平田 孝 教授
海洋生物資源の有効利用。機能性物質の探索、機能発現機構の解明に関する研究。

廣岡博之 教授
牛肉生産に関するシステム分析と熱帯地域への応用

藤崎憲治 教授
昆虫類の生態学

藤原建紀 教授
沿岸の海洋環境ならびに物質・生物輸送に関する研究

二井一禎 教授
森林における微生物と樹木、昆虫の相互関係に関する研究

松井 徹 教授
消化管内ミネラルの化学形態とその利用性

松村康生 教授
食品およびその加工素材の品質評価制御

守屋和幸 教授
GPS 首輪を用いた林内放牧牛の移動履歴の収集と解析

矢澤 進 教授
蔬菜・花卉の生理・生態と発育制御

米森敬三 教授
果実生長の制御要因解析と果樹の系統分類

荒井修亮 准教授
バイオテレメトリーによる水圏生物資源情報の収集と解析

今井一郎 准教授
沿岸域生態系保全、有害有毒プランクトンの生理生態と防除技術の開発

大崎直太 准教授
植食性昆虫の個体群生態学

奥本 裕 准教授
イネの出穂期に関する遺伝子分析

刑部正博 准教授
ハダニ類の個体群構造と種間相互作用について

笠井亮秀 准教授
海洋環境と生態系に関する研究

河原太八 准教授
栽培植物の進化と植物遺伝資源の多様性解析に関する研究

北川政幸 准教授
環境調和型肉用牛飼養に関する研究

熊谷 元 准教授
・熱帯地域における家畜・飼料生産技術開発
・未利用資源の飼料化に関する研究

菅原達也 准教授
海洋生物の機能性脂質に関する研究

田尾龍太郎 准教授
果樹類の形質転換及び受粉開花生理

田川正朋 准教授
魚卵の卵から稚魚までに起こる変態や回遊等の機構を主にホルモンから研究している。

竹田晋也 准教授
森林資源学／東南アジアモンスーン林の利用と保全

田中千尋 准教授
糸状菌類の生理・生態遺伝学的研究

田中朋之 准教授
イネ種子発熟過程の解析と生産性・品質の改善

豊原治彦 准教授
海洋生物機能の活用に関する研究

林 孝洋 准教授
画像解析による植物生態情報の解析

林 由佳子 准教授
口腔内での味の受容メカニズムの解明とその応用

樋口浩和 准教授
熱帯地域のさまざまな生態環境条件下における作物と環境の農業生態学的研究

舟川晋也 准教授
熱帯および半乾燥地土壌の形態と養分維持機構に関する研究

舟場正幸 准教授
間葉系細胞の増殖と分化過程を制御する分子機構

丸山伸之 准教授
種子貯蔵タンパク質の細胞内輸送機構の解明と分子農業への応用

三瀬和之 准教授
植物ウイルスの感染・増殖機構の研究

南 直治郎 准教授
哺乳動物の初期発生と遺伝子発現に関する研究

宮下直彦 准教授
イネ属植物及びシロイヌナズナとハタザオ属植物の分子集団遺伝子学研究

山田宣永 准教授
量的形質原因遺伝子の同定に関する研究

山田雅保 准教授
哺乳動物胚の発生と分化

吉田土士 准教授
ラン藻に感染するウイルスの分子性状解析を通じた、新たな水環境保全のため基盤構築

高野義孝 講師
植物と病原糸状菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの研究

中崎鉄也 講師
イネの活性型トランスボゾン mPing の転移誘発機構の解明

三浦昶一 講師
アフリカ半乾燥地の雑穀農業における雑草の生態と進化

応用生命科学科

植田和光 教授
健康な体をまもる ABC 蛋白質：脂質トランスポーターの分子メカニズムの解明

植田充美 教授
ゲノム情報の解析による細胞分子生物学とその応用

喜多恵子 教授
微生物の有用酵素に関する構造・機能相関の解析と分子進化

加納健司 教授
酵素触媒電子移動反応の基礎と応用

河内孝之 教授
植物光環境応答の分子遺伝学的研究

阪井康能 教授
微生物の細胞機能を利用した制御発酵学

佐藤文彦 教授
植物細胞の機能分化の分子細胞生物学と分子育種

清水 昌 教授
微生物の新機能探索・開発と物質生産への応用

西田律夫 教授
昆虫生活活性物質の化学生態学的研究

間藤 徹 教授
高等植物における無機元素の生理作用に関する研究

三上文三 教授
食品タンパク質・食品関連酵素の X 線結晶構造解析及び新機能設計

宮川 恒 教授
植物および菌類の二次代謝に関する化学

三芳秀人 教授
呼吸鎖電子伝達酵素系に作用する生理活性物質のデザイン合成と作用機構研究

相原茂夫 准教授
微小重力環境下でのタンパク質の結晶化と酵素反応の構造と機能に関する研究

井上善晴 准教授
生物の環境ストレス応答機構に関する分子細胞生物学的研究

片岡道彦 准教授
微生物による有用物質生産に関する研究

木岡紀幸 准教授
動物細胞の運動、形態の制御に関する研究

小林 優 准教授
細胞壁ペクチンの機能と生合成機構

白井 理 准教授
生体膜及び模擬膜を介したイオン輸送の物理化学

中川好秋 准教授
昆虫成育制御剤の構造活性相関と作用機構研究

福澤秀哉 准教授
光合成生物の環境順化（二酸化炭素の検知と輸送濃縮）・生殖に関する分子細胞生物学

森 直樹 准教授
植物と咀嚼性昆虫における防御と適応の有機化学

由里本博也 准教授
微生物の代謝および遺伝子発現制御機構に関する研究

遠藤 剛 講師
光合成電子伝達系を中心とした葉緑体機能の環境応答機構の解明

地域環境工学科

梅田幹雄 教授
フィールド及び昆虫ロボットと精密農業

川島茂人 教授
大気と生物圏の相互作用に関する研究

河地利彦 教授
水資源の開発・管理・保全と水環境のモデル化に関する理論と応用

小林慎太郎 教授
土地利用計画・地域分析および国内外の持続的・自立的な地域発展研究

近藤 直 教授
農畜水産物や食品の生産、選別、加工、貯蔵施設内における計測・制御等の工学的研究

星野 敏 教授
ナレッジマネジメントを応用した農村計画手法の開発

飯田訓久 准教授
農業におけるロボティクスおよびメカトロニクス

宇波耕一 准教授
水資源の管理・運用における最適化問題と利水系における水理現象の数値モデリング

小林 晃 准教授
農業水利施設の安全性と周辺環境に与える影響

清水 浩 准教授
農畜水産物や食品の生産施設における様々な計測技術および環境調節に関する研究

中嶋 洋 准教授
土－機械系および土－車両系のテラメカニクス

中村公人 講師
流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御・管理

前田滋哉 講師
河川・湖沼における水環境の最適管理手法

食料・環境経済学科

小田滋晃 教授
農業経営・情報会計論

加賀爪 優 教授
農業貿易と環境保全および地域経済発展に関する計量経済分析

末原達郎 教授
地球規模における農業・食料・地域社会の持続に関する比較農学的研究

武部 隆 教授
資源利用評価と環境ガバナンス

新山陽子 教授
フードシステム分析、食品安全とリスク認知、消費者行動の研究

野田公夫 教授
近現代日本農業史および比較農業発展史・比較土地制度史

秋津元輝 准教授
現代農村の地域社会と環境に関する社会学的研究

浅見淳之 准教授
途上国の農村制度と農業発展

仙田徹志 准教授
食料・農業における統計情報の体系的保存と高度利用に関する研究

足立芳宏 准教授
近代ドイツ農業・農村社会史

川村 誠 准教授

森林・林業政策学

辻村英之 准教授

アフリカの農家経済経営・農村協同組合・フードシステムの分析

香川文庸 講師

農業経営・アグリビジネスにおける損益・資産・資本構造の測定

沈 金虎 講師

中国の農業・農村経済と食料・環境問題に関する研究

森林科学科**東 順一 教授**

バイオマスの化学と生化学、リグノセルロースの生成と生分解

井鷲裕司 教授

森林動態と生物保全に関する研究

岩井吉彌 教授

世界の林業ならびに森林資源のあり方についての研究

大澤 晃 教授

森林の構造発達と炭素動態学

太田誠一 教授

熱帯林の土壌生態と養分ならびに温室効果ガスの動態に関する研究

奥村正悟 教授

木材の機械加工と生産加工システム

木村恒久 教授

磁場を用いた生物繊維材料の高機能化

坂 志朗 教授

植物バイオマスのバイオ燃料化・有用ケミカルス化及び環境調和型エコ材料の創製

酒井徹朗 教授

リモートセンシングやGISを用いた生物圏の環境情報モニタリングと評価

谷 誠 教授

洪水・濁水緩和、地球温暖化抑制など、森林の環境保全機能に関する研究

中坪文明 教授

木材をはじめとする生物材料の基礎化学と高機能化

中野隆人 教授

木材の物理的特性と微細構造との関係に関する研究

西尾嘉之 教授

木材・セルロース・キチン等バイオマスの高機能複合材料化

水山高久 教授

土砂の生産、流出とその森林等による制御

森本幸裕 教授

緑地環境の保全と創造に関する研究

岡田直紀 准教授

温帯および熱帯樹木の成長と材形成に関する生理・生態学的研究

河本晴雄 准教授

バイオマス変換およびエネルギー利用の生態系に及ぼす影響

神崎 護 准教授

熱帯林の群集生態学と植生管理

高野俊幸 准教授

木材成分の化学的利用に関する研究

高部圭司 准教授

木質化細胞壁の形成メカニズム

藤井義久 准教授

木材の高度利用と加工

松下幸司 准教授

森林計画に関する研究

山内龍男 准教授

紙およびパルプの科学に関する研究

大澤直哉 講師

森林生態系における昆虫群集の研究

坂本正弘 講師

木質系バイオマスの形成に関わる生化学・分子生物学的研究

高柳 敦 講師

クマハギ発生地域におけるツキノワグマの保護管理に関する研究。カモシカ・シカによる造林木食害に関する研究。狩猟制度に関する研究。

仲村匡司 講師

木質系材料の感性的特性、木質環境の居住性

吉岡まり子 講師

バイオマスを用いた高性能・高機能材料の開発に関する研究

食品生物科学科**安達修二 教授**

食品製造工学、食品反応工学、クロマトグラフ分離工学などの食品を造るための基礎科学

井上國世 教授

酵素の機能発現の解明と新規機能の創成および有用生理活性物質生産と健康科学への応用

入江一浩 教授

生活習慣病に係わるタンパク質の機能ドメインの化学合成、構造機能解析、及び薬剤開発

河田照雄 教授

肥満の発症メカニズムの解明とその応用研究、生活習慣病を防ぐ食品の開発

北島直文 教授

食品素材の加工特性に関する研究、甘味・渋味・苦味物質の構造と甘味・渋味・苦味発現機構、伝統食に関する食品栄養学的研究

永尾雅哉 教授

(1) 亜鉛の生理学、生化学 (2) 天然物からの有用な生理活性物質の探索

伏木 亨 教授

食品の持つ情報と、動物消化管・口腔における情報受容機構、運動能力を増強する食品の開発、おいしさの科学

村田幸作 教授

細胞（微生物）、遺伝子、タンパク質などの構造、機能、及び進化

山本憲二 教授

(1) 微生物の糖質分解酵素を用いた有用物質の生産 (2) 乳酸菌のオリゴ糖代謝機構の解析

井上和生 准教授

中枢性疲労発生機構に関する研究、運動時エネルギー代謝の中枢性調節機構に関する研究

裏出令子 准教授

(1) 小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究 (2) 動物細胞における脂質代謝の調節機構に関する研究

大日向耕作 准教授

脳神経系や循環器系に作用する新しい生理活性ペプチドの探索と作用機構の解明

神戸大朋 准教授

亜鉛トランスポーターの機能解析を通じた亜鉛恒常性維持機構の解明

木村幸敬 准教授

亜臨界水を用いた環境に優しい食品加工、脂溶性食品成分の腸吸収細胞透過に関する研究

谷 史人 准教授

(1) 自然免疫および粘膜免疫系のストレス応答に関する研究 (2) 分子進化から眺めたタンパク質の構造と機能

橋本 渉 准教授

微生物における高分子物質の輸送と代謝に関わる分子の構造と機能

増田誠司 准教授

mRNA 成熟に関わる複合体群の機能解析

保川 清 准教授

タンパク質分解酵素と DNA 合成酵素の酵素化学的性質の解明および改変

入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法

入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月中旬から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332 mm × 240 mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに、「選抜要項請求」と朱書して申し込んでください。

学生募集要項の請求方法

本学の学生募集要項等の請求方法には、以下の4つの方法があります。（京都大学からは郵送しませんのでご注意ください。）

①大学のホームページから直接請求する方法

詳しくは、京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp/>）にアクセスしてください。

総合人間学部案内、工学部案内につきましては、各学部のホームページにて、電子媒体での公開を行っています。

②テレメール（インターネット・自動応答電話）で請求する方法

学生募集要項は9月から請求可能、12月上旬から送付。



テレメール

インターネットの場合		電話の場合	
携帯電話・パソコンとも共通アドレス	http://telemail.jp	IP電話 [一般電話回線からの通話料金は 日本全国3分毎に約11円です。]	050-2015-0555
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。		一般電話	06-6222-0102

資料名	資料請求番号	送料
学生募集要項	584622	210円
学生募集要項+大学案内	544612	290円
大学案内	564602	290円
総合人間学部案内	564622	140円
工学部案内	544622	180円
農学部案内	564732	180円

送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。
なお、払込手数料として100円が必要となります。

③郵便局から請求する方法（10月から請求可能：12月上旬から送付）

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に送料と払込手数料100円を添えて申し込んでください。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先：

テレメールカスタマーセンター 050-2015-5050（9:30～18:00）

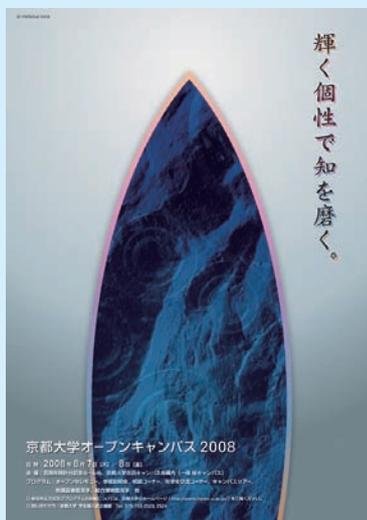
④大学の窓口へ直接請求する方法（12月上旬から請求可能）

学生部入試企画課で配付します。

配付時間 9:00～17:00（月～金曜日〔祝（休）日を除く〕）

また、上記配付時間以外の場合（土・日・祝（休）を含む24時間）、正門横インフォメーションセンターにて配布しています。

京都大学オープンキャンパス



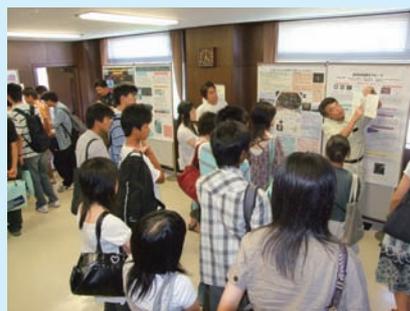
本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知ってもらうための広報活動として、平成 14 (2002) 年度から年に一度、夏休みを利用して 2 日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成 19 (2007) 年度には約 8,500 名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

[問い合わせ先]

学生部入試企画課 Tel.075-753-2524)



多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学では、一般選抜のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部保健学科、工学部（高等専門学校卒業（見込）者対象）で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、

理学部、工学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

参考：平成20年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	10名以内	32	20	15	8	8
経済学部	10名以内	21	15	12	8	8

参考：平成20年度3年次編入学試験の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	23	21	7	7
法 学 部	10名	133	52	8	8
経済学部	20名以内	67	51	8	8
医学部保健学科	17名	34	33	2	2
工 学 部	20名程度	79	72	25	24

入学者選抜要項・学生募集要項の請求先／学部・学科に関する問い合わせ先

学 部	担 当 掛	電 話 番 号	所 在 地	URL
総合人間学部	教 務 掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp/
文 学 部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html
教 育 学 部	教 務 掛	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/
法 学 部	教 務 掛	075-753-3107		http://kyodai.jp/
経 済 学 部	教 務 掛	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/
理 学 部	第二教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/
医 学 部	医 学 科	教務・学生支援室 (学部教務担当)	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
	人間健康科学科	教務・学生支援室 (教務人間健康科学科担当)	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
薬 学 部	教 務 掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/
工 学 部	教 務 掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.t.kyoto-u.ac.jp/
農 学 部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/

入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担 当 部 課	電 話 番 号	所 在 地	URL
学生部入試企画課	075-753-2521～2524	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kyoto-u.ac.jp/

[資料] 入学者選抜実施状況について

平成20年度 入学者選抜実施状況 (単位：人)

学 部	日 程	募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	65	226	226	221	67	1		122
	前期理系	55	206	206	199	56			
文 学 部	前 期	220	651	651	645	224			224
教 育 学 部	前期文系	50	176	176	174	51			61
	前期理系	10	31	31	31	10			
法 学 部	前 期	320	791	791	778	328	1		327
経 済 学 部	前期一般	180	585	585	575	191			241
	前期論文	50	218	175	172	50			
理 学 部	前 期	311	865	845	833	313	1		312
医 学 部	前 期	223	624	603	590	237	4		258
	後 期	20	166	166	83	25			
薬 学 部	前 期	80	231	231	227	82			82
工 学 部	前 期	955	2,401	2,401	2,364	973	2		971
農 学 部	前 期	300	796	796	783	316	2		314
小 計	前 期	2,819	7,801	7,717	7,592	2,898			
	後 期	20	166	166	83	25			
合 計		2,839	7,967	7,883	7,675	2,923	11		2,912

医学部学科・専攻別／薬学部学科別内訳 (単位：人)

学部 (学科・専攻)	日 程	募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医 学 部	前 期	223	624	603	590	237	4		258
	後 期	20	166	166	83	25			
医 学 科	前 期	100	321	300	294	105			105
保 健 学 科	前 期	123	303	303	296	132	4		153
	後 期	20	166	166	83	25			
看 護 学 専 攻	前 期	63	149	149	146	69	2		74
	後 期	7	60	60	26	7			
検 査 技 術 科 学 専 攻	前 期	30	85	85	83	31			39
	後 期	7	51	51	24	8			
理 学 療 法 学 専 攻	前 期	15	42	42	41	17	1		19
	後 期	3	29	29	16	3			
作 業 療 法 学 専 攻	前 期	15	27	27	26	15	1		21
	後 期	3	26	26	17	7			
薬 学 部	前 期	80	231	231	227	82			82
薬 科 学 科	前 期	50	143	143	139	51			51
薬 学 科	前 期	30	88	88	88	31			31

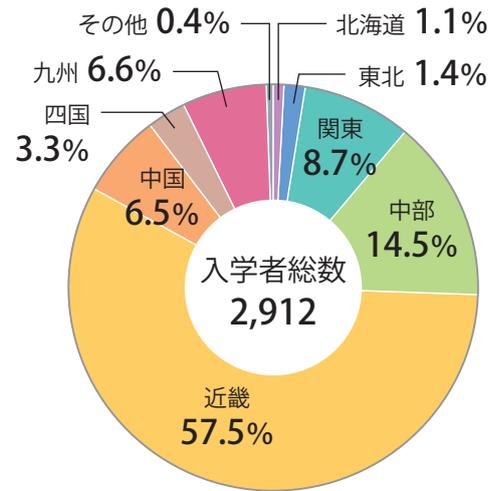
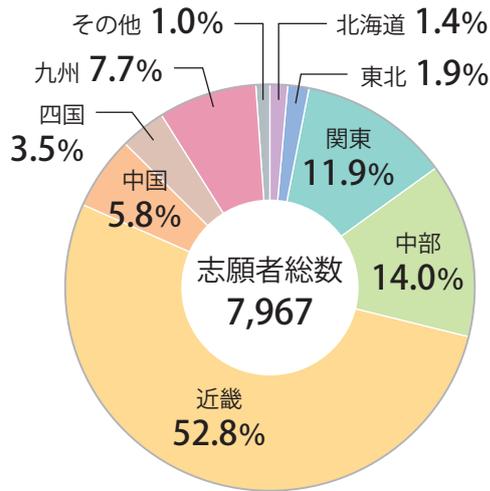
工学部・農学部学科別内訳 (単位：人)

学 部 (学 科)	日 程	募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
工 学 部	前 期	955	2,401	2,401	2,364	973	2		971
地 球 工 学 科	前 期	185	491	491	487	189			189
建 築 学 科	前 期	80	224	224	221	82			82
物 理 工 学 科	前 期	235	498	498	486	238			238
電 気 電 子 工 学 科	前 期	130	299	299	292	132			132
情 報 学 科	前 期	90	216	216	210	92			92
工 業 化 学 科	前 期	235	673	673	668	240	2		238
農 学 部	前 期	300	796	796	783	316	2		314
資 源 生 物 科 学 科	前 期	94				97	1		96
応 用 生 命 科 学 科	前 期	47				49			49
地 域 環 境 工 学 科	前 期	37				40			40
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	前 期	32				34	1		33
森 林 科 学 科	前 期	57				60			60
食 品 生 物 科 学 科	前 期	33				36			36

[資料] 平成 20 年度 出身高校等所在地別 志願者・入学者数 (単位:人)

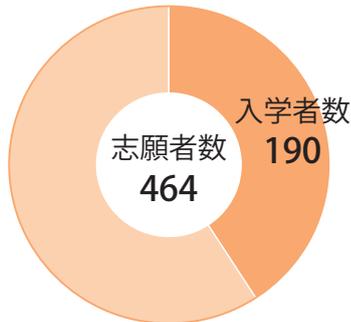
全体

	志願者	入学者
北海道	112	32
東北地区	149	42
関東地区	946	252
中部地区	1,116	422
近畿地区	4,205	1,675
中国地区	464	190
四国地区	281	95
九州地区	613	193
その他	81	11
計	7,967	2,912



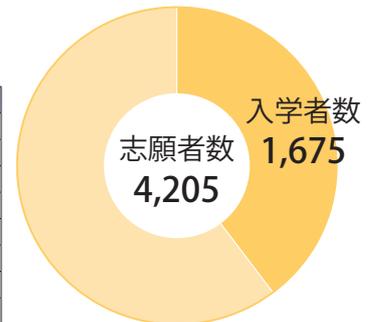
中国地区

	志願者	入学者
鳥取県	35	14
島根県	29	14
岡山県	114	49
広島県	228	87
山口県	58	26
計	464	190



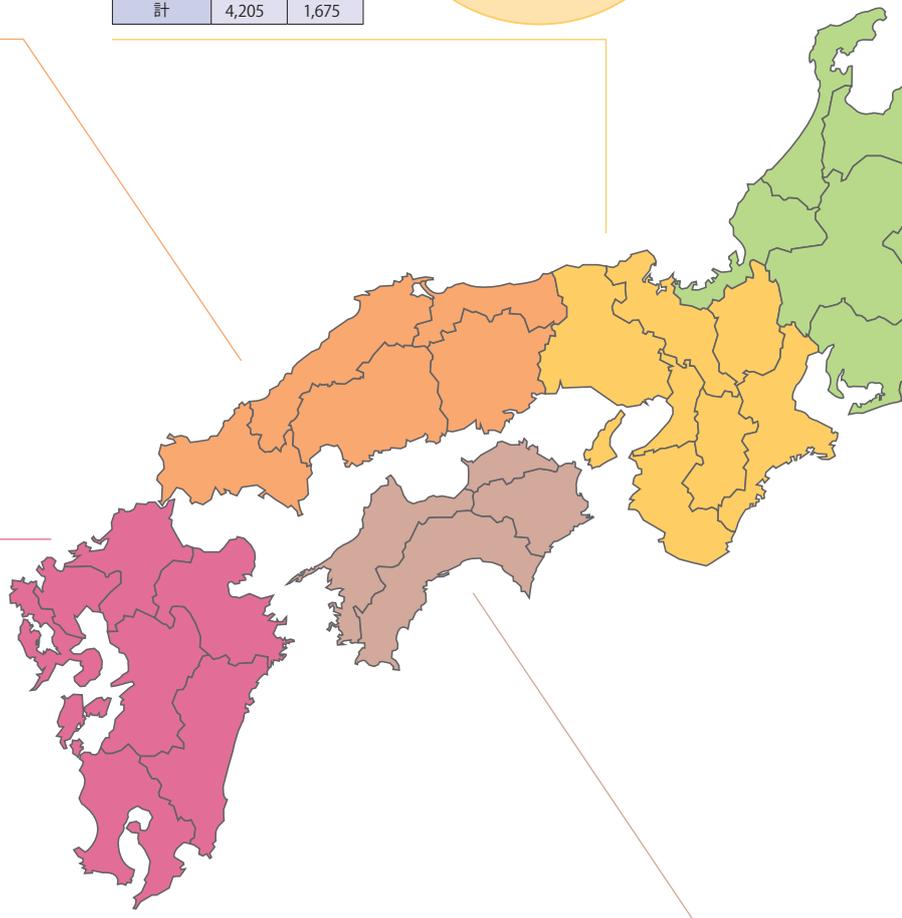
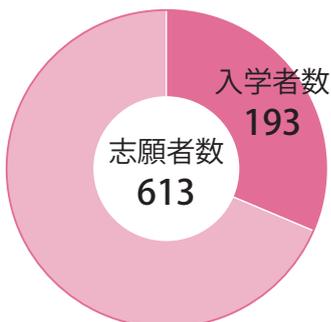
近畿地区

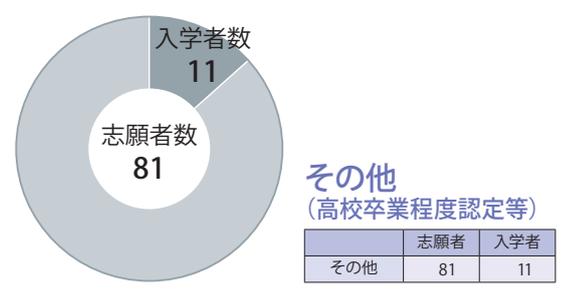
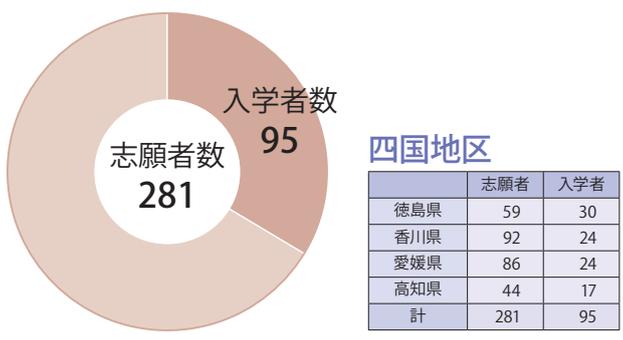
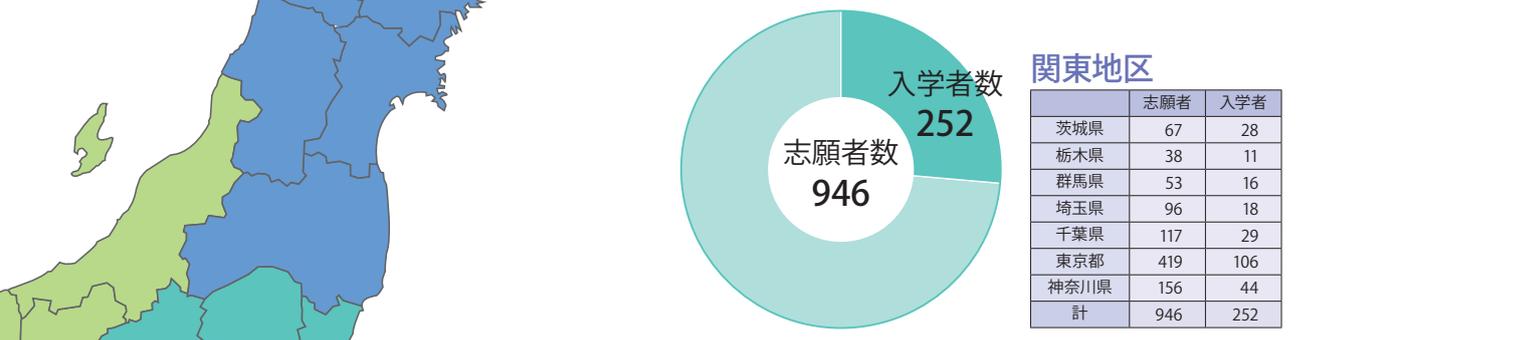
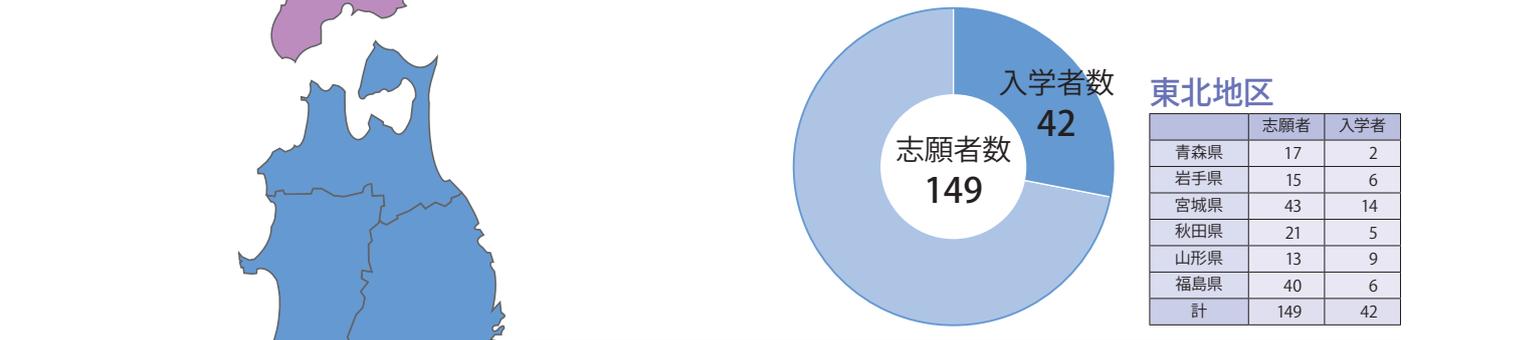
	志願者	入学者
三重県	137	56
滋賀県	207	78
京都府	853	301
大阪府	1,441	546
兵庫県	842	357
奈良県	591	279
和歌山県	134	58
計	4,205	1,675



九州地区

	志願者	入学者
福岡県	300	109
佐賀県	28	7
長崎県	49	16
熊本県	56	18
大分県	32	8
宮崎県	37	11
鹿児島県	91	19
沖縄県	20	5
計	613	193





[資料] 平成 20 年度合格者 最高点・最低点 (総点)

学部	日程		満点	総点			
				最高点	最低点	平均点	
総合人間学部	前期	(文系)	750	548.00	401.66	450.58	
		(理系)	800	563.75	366.75	416.51	
文学部	前期		700	543.26	452.00	480.51	
教育学部	前期	(文系)	900	655.63	551.16	588.60	
		(理系)	900	616.73	540.28	571.18	
法学部	前期		750	632.35	481.10	523.17	
経済学部	前期	(一般)	800	660.70	510.50	545.99	
		(論文)	1000	813.70	539.13	593.32	
理学部	前期	注 1	650	513.00	294.00	343.01	
		(数理 30 位) 注 2	(400)	(362.00)	(257.00)	—	
学部合計	前期		—	—	—	—	
	後期		—	—	—	—	
医学部	医学科		前期	1300	1063.91	864.16	926.05
	保健学科	前期	看護学専攻	1200	784.70	610.06	664.32
			検査技術科学専攻	1200	827.03	695.60	744.73
			理学療法学専攻	1200	901.73	757.26	794.76
			作業療法学専攻	1400	1058.93	724.10	827.03
	保健学科	後期	看護学専攻	1000	895.00	839.70	862.79
			検査技術科学専攻	1000	844.30	822.10	830.68
			理学療法学専攻	1000	891.20	866.30	882.27
			作業療法学専攻	1200	951.40	885.00	923.37
	薬学部	学部合計		前期	950	671.36	530.26
薬科学科		前期	950	661.00	539.15	589.25	
薬学科		前期	950	671.36	530.26	590.44	
工学部	学部合計		前期	—	—	—	—
	地球工学科		前期	1000	716.41	535.78	592.94
	建築学科		前期	1050	771.93	584.78	646.25
	物理工学科	前期	(配点 A)	1000	702.66	586.00	628.86
			(配点 B)	1000	684.03	522.91	576.88
	電気電子工学科	前期	(配点 A)	1000	926.68	626.92	705.59
			(配点 B)	1000	693.55	521.68	573.13
	情報学科		前期	1000	768.61	521.38	593.10
工業化学科		前期	1000	774.00	532.70	585.70	
農学部	前期		1050	773.03	586.40	640.49	

注 1：最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点です。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点です。平均点は合格者の総点の平均点です。

注 2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる 30 位までの者の「数学」と「理科」の得点合計。

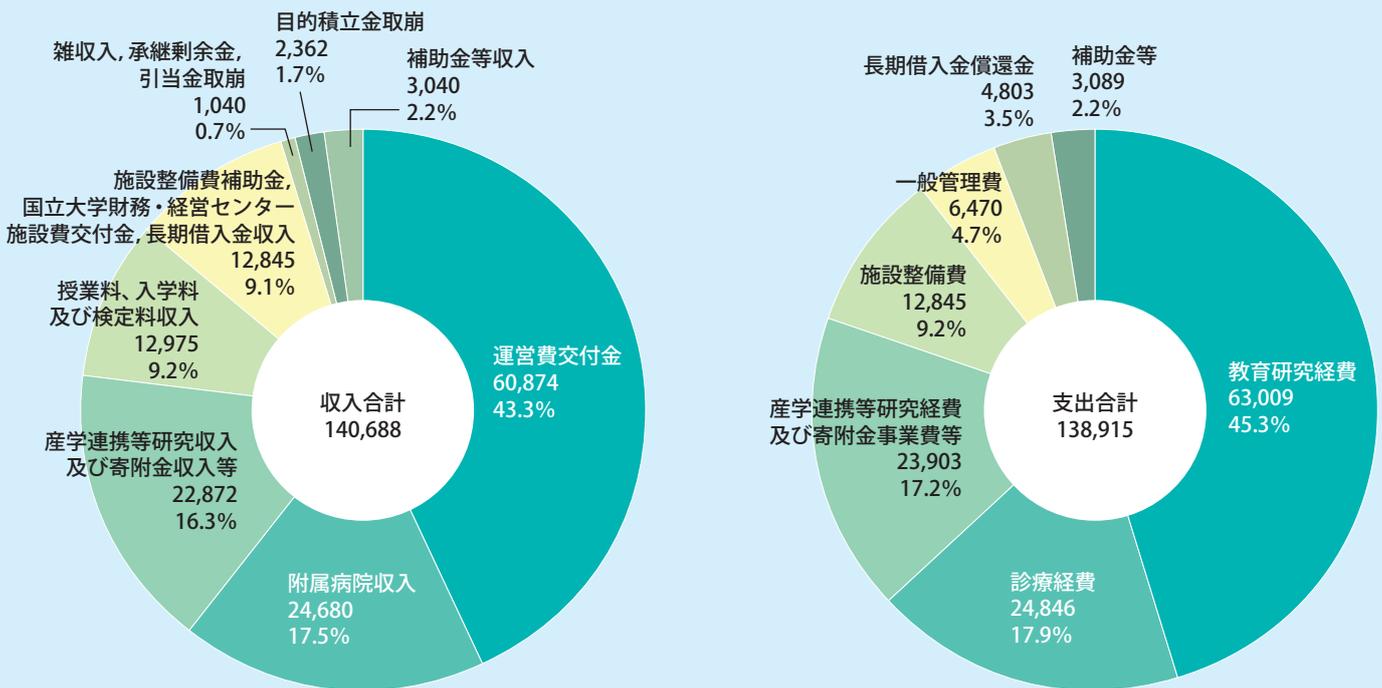
(備考) 1. 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

2. 総点については、前期・後期共合格発表時のものです。

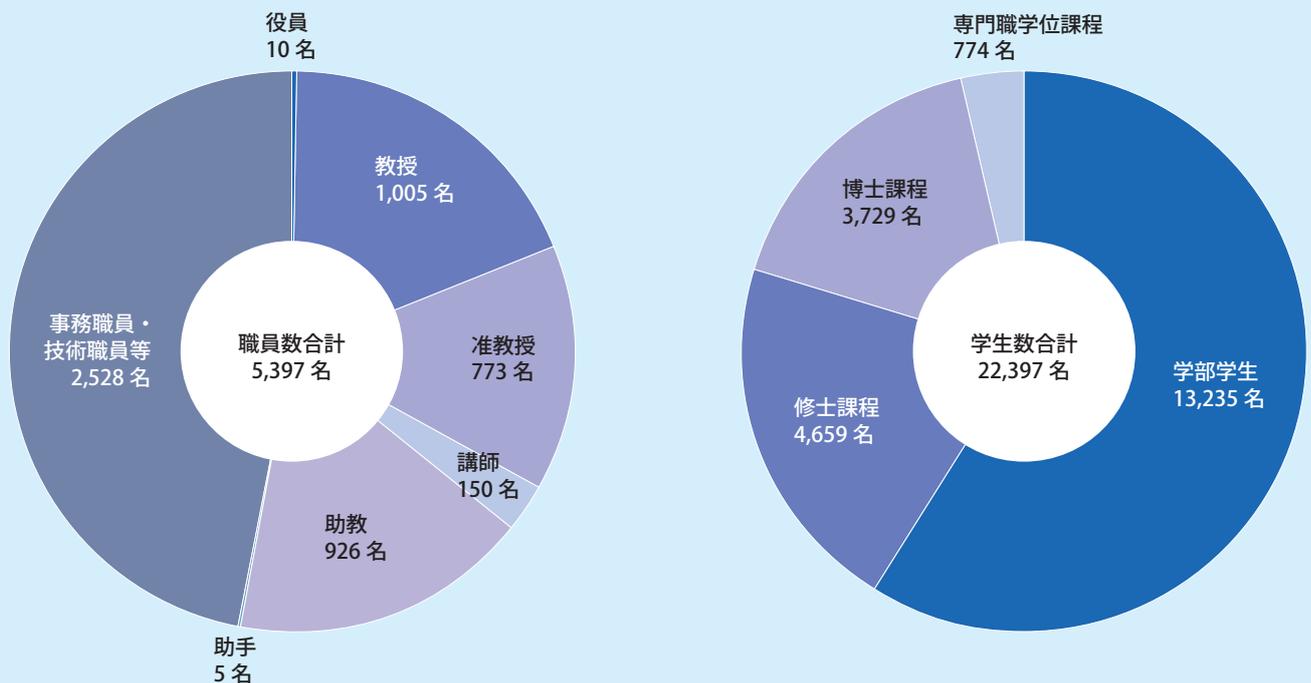
[京都大学小史]

- 明治** 明治30年(1897)に京都帝国大学として設置される。理工学(1897)、法科大学、医科大学(1899)、文科大学(1906)が設置される。
- 大正** 大正8年(1919)に、分科大学を学部と改称する。経済学部(1919)、農学部(1923)が設置される。
- 昭和** 昭和22年(1947)京都帝国大学を京都大学と改称する。昭和24年(1949)、新制大学として発足する。教育学部(1949)、教養部(1954)、薬学部(1960)、総合人間学部(1992)が設置される。独立研究科。大学院重点化。
- 平成** 平成16年(2004)国立大学法人京都大学によって京都大学が設置される。

[京都大学の財務状況] 平成19年度 (単位:百万円)



[京都大学の職員数・学生数] 平成20年5月1日現在



吉田キャンパス

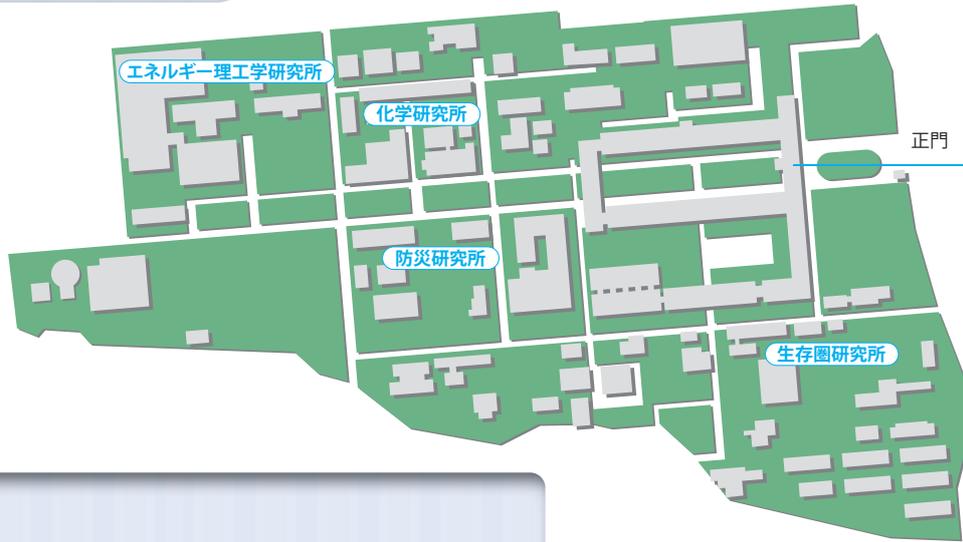


吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約35分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約25分	
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約25分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203系統	「今出川通 銀閣寺道・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201系統	「百万遍・千本今出川」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206系統	「高野 北大路バスターミナル」行	約20分	
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約20分	
出町柳駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約20分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約15分, 総人・理・農は徒歩約20分
	市バス	出町柳駅前	201系統	「祇園・みぶ」行	約10分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17系統	「銀閣寺・錦林車庫」行	約10分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約10分	医・薬は、当駅から徒歩約10分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

宇治キャンパス



エネルギー理工学研究所

化学研究所

防災研究所

生存圏研究所

正門

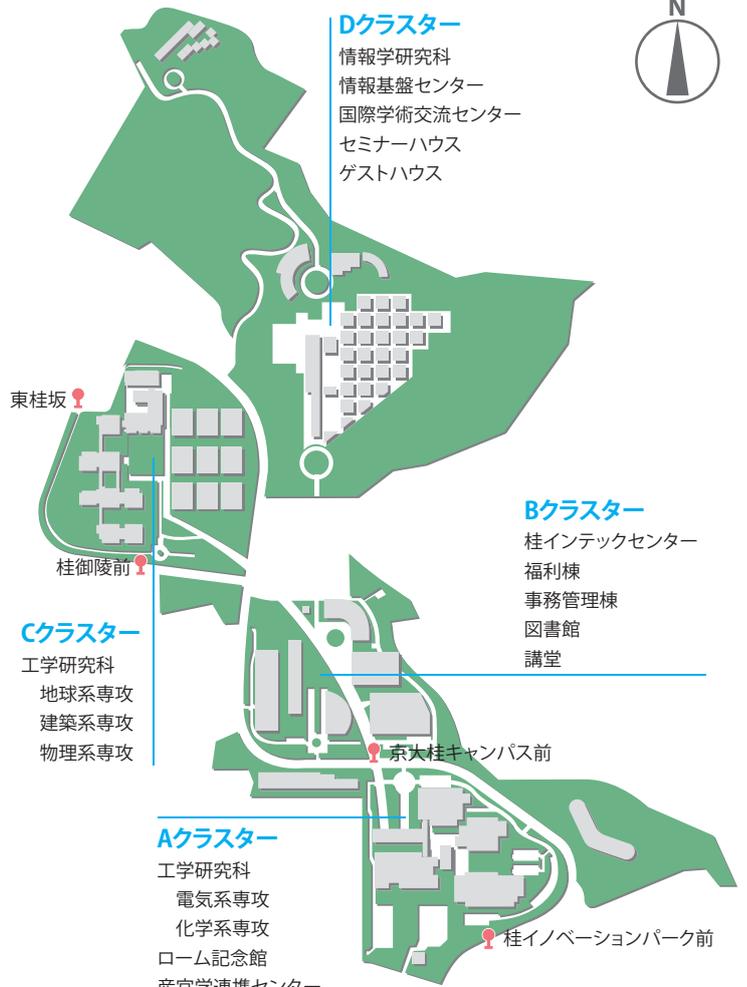
宇治地区研究所本館

- 化学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所



桂キャンパス

*一部計画中の施設を含む



Dクラスター

- 情報学研究科
- 情報基盤センター
- 国際学術交流センター
- セミナーハウス
- ゲストハウス

Bクラスター

- 桂インテックセンター
- 福利棟
- 事務管理棟
- 図書館
- 講堂

Cクラスター

- 工学研究科
- 地球系専攻
- 建築系専攻
- 物理系専攻

Aクラスター

- 工学研究科
- 電気系専攻
- 化学系専攻
- ローム記念館
- 産官学連携センター



Campus Map

京都大学キャンパス配置図



発行 平成 20 年 7 月

京都大学 学生部入試企画課

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2521 ~ 2524

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>